

---

---

# ADVANTEST®

株式会社アドバンテスト

---

R3267 シリーズ OPT08

Rx コントロール・オプション

取扱説明書

MANUAL NUMBER FOJ-8370664C00

---

適用機種

R3264

R3267

R3273

## 本器を安全に取り扱うための注意事項

本器の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、必ずご使用前に取扱説明書をお読み下さい。また、本器の誤った使用、不適切な使用等に起因する運用結果につきましては、当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。

本器の操作・保守等の作業を行う場合、誤った方法で使用すると本器の保護機能がそなわれることがあります。常に安全に心がけてご使用頂くようお願い致します。

### 危険警告ラベル

アドバンテストの製品には、特有の危険が存在する場所に危険警告ラベルが貼られています。取り扱いには十分注意して下さい。また、これらのラベルを破いたり、傷つけたりしないで下さい。また、日本国内で製品を購入し海外で使用する場合は、必要に応じて英語版の危険警告ラベルをお貼り下さい。危険警告ラベルについてのお問い合わせは、当社の最寄りの営業所までお願いします。所在地および電話番号は巻末に記載してあります。

危険警告ラベルのシグナル・ワードとその定義は、以下のとおりです。

- 危険： 死または重度の障害が差し迫っている。
- 警告： 死または重度の障害が起こる可能性がある。
- 注意： 軽度の人身障害あるいは物損が起こる可能性がある。

### 基本的注意事項

火災、火傷、感電、怪我などの防止のため、以下の注意事項をお守り下さい。

電源電圧に応じた電源ケーブルを使用して下さい。ただし、海外で使用する場合は、それぞれの国の安全規格に適合した電源ケーブルを使用して下さい。また、電源ケーブルの上には重いものをのせないで下さい。

電源プラグをコンセントに差し込むときは、電源スイッチを OFF にしてから奥までしっかり差し込んで下さい。

電源プラグをコンセントから抜くときは、電源スイッチを OFF にしてから、電源ケーブルを引っぱらずにプラグを持って抜いて下さい。このとき、濡れた手で抜かないで下さい。

電源投入前に、本器の電源電圧が供給電源電圧と一致していることを確認して下さい。

電源ケーブルは、保護接地端子を備えた電源コンセントに接続して下さい。保護接地端子を備えていない延長コードを使用すると、保護接地が無効になります。

3ピン - 2ピン変換アダプタを使用する場合は、アダプタから出ている接地ピンをコンセントのアース端子に接続し、大地接地して下さい。また、アダプタの接地ピンの短絡に注意して下さい。

電源電圧に適合した規格のヒューズを使用して下さい。

ケースを開けたままで本器を使用しないで下さい。

規定の周囲環境で本器を使用して下さい。

製品の上に物をのせないで下さい。また、花瓶や薬品などの液体の入った容器を製品のそばに置かないで下さい。

通気孔のある製品については、通気孔に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしないで下さい。

台車に載せて使用する場合は、ベルト等によって落下防止を行って下さい。

周辺機器を接続する場合は、本器の電源を切ってから接続して下さい。

#### 取扱説明書中での注意表記

取扱説明書中で使用している注意事項に関するシグナル・ワードとその定義は以下のとおりです。

- 危険： 重度の人身障害（死亡や重傷）の恐れがある注意事項
- 警告： 人身の安全 / 健康に関する注意事項
- 注意： 製品 / 設備の損傷に関する注意事項または使用上の制限事項

#### 製品上の安全マーク

アドバンテストの製品には、以下の安全マークが付いています。



： 取扱い注意を示しています。人体および製品を保護するため、取扱説明書を参照する必要のある場所に付いています。



： アース記号を示しています。感電防止のため機器を使用する前に、接地が必要なフィールド・ワイヤリング端子を示しています。



： 高電圧危険を示しています。1000V 以上の電圧が入力または出力される場所に付いています。



： 感電注意を示しています。

#### 寿命部品の交換について

計測器に使用されている主な寿命部品は以下のとおりです。

交換時期の目安にして下さい。

ただし、製品の使用環境、使用頻度および保存環境により記載の寿命より交換時期が早くなる場合がありますので、ご了承下さい。

なお、ユーザによる交換はできません。交換が必要な場合は、当社または代理店へご連絡下さい。

各製品ごとに個別の寿命部品を使用している場合があります。個別寿命部品については 1 章を参照して下さい。

主な寿命部品と寿命

部品名称	寿命
ユニット電源	5年
ファン・モータ	5年
電解コンデンサ	5年
液晶ディスプレイ	6年
液晶ディスプレイ用バックライト	2.5年
フロッピー・ディスク・ドライブ	5年

ハード・ディスク搭載製品について  
使用上の留意事項を以下に示します。

本器は、電源が入った状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えないで下さい。  
ハード・ディスクの内部は、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っているため、非常にデリケートです。

本器は、以下の条件に合う場所で使用および保管をして下さい。  
 極端な温度変化のない場所  
 衝撃や振動のない場所  
 湿気や埃・粉塵の少ない場所  
 磁石や強い磁界の発生する装置から離れた場所

重要なデータは、必ずバックアップを取っておいて下さい。  
 取扱方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。また、使用条件によりますが、ハード・ディスクには、その構造上、寿命があります。  
 なお、消失したデータ等の保証は、いたしかねますのでご了承下さい。

本器の廃棄時の注意

製品を廃棄する場合、有害物質は、その国の法律に従って適正に処理して下さい。

有害物質： (1) PCB (ポリ塩化ビフェニール)  
 (2) 水銀  
 (3) Ni-Cd (ニッケル - カドミウム)  
 (4) その他

シアン、有機リン、六価クロムを有する物およびカドミウム、鉛、砒素を溶出する恐れのある物 (半田付けの鉛は除く)

例： 蛍光管、バッテリー

使用環境

本器は、以下の条件に合う場所に設置して下さい。

腐食性ガスの発生しない場所  
 直射日光の当たらない場所  
 埃の少ない場所  
 振動のない場所  
 最大高度 2000 m

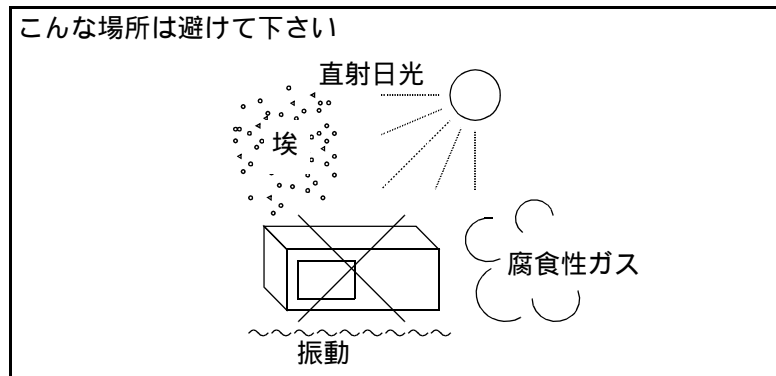


図 -1 使用環境

設置姿勢

本器は、必ず水平状態で使用して下さい。  
背面パネルには吐き出しタイプの冷却ファンがあり、側面に通気孔があります。内部温度上昇は、測定確度に関係するので、このファンや通気孔をふさがらないで下さい。

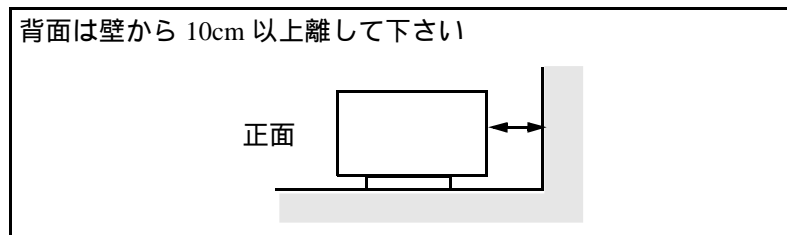


図 -2 設置

保管姿勢

本器は、なるべく水平状態で保管して下さい。  
本器を立てた状態で保管する場合、または運搬時、一時的に立てた状態で置く場合、転倒しないよう注意して下さい。衝撃・振動により転倒する恐れがあります。

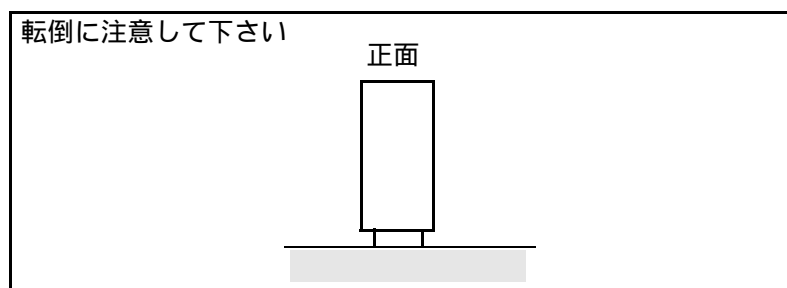


図 -3 保管

IEC61010-1 で定義される設定カテゴリおよび汚染度の分類は、以下のとおりです。

設置カテゴリ

汚染度 2

## 目次

<b>1. 製品概要</b> .....	1-1
1.1 概要 .....	1-1
<b>2. 使用開始の前に</b> .....	2-1
2.1 付属品の確認 .....	2-1
2.2 R3560、R3561 または R3562 との接続 .....	2-2
2.2.1 R3560 との接続 .....	2-2
2.2.2 R3561 または R3562 との接続 .....	2-3
2.3 シリアル・ポートの設定 .....	2-4
<b>3. R3560 の操作説明</b> .....	3-1
3.1 概要 .....	3-1
3.2 リファレンス .....	3-2
3.2.1 メニュー・インデックス .....	3-2
3.2.2 メニュー・マップ .....	3-3
3.2.3 機能説明 .....	3-4
3.3 測定例 (BER 測定) .....	3-18
<b>4. R3561 の操作説明</b> .....	4-1
4.1 概要 .....	4-1
4.2 リファレンス .....	4-2
4.2.1 メニュー・インデックス .....	4-2
4.2.2 メニュー・マップ .....	4-4
4.2.3 機能説明 .....	4-6
4.2.4 初期設定値 .....	4-18
<b>5. R3562 の操作説明</b> .....	5-1
5.1 概要 .....	5-1
5.2 リファレンス .....	5-4
5.2.1 メニュー・インデックス .....	5-4
5.2.2 メニュー・マップ .....	5-6
5.2.3 機能説明 .....	5-9
5.3 測定例 .....	5-29
<b>6. R3562 OPT65 (cdma2000) の操作説明</b> .....	6-1
6.1 概要 .....	6-1
6.2 リファレンス .....	6-3
6.2.1 メニュー・インデックス .....	6-3
6.2.2 メニュー・マップ .....	6-6
6.2.3 機能説明 .....	6-11
6.3 設定例 .....	6-50
索引 .....	I-1

## 図一覽

図番号	名 称	ページ
2-1	R3267 シリーズと R3560 との接続図 (背面パネル) .....	2-2
2-2	R3267 シリーズと R3560 との接続図 (正面パネル) .....	2-2
2-3	R3267 シリーズと R3561 または R3562 との接続図 (背面パネル) .....	2-3
2-4	シリアル・ポート選択画面 .....	2-4
3-1	初期画面 .....	3-1
3-2	初期画面 (R3560 モード) .....	3-1
3-3	BER 測定画面 .....	3-5
3-4	BER 測定ダイアログ・ボックス画面 .....	3-5
3-5	受信感度測定画面 .....	3-7
3-6	受信感度測定パラメータ設定用ダイアログ・ボックス画面 .....	3-7
3-7	SETUP 画面 .....	3-9
3-8	Burst Trigger 入力信号 - RF 信号出力のタイミング .....	3-11
3-9	SLOT 設定画面 .....	3-12
3-10	セーブ操作画面 .....	3-16
3-11	BER 測定画面 (Sync error 発生時) .....	3-17
3-12	BER 測定接続図 .....	3-18
4-1	初期画面 .....	4-1
4-2	初期画面 (R3561 モード) .....	4-1
4-3	General ダイアログ画面 .....	4-6
4-4	Frame A ダイアログ画面 .....	4-9
4-5	Edit Menu ダイアログ画面 .....	4-10
4-6	Freq Para. ダイアログ画面 .....	4-11
4-7	Level Para. ダイアログ画面 .....	4-12
4-8	Other 画面 .....	4-13
4-9	Clock ダイアログ画面 .....	4-13
4-10	Cal/Self Test 画面 .....	4-15
4-11	Save/Recall 表示画面 .....	4-16
5-1	初期画面 (R3562 標準仕様時) .....	5-1
5-2	初期画面 (R3562 OPT65 搭載時) .....	5-2
5-3	R3562 コントロール・メイン画面 (3GPP) .....	5-3
5-4	BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-9
5-5	Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-10
5-6	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Downlink のとき) .....	5-11
5-7	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Uplink のとき) .....	5-11
5-8	STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-16
5-9	DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Downlink のとき) .....	5-17
5-10	DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Downlink のとき) .....	5-18
5-11	DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Uplink のとき) .....	5-20
5-12	DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Uplink のとき) .....	5-21
5-13	Ext Trigger Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-23
5-14	Frequency Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-23
5-15	Level Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-24
5-16	Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-25

## 図一覧

図番号	名 称	ページ
5-17	External I/Q Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-26
5-18	Save Register List ダイアログ・ボックス .....	5-27
5-19	Recall Register List ダイアログ・ボックス .....	5-27
5-20	DUT の接続 .....	5-29
5-21	STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-30
5-22	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-31
5-23	DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-32
5-24	BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	5-33
5-25	ビット・エラー・レート測定結果 .....	5-33
6-1	初期画面 .....	6-1
6-2	R3562 コントロール・メイン画面 (cdma2000) .....	6-2
6-3	BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-11
6-4	Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-12
6-5	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC1, RC2 時 > .....	6-14
6-6	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC3, RC4 時 > .....	6-15
6-7	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC1, RC2 時 > .....	6-19
6-8	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC3/RC4/RC5 時 > ....	6-22
6-9	STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-25
6-10	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC1 時 > .....	6-25
6-11	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC2 時 > .....	6-25
6-12	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC3 時 > .....	6-26
6-13	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC4 時 > .....	6-27
6-14	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC1 時 > .....	6-28
6-15	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC2 時 > .....	6-29
6-16	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC3 時 > .....	6-30
6-17	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC4 時 > .....	6-31
6-18	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Forward: RC5 時 > .....	6-31
6-19	Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-33
6-20	PICH Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-34
6-21	DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-34
6-22	Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-35
6-23	Traffic Channel B Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-36
6-24	Traffic Channel C Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-37
6-25	Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-38
6-26	Traffic Channel B Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-39
6-27	Traffic Channel C Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-40
6-28	Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-41
6-29	Traffic Channel B Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-42
6-30	Traffic Channel C Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-43
6-31	Frequency Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-44
6-32	Level Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-44
6-33	Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-45
6-34	External I/Q Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-47
6-35	Save Register List ダイアログ・ボックス .....	6-48
6-36	Recall Register List ダイアログ・ボックス .....	6-48
6-37	DUT の接続 .....	6-50
6-38	STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-51



図番号	名 称	ページ
6-39	Clock/Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-51
6-40	General Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-52
6-41	Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC1 時 > .....	6-53
6-42	Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス .....	6-54

## 表一覧

表番号	名称	ページ
2-1	標準付属品 .....	2-1
3-1	システム・モードおよびレート設定により規定された時間 .....	3-11
3-2	Burst Trigger 機能が有効な設定条件 .....	3-11
3-3	SACCH 設定可能範囲 .....	3-13
3-4	スクランブル・パターン設定可能範囲 .....	3-14
3-5	同期ワード・パターンの設定値 .....	3-15
4-1	チャンネル・シグナル説明 .....	4-9
4-2	CDMA フレーム・クロックの種類 .....	4-14
4-3	プリセット時の設定値 / 選択値 (1/2) .....	4-18
4-3	プリセット時の設定値 / 選択値 (2/2) .....	4-19
6-1	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1 .....	6-18
6-2	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2 .....	6-19
6-3	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1 .....	6-21
6-4	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2 .....	6-21
6-5	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1 .....	6-24
6-6	出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2 .....	6-24

## 1. 製品概要

この章では、本オプションの概要を説明しています。

### 1.1 概要

本オプションは、スペクトラム・アナライザ R3267 シリーズと、レシーバ・テスト用の R3560、R3561 または R3562 を接続したとき、R3267 シリーズのパネルから、R3560、R3561 または R3562 の設定や、測定を可能とするオプションです。

《特長》

- (1) R3267 シリーズの正面パネルから R3560、R3561 または R3562 の各種設定を行うことができます。

設定可能なパラメータ：

周波数、レベル、モジュレーション・タイプなど

- (2) R3267 シリーズの正面パネルから R3560、R3561 または R3562 の測定を実行できます。また、測定結果を R3267 シリーズのディスプレイに表示できます。

---

#### 注意

1. 本オプションでは、R3560、R3561 または R3562 の GPIB コードはサポートしていません。また、本オプションは専用の GPIB コマンドは提供していません。したがって、R3267 シリーズの GPIB ポートから R3560、R3561 または R3562 の GPIB コマンドを用いて R3560、R3561 または R3562 をコントロールすること、また本オプションの機能を GPIB からコントロールすることはできません。外部のパーソナル・コンピュータを用いて R3267 シリーズと、R3560、R3561 または R3562 を GPIB からコントロールする場合には、各 GPIB ポートは外部コンピュータと接続し、それぞれ個別にコントロールして下さい。
  2. R3560 は、バージョンによりサポートされていない機能があります。ご使用前に、営業所等に確認して下さい。
-

## 2. 使用開始の前に

この章では、付属品の確認や R3560、R3561 または R3562 との接続について説明しています。使用する前に必ずお読み下さい。

### 2.1 付属品の確認

標準付属品の数量および規格を表 2-1 にしたがって確認して下さい。

表 2-1 標準付属品

品名	型名	数量	備考
R3560 インタフェース・ケーブル	A01274	1	
R3267 シリーズ OPT08 取扱説明書	JR3267OPT08	1	和文

お願い

付属品の追加ご注文などには、型名でご用命下さい。

## 2.2 R3560、R3561 または R3562 との接続

### 2.2.1 R3560 との接続

(1) 背面パネルの接続

R3267 シリーズの SERIAL I/O コネクタと、R3560 の SERIAL I/O コネクタを図 2-1 のように接続します。

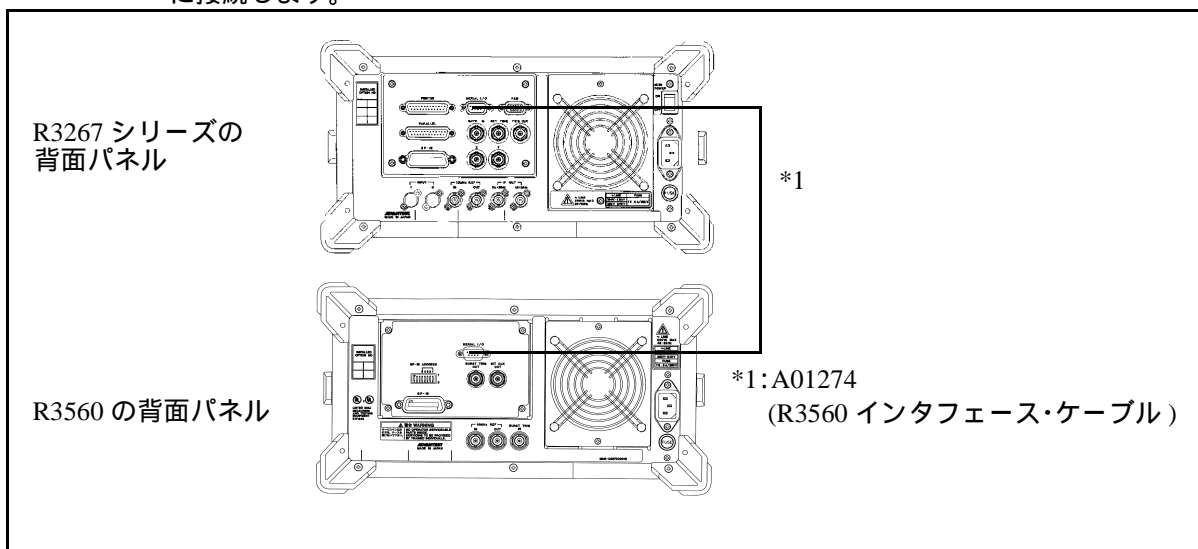


図 2-1 R3267 シリーズと R3560 との接続図 (背面パネル)

(2) 正面パネルの接続

R3267 シリーズの INPUT 50Ω 端子と、R3560 の TO ANALYZER 50Ω 端子を図 2-2 のように接続します。

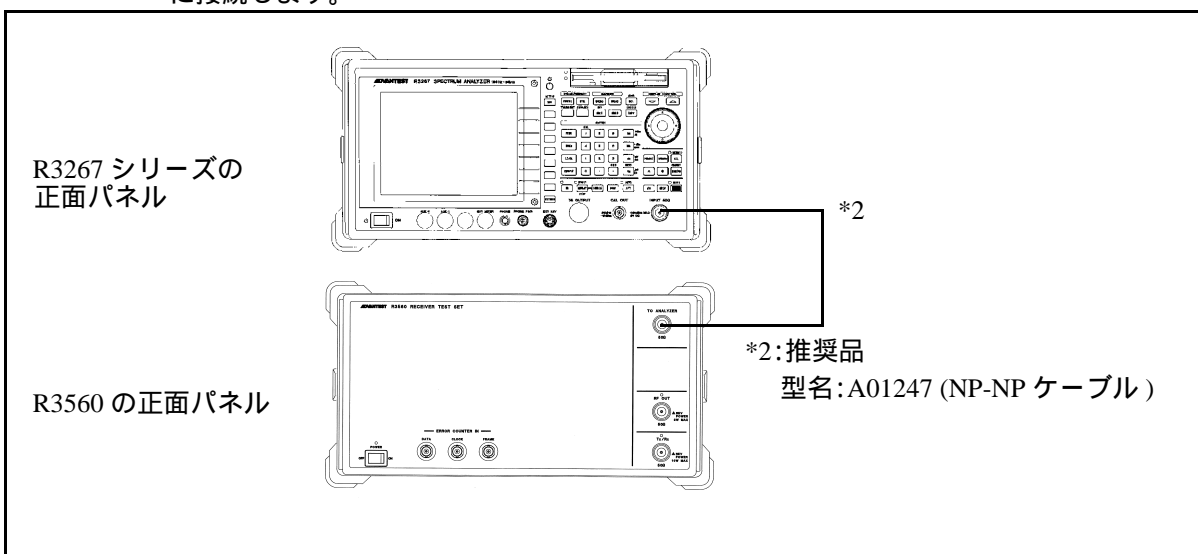


図 2-2 R3267 シリーズと R3560 との接続図 (正面パネル)

### 2.2.2 R3561 または R3562 との接続

接続は、背面パネルのみです。

R3267 シリーズの SERIAL I/O コネクタと、R3561 または R3562 の SERIAL I/O コネクタを図 2-3 のように接続します。

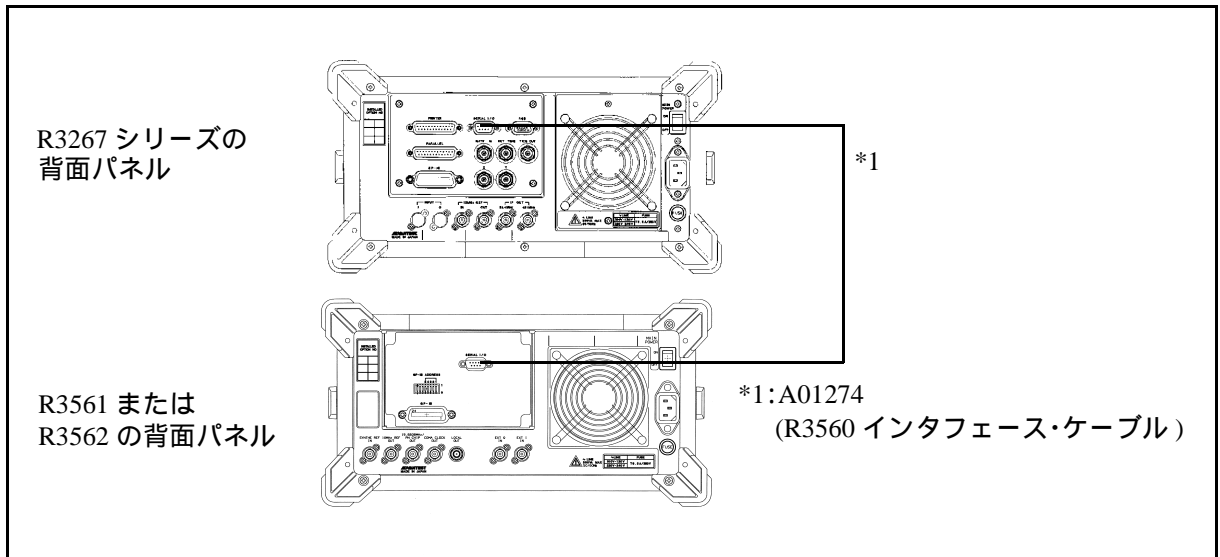


図 2-3 R3267 シリーズと R3561 または R3562 との接続図 (背面パネル)

## 2.3 シリアル・ポートの設定

## 2.3 シリアル・ポートの設定

CONFIG, RS232 と押すと、シリアル・ポートの設定メニューが表示されます。OPT08 を使用する場合、Rx Control が選択されていることを確認して下さい。他のモードが選択されている場合は、Rx Control に設定して下さい。

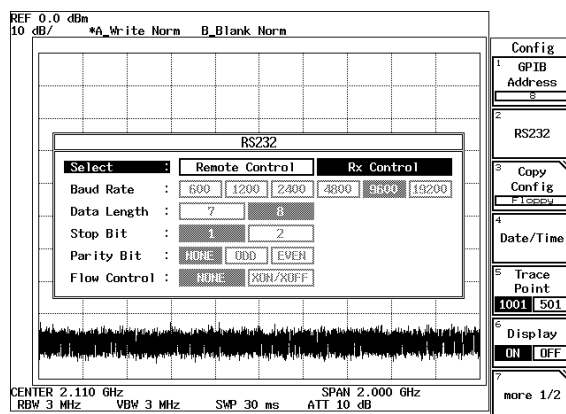


図 2-4 シリアル・ポート選択画面

### 3. R3560 の操作説明

この章では、R3560 の操作方法をキーの機能ごとに説明しています。

#### 3.1 概要

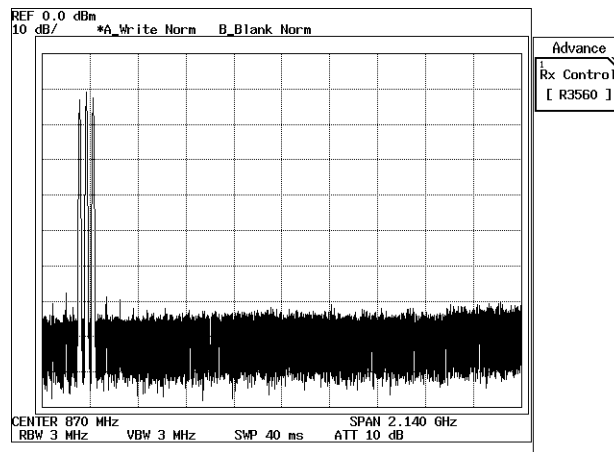


図 3-1 初期画面

R3560 の操作メニューは、ADVANCE の下に配置されます。

ADVANCE, *Rx Control [R3560]* と押すと、R3267 シリーズは、R3560 コントロール・モードとなり、図 3-2 の初期画面が表示され、以降 R3560 の設定および測定が可能となります。

このモードでは、FREQ と LEVEL を除き、ソフト・キーやダイアログ・ボックスでの操作のみ有効となります。通常の操作モードで使用できる SPAN などの操作はできません。

このモードから通常の操作モードに戻るには、POWER、UTIL、TRANSIENT または *Quit* を押して下さい。

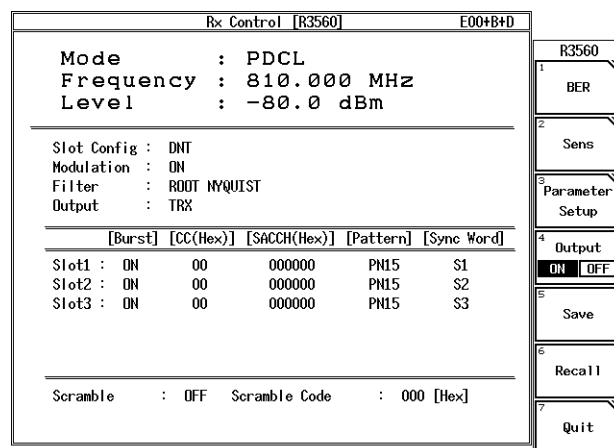


図 3-2 初期画面 (R3560 モード)



## 3.2 リファレンス

## 3.2 リファレンス

ここでは、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス: 3章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ: パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明: パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

この章は、パネル・キーをアルファベット順にソートしています。

## 3.2.1 メニュー・インデックス

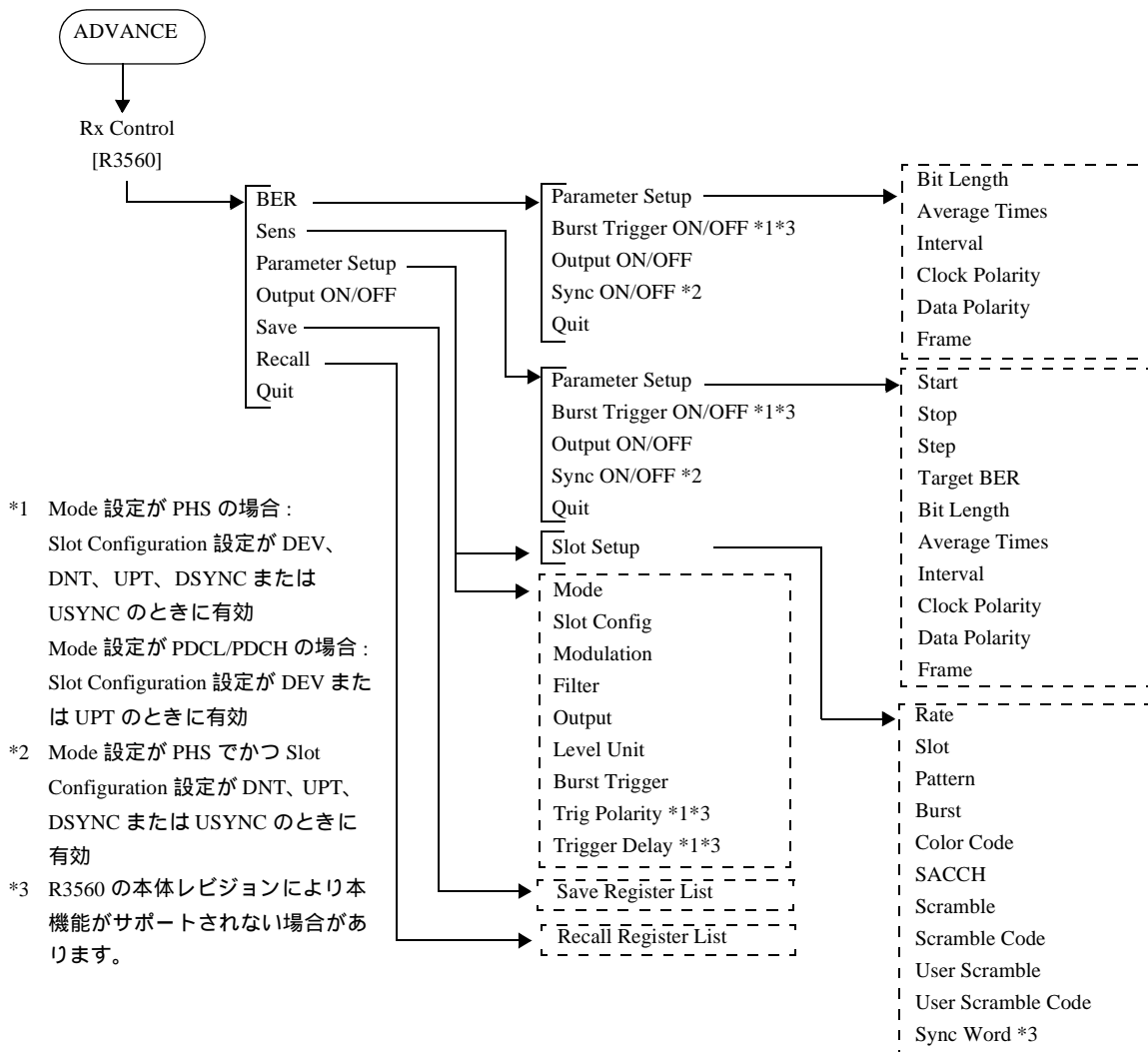
このメニュー・インデックスは、3章のキー索引として活用して下さい。

<u>操作キー</u>	<u>参照ページ</u>	<u>操作キー</u>	<u>参照ページ</u>
Average Times.....	3-3, 3-6, 3-8	Scramble Code.....	3-3, 3-14
BER.....	3-3, 3-5	Recall.....	3-3, 3-17
CS.....	3-14	Recall Register List.....	3-3
Bit Length.....	3-3, 3-6, 3-8	Sens.....	3-3, 3-7
Clock Polarity.....	3-3, 3-6, 3-8	Slot.....	3-3, 3-12
Color Code.....	3-3, 3-13	Slot Config.....	3-3, 3-10
Burst.....	3-3, 3-13	Slot Setup.....	3-3, 3-12
Burst Trigger.....	3-3, 3-10	Start.....	3-3, 3-8
Burst Trigger ON/OFF.....	3-3, 3-6	Step.....	3-3, 3-8
Data Polarity.....	3-3, 3-6, 3-8	Stop.....	3-3, 3-8
Filter.....	3-3, 3-10	Rx Control [R3560].....	3-3
Frame.....	3-3, 3-6, 3-8	Sync ON/OFF.....	3-3, 3-6, 3-9
Interval.....	3-3, 3-6, 3-8	Sync Word.....	3-3, 3-15
Level Unit.....	3-3, 3-10	Target BER.....	3-3, 3-8
Mode.....	3-3, 3-9	User Scramble.....	3-3, 3-14
Modulation.....	3-3, 3-10	User Scramble Code.....	3-3, 3-14
Output.....	3-3, 3-10	Trig Polarity.....	3-3, 3-10
Output ON/OFF.....	3-3, 3-6, 3-8, 3-15	Trigger Delay.....	3-3, 3-11
PS.....	3-14		
Parameter Setup.....	3-3, 3-5, 3-7, 3-9		
Pattern.....	3-3, 3-12		
Quit.....	3-3, 3-6, 3-9		
SACCH.....	3-3, 3-13		
Rate.....	3-3, 3-12		
Save.....	3-3, 3-16		
Save Register List.....	3-3		
Scramble.....	3-3, 3-13		

### 3.2.2 メニュー・マップ

R3560 使用時の ADVANCE キーのソフト・メニュー一覧を以下に示します。

注      は、パネル・キーを示します。  
     は、ダイアログ・ボックスを示します。  
 その他は、ソフト・メニューを示します。



## 3.2 リファレンス

## 3.2.3 機能説明

## (1) 出力周波数設定

**FREQ**

出力周波数の設定を行います。  
設定可能な周波数は、システム・モードにより異なります。

PDCL: PDC 800MHz 帯

PDCH: PDC 1.5GHz 帯

DNT: 下り通信チャンネル

UPT: 上り通信チャンネル

PHS: 1.9GHz 帯

## (2) 出力レベル設定

**LEVEL**

出力レベルの設定を行います。  
RF 端子、Tx/Rx 端子でそれぞれ出力できる最大出力レベルが異なります。

端子	最大出力	最小出力	出力ステップ
Tx/Rx	-7dBm	-125dBm	0.1dB
RF	+6dBm	-125dBm	0.1dB

## (3) BER 測定

SINGLE または REPEAT (START/STOP) により測定が開始されます。測定を中断する場合には、REPEAT (START/STOP) を押して下さい。

**BER**

BER (ビット・エラー・レート) 測定モードに入ります。

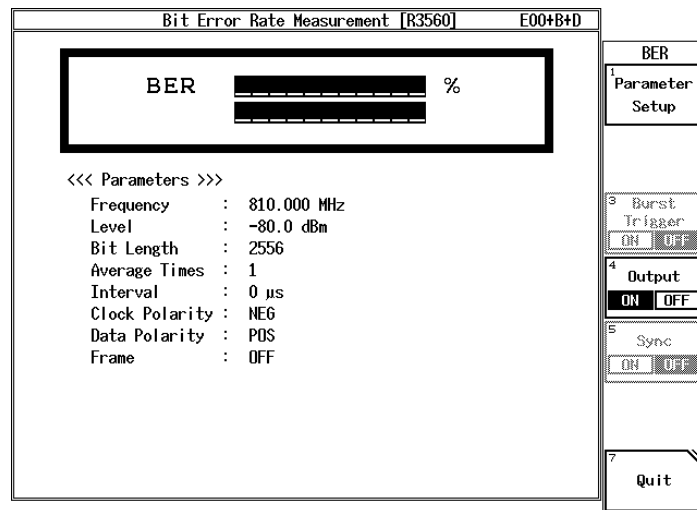


図 3-3 BER 測定画面

**Parameter Setup**

BER 測定のパラメータ設定用ダイアログ・ボックスが表示され、ビット長やアベレージ回数などの設定が行えます。

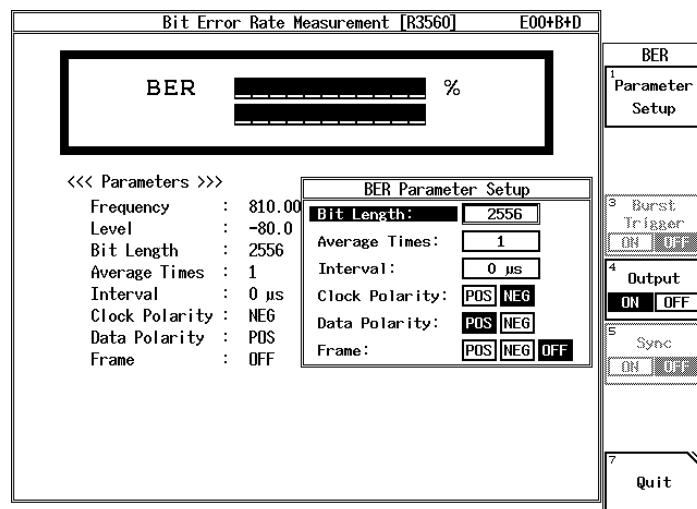


図 3-4 BER 測定ダイアログ・ボックス画面

## 3.2 リファレンス

<b>Bit Length</b>	BER 測定の時間をビット長で設定します。 ビット長の設定範囲は、1000 ~ 1000000 ビットです。
<b>Average Times</b>	測定のアベレージ回数を設定します。 アベレージ回数の設定範囲は、1 ~ 32 回です。
<b>Interval</b>	R3560 が本器からの測定開始を受け、実際に測定を開始するまでのインターバル時間を設定します。 アベレージ測定が指定されている場合には、測定終了から次の測定を開始するまでのインターバル時間としても使用されます。詳細は R3560 取扱説明書を参照して下さい。 インターバル時間の設定範囲は 0.00 秒 ~ 1.00 秒で、0.01 秒 (10m 秒) ステップで設定可能です。
<b>Clock Polarity</b>	BER クロック端子からの信号の立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジのどちらでデータを捕らえるかを選択します。  POS: 立ち上がり NEG: 立ち下がり
<b>Data Polarity</b>	BER DATA 端子データを反転するか、しないかを選択します。  POS: 正論理 (反転しない) NEG: 負論理 (反転する)
<b>Frame</b>	TCH フレームのタイミング制御を行います。FRAME 端子より入力される TCH フレーム・タイミング信号を BER 測定に使用するか、しないかを選択します。 使用する場合は、TCH フレーム・タイミングの論理を指定します。  OFF: 使用しない POS: 正論理 NEG: 負論理

**Burst Trigger ON/OFF**

Burst Trigger 機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

**Output ON/OFF**

出力端子へ信号出力の ON/OFF を切り換えます。

**Sync ON/OFF**

PHS の周期バースト出力の ON/OFF を切り換えます。  
システム・モードが PHS、スロット・パターンが DNT/UPT のときのみ操作可能です。ON に設定すると、対応する周期バースト・フレームが出力され続けます。OFF に設定すると、周期バースト・フレームの出力が中止されます。

**Quit**

BER 測定モードから抜けます。

## (4) 受信感度 (センス) 測定

SINGLE または REPEAT(START/STOP) により測定が開始されます。測定を中断する場合には、REPEAT(START/STOP) を押して下さい。

*Sens*

受信感度 (センス) 測定モードに入ります。

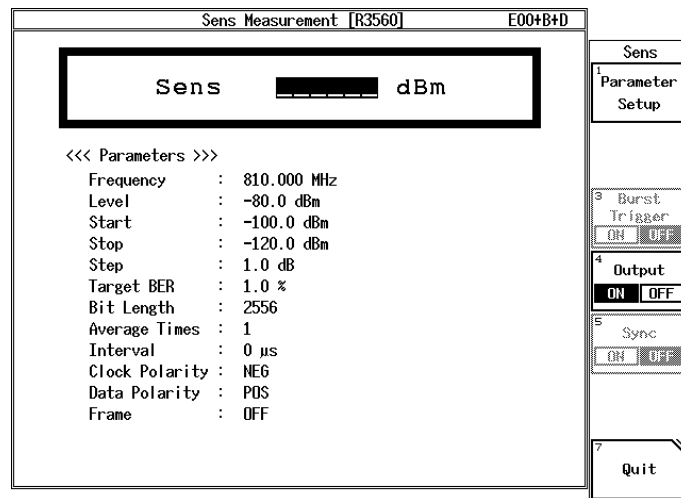


図 3-5 受信感度測定画面

*Parameter Setup*

受信感度測定パラメータを設定するダイアログ・ボックスが表示され、受信感度測定を開始する出力レベルなどの設定を行います。

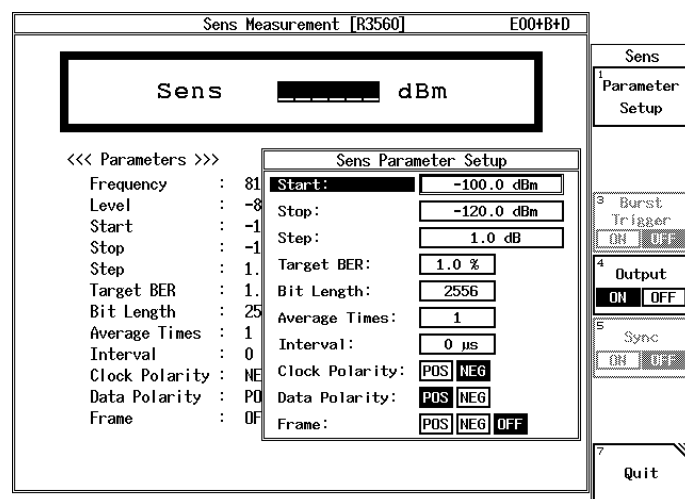


図 3-6 受信感度測定パラメータ設定用ダイアログ・ボックス画面

## 3.2 リファレンス

<b>Start</b>	受信感度測定を開始する出力レベル（サーチ上限値）を設定します。 サーチ上限値とサーチ下限値の関係は <b>サーチ上限値 &gt; サーチ下限値</b> でなければなりません。
<b>Stop</b>	受信感度測定を終了する出力レベル（サーチ下限値）を設定します。
<b>Step</b>	出力レベルの変化幅を設定します。
<b>Target BER</b>	サーチを行う BER のポイントを指定します。サーチ・ポイントの設定範囲は 0% ~ 5% で、0.1% ステップで設定可能です。
<b>Bit Length</b>	BER 測定を行うときの時間をビット長で設定します。設定範囲は 1000 ~ 1000000 ビットです。
<b>Average Times</b>	BER 測定を行うときのアベレージ回数を設定します。アベレージ回数設定は、1 ~ 32 回です。
<b>Interval</b>	BER 測定を行うときの R3560 のインターバル時間を設定します。設定範囲は 0.00 秒 ~ 1.00 秒で、0.01 秒 (10m 秒) ステップで設定可能です。
<b>Clock Polarity</b>	BER 測定を行うときの BER クロック端子からの信号の立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジのどちらでデータを捕らえるかを選択します。 POS: 立ち上がり NEG: 立ち下がり
<b>Data Polarity</b>	BER 測定を行うときの BER DATA 端子データを反転するかしないかを選択します。 POS: 正論理（反転しない） NEG: 負論理（反転する）
<b>Frame</b>	BER 測定を行うときの TCH フレームのタイミング制御を行います。FRAME 端子より入力される TCH フレーム・タイミング信号を BER 測定に使用するか、しないかを選択します。使用する場合は、TCH フレーム・タイミングの論理を指定します。 OFF: 使用しない POS: 正論理 NEG: 負論理

**Burst Trigger ON/OFF**

Burst Trigger 機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

**Output ON/OFF**

出力端子へ信号出力の ON/OFF を切り換えます。

**Sync ON/OFF**

PHS の周期バースト出力の ON/OFF を切り換えます。  
システム・モードが PHS、スロット・パターンが DNT/UPT のときのみ操作可能です。ON に設定すると、対応する周期バースト・フレームが出力され続けます。OFF に設定すると、周期バースト・フレームの出力が中止されます。

**Quit**

受信感度測定モードから抜けます。

## (5) システム・モード、スロット設定

R3560 のシステム・モードやスロット・コンフィギュレーションなどの設定を行います。

**Parameter Setup**

画面上にシステム・モード、スロット・コンフィギュレーションなどの設定を行うためのダイアログ・ボックスが表示されます。

**\* ダイアログ・ボックスの操作**

設定項目や設定パラメータを選択する操作は、R3267 シリーズの標準のダイアログ・ボックス操作と同様にデータ・ノブとステップ・キーで行います。

The screenshot shows the 'Rx Tester Parameter Setup' dialog box. The 'Mode' section has buttons for PDCL, PDCH, and PHS. The 'Slot Config' section has buttons for FIL, DEV, DNT, and UPT. The 'Modulation' section has buttons for ON and OFF. The 'Filter' section has buttons for ROOT NYQUIST and NYQUIST. The 'Output' section has buttons for TRX and RF. The 'Level Unit' section has buttons for dBm and dBuVemf. The 'Burst Trigger' section has buttons for ON and OFF. The 'Trig Polarity' section has buttons for POS and NEG. The 'Trigger Delay' section has a text input field and a [Symbol] button. Below these sections is a table with the following data:

	[Burst]	[CC(Hex)]	[SACCH(Hex)]	[Pattern]	[Sync Word]
Slot1 :	ON	00	000000	PN15	S1
Slot2 :	ON	00	000000	PN15	S2
Slot3 :	ON	00	000000	PN15	S3

At the bottom of the dialog, there is a 'Scramble' section with the following text: Scramble : OFF Scramble Code : 000 [Hex].

図 3-7 SETUP 画面

**Mode**

R3560 のシステム・モードを設定します。

PDCL: PDC システム 800MHz 帯

PDCH: PDC システム 1.5GHz 帯

PHS: PHS システム



<b>Slot Config</b>	<p>スロットのパターンを設定します。</p> <p>FIL: FILL パターン  DEV: デバイス評価用フレーム  DNT: 下り通信用物理チャンネル (スロット)・フレーム  UPT: 上り通信用物理チャンネル (スロット)・フレーム  DSYNC: 下り同期バースト・フレーム (PHS のみ)  USYNC: 上り同期バースト・フレーム (PHS のみ)</p>
<b>Modulation</b>	<p>出力の変調 / 無変調の切り換えを行います。</p> <p>ON: 変調信号 (<math>\pi/4</math> DQPSK)  OFF: 無変調信号 (CW)</p>
<b>Filter</b>	<p>ベースバンド・フィルタの切り換えを行います。</p> <p>ROOT NYQUIST:  ルートナイキスト・フィルタ  NYQUIST:  ナイキスト・フィルタ</p>
<b>Output</b>	<p>信号出力端子の切り換えを行います。</p> <p>TRX: Tx/Rx 端子  RF: RF 端子</p>
<b>Level Unit</b>	<p>信号レベルの設定、表示単位の選択を行います。</p> <p>dBm: レベル単位を dBm に設定  dB<math>\mu</math>Vemf:  レベル単位を dB<math>\mu</math>Vemf に設定</p>
<b>Burst Trigger (*1)</b>	<p>Burst Trigger 機能を有効にするか、無効にするかを選択します。この設定は、BER/SENS 測定画面のソフトキー・メニューからでも設定可能です。</p> <p>ON: Burst Trigger 機能有効  OFF: Burst Trigger 機能有効</p>
<b>Trig Polarity</b>	<p>R3560 の Burst Trigger in 端子の入力信号の立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジのどちらを有効にするかを選択します。</p> <p>POS: 立ち上がりエッジを選択  NEG: 立ち下がりエッジを選択</p>

\*1: R3560 の Burst Trigger in 端子の入力信号に同期して、R3560 の RF 信号の出力タイミングを制御します。この機能は、モジュレーションが ON 状態で、かつシステム・モードおよびスロット・コンフィギュレーションの設定が表 3-2 に示す設定のときに有効となります。

**Trigger Delay** R3560 の Burst Trigger in 端子の入力信号からのディレイをシンボル単位で設定します。Burst Trigger in 端子に有効な信号を捕らえると、システム・モードおよびレートの設定により規定された時間：T（表 3-1、図 3-8 を参照）を基点にし、 $\pm 10$  シンボルの範囲（分解能 0.1 シンボル）でディレイが可変可能です。

表 3-1 システム・モードおよびレート設定により規定された時間

システム・モード	レート設定	システム・モードにより規定された時間：T
PDCL/PDCH	FULL	20[ms]
	HALF	40[ms]
PHS		5[ms]

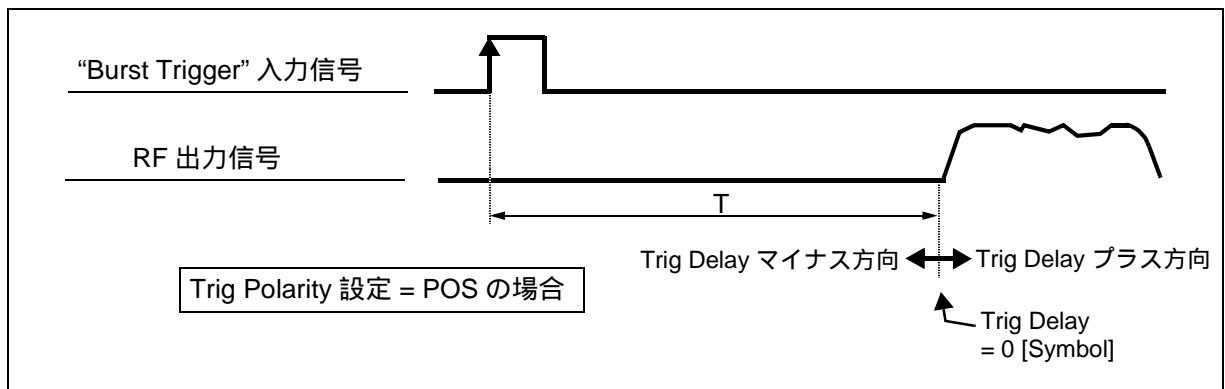


図 3-8 Burst Trigger 入力信号 - RF 信号出力のタイミング

表 3-2 Burst Trigger 機能が有効な設定条件

システム・モード設定	スロット・コンフィギュレーション設定					
	FIL	DEV	DNT	UPT	DSYNC	USYNC
PDCL	×	○	×	○	設定なし	
PDCH			○			
PHS			○		○	○

○：有効 ×：無効

*Slot Setup*

スロット内の変調パターンや、通信レートを設定するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

Slot Parameter Setup					
Rate:	FULL		HALF		
Slot:	SLOT1	SLOT2	SLOT3		
Pattern:	PN9	PN15	ALL0	ALL1	
Burst:	ON OFF				
Color Code:	00	[Hex]			
SACCH:	000000 [Hex]				
Scramble:	ON OFF		Scramble Code: 000 [Hex]		
Sync Word:	S1	S2	S3	S4	S5
	S7	S8	S9	S10	S11
	S12				
Slot1 :	ON	00	000000	PN15	S1
Slot2 :	ON	00	000000	PN15	S2
Slot3 :	ON	00	000000	PN15	S3
-----					
Scramble :	OFF	Scramble Code :		000	[Hex]

図 3-9 SLOT 設定画面

- Rate** 通信レートの切り換えを行います。  
システム・モードが PDCL/PDCH のときのみ設定可能です。
- FULL: フル・レート  
HALF: ハーフ・レート
- Slot** Pattern、Burst、Color Code、SACCH をどのスロットに対して設定するかを指定します。
- Pattern** ユーザ情報転送チャンネル (PDC: 通信物理用チャンネル) 情報チャンネル I (PHS: 通信用物理スロット) 擬似ランダム・パターン (デバイス評価用フレームまたは連続擬似ランダム・パターン) のパターン選択を行います。
- PN9: PN9 段パターン  
PN15: PN15 段パターン  
ALL0: ALL0 パターン  
ALL1: ALL1 パターン

**Burst** (\*1) Slot の項で選択した現在のスロットの ON/OFF を切り換えます。

ON: スロットを ON 状態にします。

OFF: スロットを OFF 状態にします。

**Color Code** (\*1,\*2)

スロット内のカラー・コードを設定します。  
システム・モードが PDCL/PDCH のときのみ設定可能です。  
設定範囲は、16 進で 0 ~ FF です。

**SACCH** (\*2)

低速付随制御チャンネルを設定します。  
スロット・コンフィギュレーションが DNT/UPT のときのみ設定可能です。  
設定範囲は、16 進で表 3-3 のようになっています。

表 3-3 SACCH 設定可能範囲

システム・モード	スロット・コンフィギュレーション	SACCH の設定範囲	
		最小値	最大値
PDCL/PDCH	下り通信チャンネル :DNT	0 (16 進)	1FFFFFF (16 進)
	上り通信チャンネル :UPT	0 (16 進)	7FFF (16 進)
PHS	下り通信チャンネル :DNT	0 (16 進)	FFFF (16 進)
	上り通信チャンネル :UPT	0 (16 進)	FFFF (16 進)

**Scramble** (\*1) PDC の通信用物理チャンネルおよび PHS の通信用物理スロット、同期バーストにスクランブル制御を行うか否かを設定します。スクランブルがかけられる範囲は、通信システム、上り / 下りなどにより異なります。詳細は、R3560 取扱説明書を参照して下さい。

ON: スクランブル制御を行う

OFF: スクランブル制御を行わない

\*1: スロット・コンフィギュレーションの状態により、設定が制限される場合があります。詳細は、R3560 取扱説明書のスロット・コンフィギュレーションを参照して下さい。

\*2: 入力値は 16 進で行います。16 進による A ~ F の入力は、shift キーを用いて以下のように行います。

入力値	操作
A:	shift → 0
B:	shift → 1
C:	shift → 2
D:	shift → 3
E:	shift → 4
F:	shift → 5

**Scramble Code** (\*2)

スクランブル・パターンを設定します。  
設定可能な範囲は、システム・モードなどにより異なります。

表 3-4 スクランブル・パターン設定可能範囲

システム・モード	設定範囲	
	最小値	最大値
PDCL/PDCH	0 (16 進)	1FF (16 進)
PHS	0 (16 進)	3FF (16 進)

**User Scramble** 通信用物理スロットに対してユーザ・スクランブル制御を行うか否かを設定します。  
システム・モードが PHS のときのみ設定可能です。

ON: ユーザ・スクランブル制御を行う

OFF: ユーザ・スクランブル制御を行わない

**User Scramble Code** (\*2)

通信チャンネルに対してユーザ・スクランブル・コードを設定します。  
ユーザ・スクランブル・コードの設定範囲は、16 進で 0 ~ FFFF です。

**PS** (\*2)

発識別パターンを設定します。  
システム・モードが PHS で、スロット・コンフィギュレーションが USYNC/DSYNC のときのみ設定可能です。  
設定可能な範囲は、16 進で 0 ~ FFFFFFFF です。

**CS** (\*2)

着識別パターンを設定します。  
システム・モードが PHS で、スロット・コンフィギュレーションが USYNC/DSYNC のときのみ設定可能です。  
設定可能な範囲は、16 進で 0 ~ 3FFFFFFFFF です。

\*2: 入力値は 16 進で行います。16 進による A ~ F の入力値は、shift キーを用いて以下のように行います。

入力値	操作
A:	shift → 0
B:	shift → 1
C:	shift → 2
D:	shift → 3
E:	shift → 4
F:	shift → 5

**Sync Word** スロットを指定して同期ワードを変更します。このコマンドはシステム・モードが PDCL または PDCH で、スロット・コンフィギュレーションが UPT または DNT のときに設定可能です。同期ワードの設定値を表 3-5 に示します。

表 3-5 同期ワード・パターンの設定値

同期ワード番号	20 ビット同期ワード・パターン (16 進)	
	DNT	UPT
S1	87A4B	785B4
S2	9D236	62DC9
S3	81D75	7E28A
S4	A94EA	56B15
S5	5164C	AE9B3
S6	4D9DE	B2621
S7	31BAF	CE450
S8	1E56F	E1A90
S9	E712C	18ED3
S10	FBC1F	043E0
S11	8279E	7D861
S12	98908	676F7

(注) S1 ~ S12 は、STD-27 の 20 ビット同期ワード・パターン番号に対応しています。

(6) 出力 ON/OFF 設定

**Output ON/OFF**

出力端子へ信号を出力するか、しないかの設定を行います。

## (7) セーブ操作

現在のすべての設定条件を R3560 のバックアップ・メモリにメモリ番号を指定してセーブします。

**Save**

セーブ操作画面が表示されます。メモリ番号の選択およびセーブ操作の実行はデータ・ノブを使います。

Rx Control [R3560] E00+B+D						
Mode : PDCL						
Frequency : 810.000 MHz						
Level : -80.0 dBm						
Slot Config : DNT						
Modulation : ON						
Filter : ROOT NYQUIST						
Output : TRX						
Save Register List						
No.	Mode	Slot Conf.	Frequency	Level	Output	
1:	PDCL	DNT	810.000MHz	-80.0dBm	ON	
2:	PHS	DNS	1895.150MHz	-80.0dBm	OFF	
3:	PHS	DNS	1895.150MHz	-80.0dBm	OFF	
4:	empty					
5:	PDCH	DEV	1477.001MHz	-100.0dBm	ON	
6:	PDCL	DNT	810.000MHz	-80.0dBm	ON	
7:	empty					
8:	empty					
9:	PHS	DNS	1895.150MHz	-125.0dBm	ON	
10:	PHS	DNS	1895.150MHz	-125.0dBm	ON	

R3560	
1	BER
2	Sens
3	Parameter Setup
4	Output
	ON OFF
5	Save
6	Recall
7	Quit

図 3-10 セーブ操作画面

セーブ操作画面には、R3560 のバックアップ・メモリ内の主な設定値が表示されます。

以下に、この設定値の内容に関して説明をします。

**No. 欄**           メモリ番号を表示します。

**Mode 欄**           システム・モード設定を表示します。

**Slot Conf. 欄**   スロットのパターン設定を表示します。

**Frequency 欄**   出力周波数設定を表示します（周波数単位は MHz 固定です）。

**Level 欄**       出力レベル設定を表示します（出力レベルの単位は dBm 固定です）。

**Output 欄**       出力 ON/OFF 設定を表示します。

**注意** No. 欄に続いて empty が表示されている場合は、このメモリ番号には設定条件がセーブされていないことを意味します。

## (8) リコール操作

R3560 のバックアップ・メモリのメモリ番号を指定して、このメモリのすべての設定条件を再設定します。

**Recall**

リコール操作画面が表示されます。メモリ番号の選択およびリコール操作の実行はデータ・ノブを使います。

リコール操作画面の説明はセーブ操作画面の説明と同様です。

## (9) 測定エラー・メッセージ表示機能

Bit Error Rate 測定（以下 BER 測定）および受信感度測定（以下 SENS 測定）の測定エラー・メッセージ表示機能です。

BER 測定および SENS 測定が正常に行われなかった場合の原因を表示します。測定エラー・メッセージおよびエラー内容は、以下のとおりです。

## 1.Sync error

BER 測定用 DATA 端子より入力されたデータと同期がとれない。

## 2.Clock error

BER 測定 clock 端子にクロックが入力されていない。

## 3.Sens Point is not found

Sens 測定時に指定された BER のポイント (Target BER) が見つからない（このメッセージは Sens 測定時にのみ表示されます）。

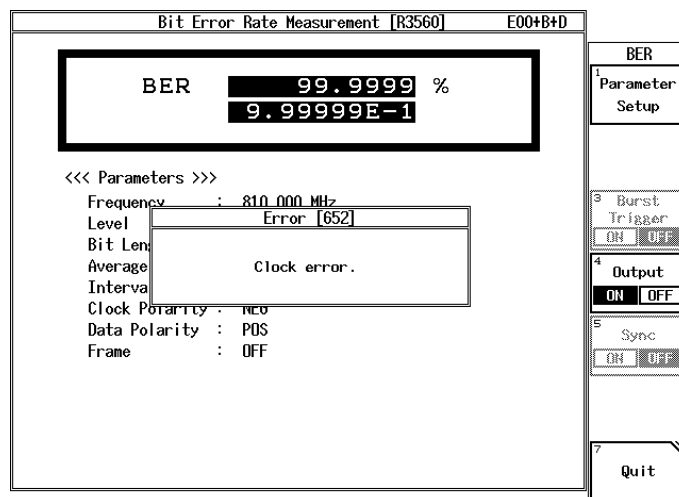


図 3-11 BER 測定画面（Sync error 発生時）



### 3.3 測定例 (BER 測定)

ここでは、下り通信用物理チャンネルの受信が可能な制御モードを持った受信機を対象とした測定例をあげ、操作の概要を説明します。

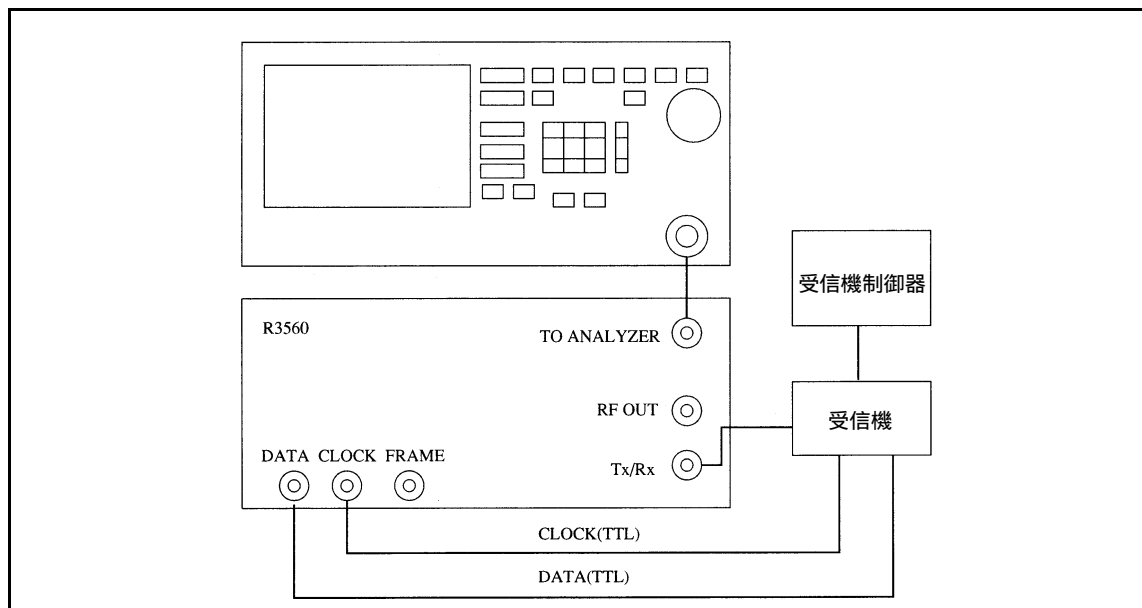


図 3-12 BER 測定接続図

#### 操作手順

1. 図 3-12 のように接続します。
2. **SETUP** を押すと、システム・モード、スロット・コンフィギュレーション設定用ダイアログ・ボックスが現れます。  
このダイアログ・ボックスでは、データ・ノブによる各パラメータの設定値の選択、ステップ・キーによるパラメータ間の移動が行えます。  
一つのパラメータをデータ・ノブで選択した後、その設定を確定するためには、データ・ノブを押すか **Hz** を押します。  
このダイアログ・ボックスを用いてシステム・モードを設定します。同様にスロットのコンフィギュレーションを下り通信用物理チャンネル・フレーム (DNT) に設定します。
3. **SLOT** を押すと、スロット内の設定用ダイアログ・ボックスが現れます。  
このダイアログ・ボックス操作により、測定対象とするスロット番号、スロットの TCH パターン、PN9 段パターンなどを設定します。  
必要に応じ、SACCH やスクランブルなどの設定も行って下さい。  
スロット内の設定が終わったら、**return** を 2 回押し、**Rx Test** メニューのトップの階層までメニューを戻します。

4. **FREQ** を押して、R3560 の周波数を試験したい周波数に設定します。
5. **LEVEL** を押して、R3560 の出力レベルを受信機に適したレベルに設定します。
6. 受信制御器を用いて受信可能なモードに、受信機を設定します。
7. **BER, BER Param** と押すと、BER カウンタの設定用ダイアログ・ボックスが現れます。  
復調データ、復調クロックの極性、アベレージ回数、インターバルなどの設定を行って下さい。
8. **REPEAT** または **SINGLE** を押すと、測定を開始します。

## 4. R3561 の操作説明

この章では、R3561 の操作方法をキーの機能ごとに説明しています。

### 4.1 概要

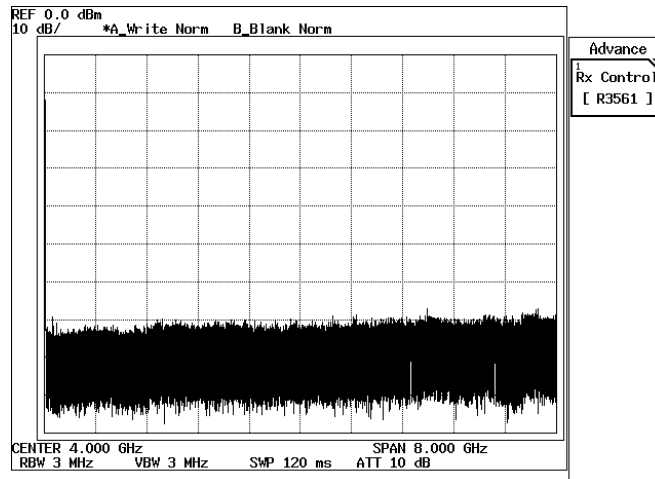


図 4-1 初期画面

R3561 の操作メニューは、ADVANCE キーの下に配置されます。

ADVANCE, *Rx Control*[R3561] と押すと、R3267 シリーズは、R3561 コントロール・モードとなり、図 4-2 の初期画面が表示され、以降 R3561 の設定および測定が可能となります。

このモードでは、FREQ と LEVEL を除き、ソフト・キーやダイアログ・ボックスでの操作のみ有効となります。通常の操作モードで使用できる SPAN などの操作はできません。

このモードから通常の操作モードに戻るには、POWER、UTIL、TRANSIENT または *Quit* を押して下さい。

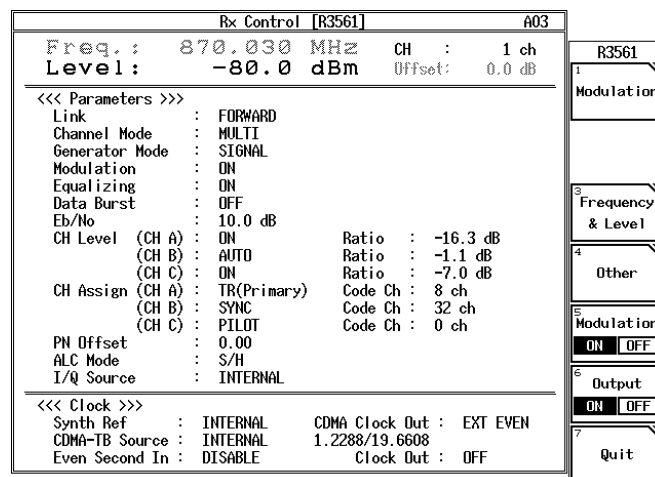


図 4-2 初期画面 (R3561 モード)

## 4.2 リファレンス

## 4.2 リファレンス

ここでは、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス: 4章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ: パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明: パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

この章は、パネル・キーをアルファベット順にソートしています。

## 4.2.1 メニュー・インデックス

このメニュー・インデックスは、4章のキー索引として活用して下さい。

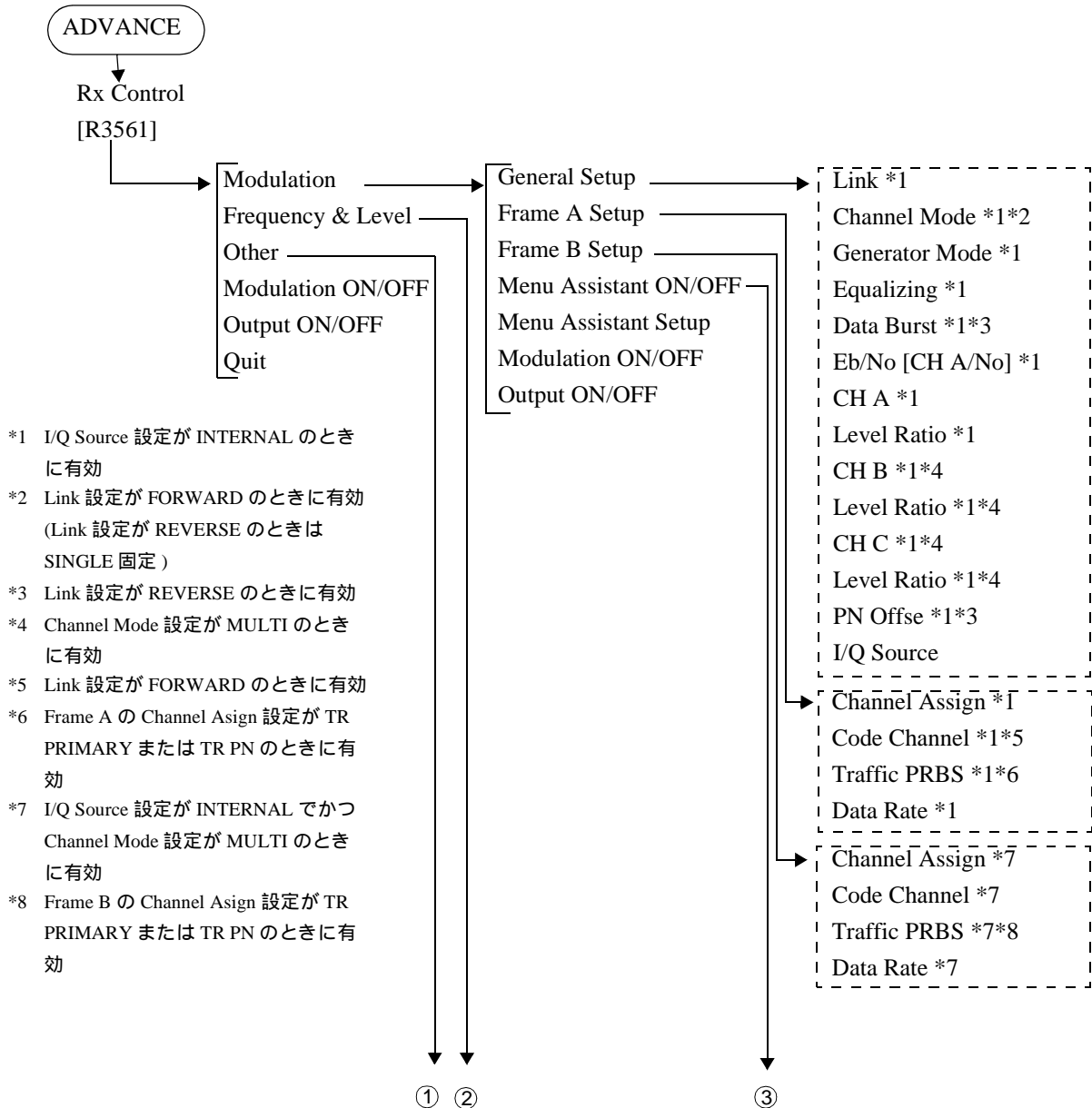
操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
1.2288/19.6608 Clock Out.....	4-5, 4-14	Freq Input.....	4-5, 4-11
10MHz Ref Adj. ....	4-5, 4-14	Frequency & Level .....	4-4, 4-11
ALC Mode .....	4-5, 4-12	Frequency Setup .....	4-5, 4-11
AWGN .....	4-5, 4-15	I/Q Source .....	4-4, 4-5, 4-8
AWGN Cal Corr ON/OFF .....	4-5, 4-15	LEVEL.....	4-6
CDMA Clock Out.....	4-5, 4-14	Menu Assistant ON/OFF .....	4-4, 4-10
CDMA-TB Source .....	4-5, 4-14	Menu Assistant Setup .....	4-4, 4-10
CH A .....	4-4, 4-5, 4-7	Level Offset .....	4-5, 4-12
CH B .....	4-4, 4-5, 4-7	Level Ratio.....	4-4, 4-5, 4-8
CH C .....	4-4, 4-5, 4-7	Level Setup .....	4-5, 4-11
CH Start Freq. ....	4-5, 4-11	Link.....	4-4, 4-5, 4-6
CH Start No. ....	4-5, 4-11	Modulation.....	4-4, 4-6
CH Step Freq. ....	4-5, 4-11	Modulation ON/OFF.....	4-4, 4-5, 4-11, 4-12, 4-17
Cal/Test.....	4-5, 4-14	Modulator.....	4-5, 4-15
Channel Assign.....	4-4, 4-9	Modulator Cal Corr ON/OFF .....	4-5, 4-15
Channel Mode.....	4-4, 4-5, 4-7	Offset Value .....	4-5, 4-12
Clock Setup.....	4-5, 4-13	Other .....	4-4, 4-13
Code Channel.....	4-4, 4-10	Output ON/OFF .....	4-4, 4-5, 4-11, 4-12, 4-17
Data Burst .....	4-4, 4-5, 4-7	PN Offset .....	4-4, 4-5, 4-8
Data Rate.....	4-4, 4-10	Preset.....	4-5, 4-17
Eb/No [CH A/No].....	4-4, 4-5, 4-7	Quit .....	4-4
Equalizing .....	4-4, 4-5, 4-7	Save.....	4-5, 4-16
Even Second In .....	4-5, 4-14	Save Register List.....	4-5
FREQ .....	4-6	Recall .....	4-5, 4-16
General Setup.....	4-4, 4-6	Recall Register List.....	4-5
Generator Mode .....	4-4, 4-5, 4-7	Self Test .....	4-5, 4-16
Frame A Setup .....	4-4, 4-8	Step Size .....	4-5, 4-11, 4-12
Frame B Setup .....	4-4, 4-8		

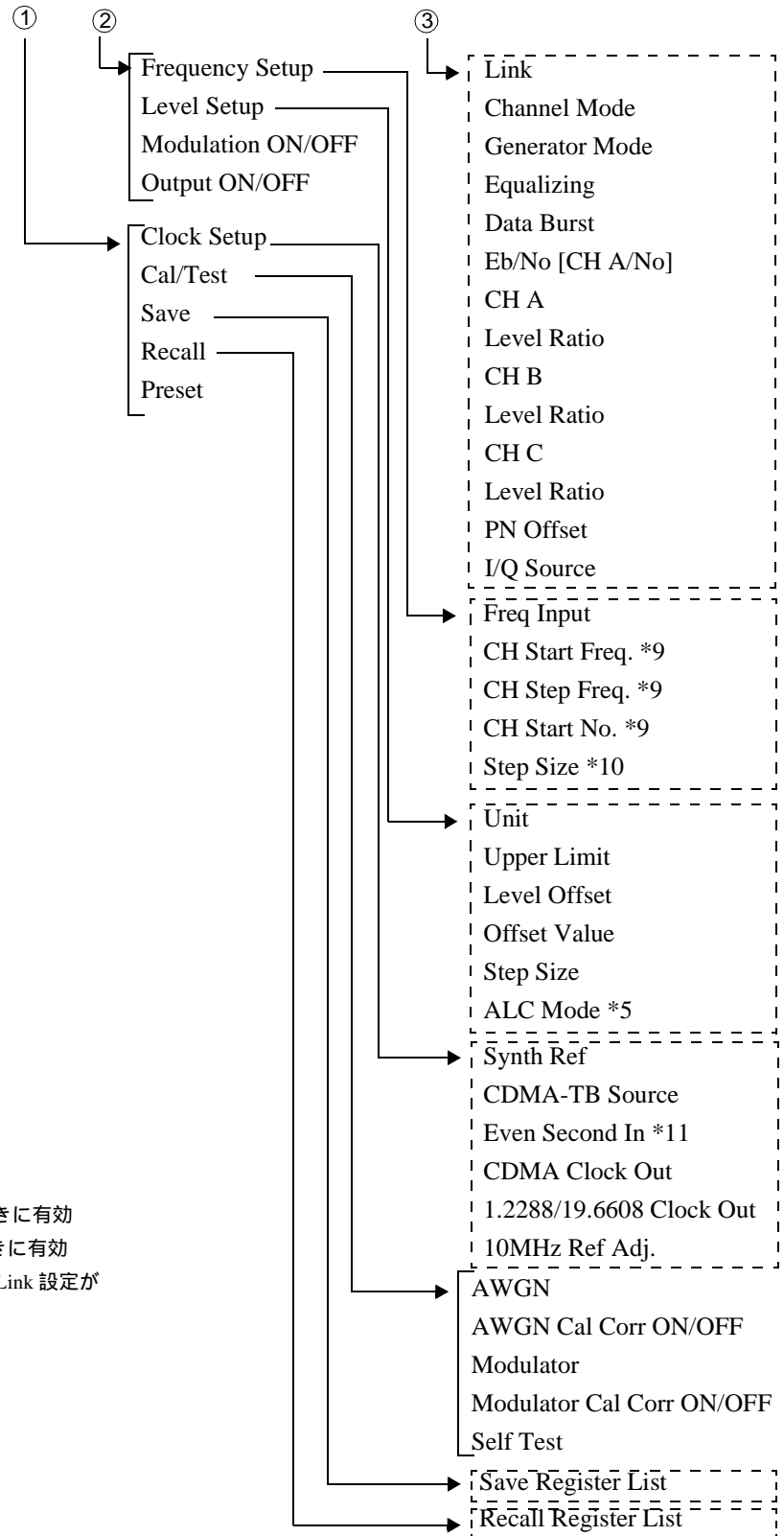
Rx Control [R3561].....	4-4
Synth Ref.....	4-5, 4-14
Unit.....	4-5, 4-12
Upper Limit.....	4-5, 4-12
Traffic PRBS.....	4-4, 4-10

### 4.2.2 メニュー・マップ

R3561 使用時の ADVANCE キーのソフト・メニュー一覧を以下に示します。

注   は、パネル・キーを示します。  
  は、ダイアログ・ボックスを示します。  
 その他は、ソフト・メニューを示します。





- \*9 Freq Input 設定が CHANNEL No のときに有効
- \*10 Freq Input 設定が FREQUENCY のときに有効
- \*11 I/Q Source 設定が INTERNAL でかつ Link 設定が REVERSE のときに有効

## 4.2.3 機能説明

- (1) 出力周波数設定

**FREQ**

画面に数値入力ウィンドウが表示されます。  
出力周波数の設定を行います。  
設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。

- (2) 出力レベル設定

**LEVEL**

画面に数値入力ウィンドウが表示されます。  
出力レベルの設定を行います。  
設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。

- (3) 変調設定

**Modulation**

変調機能の設定メニューが表示されます。  
*return* を押すと初期画面に戻ります。

**General Setup**

画面上に Link、Channel Mode などの一般項目設定を行うためのダイアログ・ボックスが表示されます。

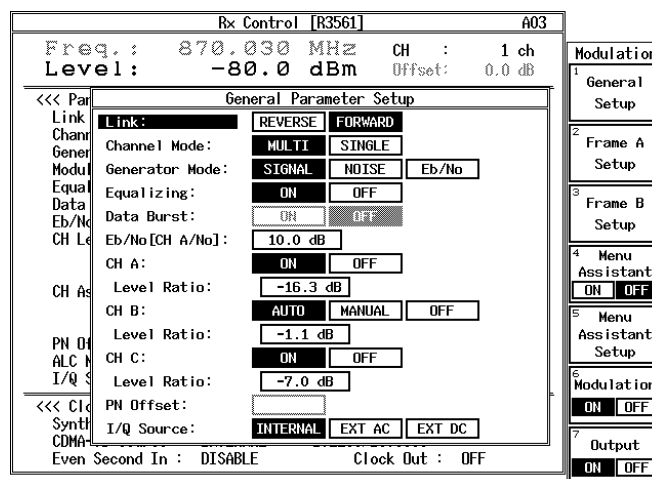


図 4-3 General ダイアログ画面

**Link**

R3561 の信号の Link-Direction を指定します。

REVERSE: Mobile-Station Base-Station 方向の信号  
を出力します。変調方式は OQPSK になります。



## FORWARD:

Base-Station Mobile-Station 方向の信号  
を出力します。変調方式は OQPSK になり  
ます。

**Channel Mode**

BaseBand によるチャンネル多重の選択を行います。  
Reverse Link 時は SINGLE モード固定となります。

MULTI: A/B/C の 3 チャンネル多重出力

SINGLE: A チャンネルのみ出力

**Generator Mode**

MOD/CONV ブロック内の IQ-Modulator に入力する  
信号を選択します。

SIGNAL: CDMA 信号を選択します。

NOISE: 2MHz の帯域幅を持つ AWGN の出力を  
選択します。

Eb/Nt(No): CDMA 信号に AWGN の出力を付加した  
信号を選択します。  
チャンネル A 信号レベルと AWGN 出力  
レベルの比を Eb/No[CH A/No] 設定で変  
更できます。

---

注意 Generator Mode の Eb/Nt(No) を選択する場  
合は、AWGN キャリブレーションを行って下さ  
い。

IQ Source が EXTAC または EXTDC に設定さ  
れている場合は、SIGNAL 固定となります。

---

**Equalizing**

Equalizing Filter の ON/OFF を切り換えます。Link  
設定を変更すると ON/OFF は自動的に切り換わり  
ます。

**Data Burst**

データ・バーストの ON/OFF を切り換えます。

**Eb/No [CH A/No]**

A チャンネルに対する Eb/Nt (No) の値を設定しま  
す。この設定は Generator Mode が Eb/Nt (No) のとき  
に有効になります。

**CH A****CH B****CH C**

Channel Mode MULTI 時に有効となり、A、C のチャ  
ンネルについては ON/OFF が選択できます。B チャ  
ンネルについては AUTO、MANUAL、OFF の選択が  
可能となります。AUTO 設定では A、B、C チャン  
ネル・レベルの総和が 0dB となるように自動的に B チャ  
ンネル・レベルが制御されます。  
MANUAL 時は Channel Level Ratio により任意設定可能  
となります。

## 4.2 リファレンス

**Level Ratio** Channel Mode MULTI を選択時に有効となります。  
チャンネル・レベル総和に対する各々のチャンネル・  
レベルを設定します。

---

**注意** Ratio 値は、Channel ON/OFF 設定にて CH B  
を AUTO としたときのものです。

---

**PN Offset** PN シーケンスのオフセット値を設定します。  
1PN Offset = 64chips

**I/Q Source** IQ-Modulator に入力される信号を選択します。

INTERNAL:

内部ベースバンドによる IQ 信号を接続  
します。

EXT AC: 外部 IQ 信号を AC 結合します。

EXT DC: 外部 IQ 信号を DC 結合します。

---

**注意** IQ Source 選択が EXT DC に選択されている  
場合、規定入力レベル以上のレベルが入力さ  
れたときにアラームが鳴ります。  
アラームが鳴った場合は直ちに入力レベルを  
規定レベル範囲内に収めて下さい。

---



---

**警告** EXTERNAL IQ 入力端子に規定入力レベル以  
上のレベルが入力された場合、本器を破損す  
るおそれがあります。かならず規定されたレ  
ベル範囲内で使用して下さい。

---

**Frame A Setup****Frame B Setup**

A チャンネル、B チャンネルのフレーム詳細を設定します。

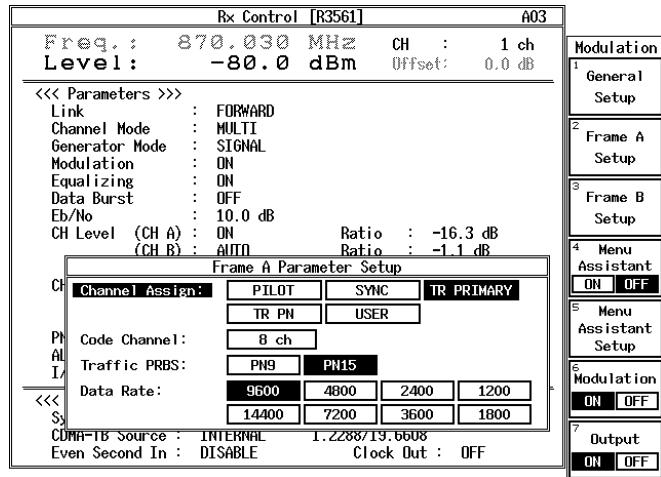


図 4-4 Frame A ダイアログ画面

**Channel Assign** A、B チャンネルに割り当てるチャンネル・シグナルを表 4-1 から選択します。

表 4-1 チャンネル・シグナル説明

チャンネル・シグナル	説明
PILOT	Link 設定が FORWARD に選択されている場合、TIA/EAI IS95 で規定されている PILOT チャンネルになります。
ZEROS (ZEROES)	Link 設定が REVERS に設定されている場合、DATA ALL0 パターンになります。
SYNC	Link 設定が FORWARD に選択されている場合のみ選択が可能です。TIA/EAI IS95 で規定されている SYNC チャンネルになります。
TR PRIMARY (TRAFFIC PRIMARY)	Traffic channel frame の Information Bits 内の Primary Traffic 部へ PRBS を挿入したフレーム (Primary Traffic Only) が選択されます。
TR PN (TRAFFIC PN)	Traffic channel frame の Information Bits すべてに PRBS を挿入したフレームが選択されます。
USER	外部から本器の USER Define Buffer 上にデータをダウンロードし、このデータを出力します。 USER の詳しい使用方法は R3561 取扱説明書 User Define Buffer 機能を参照して下さい。

**Code Channel** A、B チャンネルのコード・チャンネルを選択します。選択されたコード・チャンネルに該当する Walsh 関数により各チャンネルは直行符号拡散されます。チャンネル・アサインが PILOT に選択されている場合、コード・チャンネルは 0 固定となります。チャンネル・アサインが SYNC に選択されている場合、コード・チャンネルは 32 固定となります。

**Traffic PRBS** Traffic-channel-frame 内の Information-Bits に挿入される PRBS を選択します。

PN9: ITU-T V5.2 準拠パターン

PN15: ITU-T 0.151 準拠パターン

**Data Rate** A、B チャンネルのデータレートを選擇します。

#### Menu Assistant ON/OFF

このキーを ON すると、General ダイアログ・ボックスの設定可能項目が *Edit Menu* で編集されたものとなります。

#### Menu Assistant Setup

General ダイアログ・ボックスの設定項目を編集するための画面が表示されます。

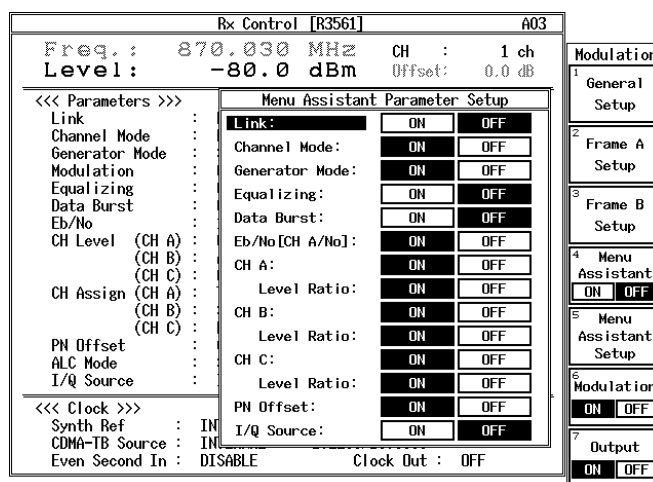


図 4-5 Edit Menu ダイアログ画面

この画面で ON にした項目のみが、図 4-3 General ダイアログ画面での設定変更が可能となります。

設定変更が不要な項目は OFF にすると General ダイアログ画面のステップ・キー操作時にパスされます。

アプリケーションに合わせて任意に設定して頂くことにより、操作を簡略化することが可能です。

ただし、*Menu Assistant ON/OFF* が OFF の場合、Edit Menu は反映されません。

**Modulation ON/OFF**

変調の ON/OFF を切り換えます。

**Output ON/OFF**

出力端子へ信号出力の ON/OFF を切り換えます。

## (4) 周波数、レベル設定

**Frequency & Level**

周波数、レベルパラメータ設定のダイアログ・ボックスが表示されます。

**Frequency Setup**

周波数関連パラメータ設定のダイアログ・ボックスが表示されます。

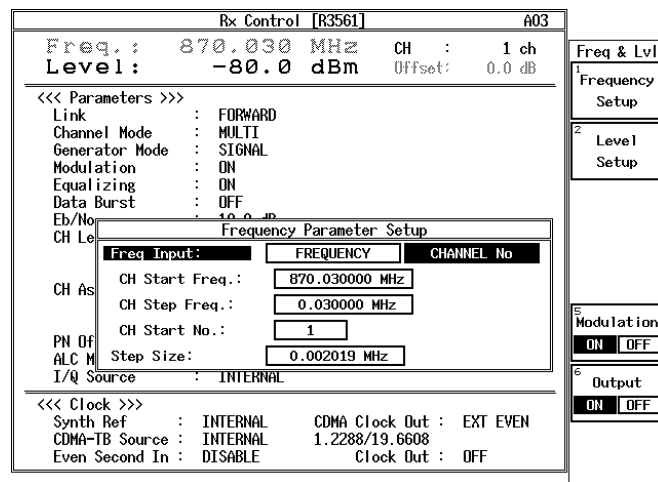


図 4-6 Freq Para. ダイアログ画面

**Freq Input**

周波数入力モードを選択します。

FREQUENCY:

周波数値を直接入力するモード

CHANNEL No.:

チャンネル番号による入力モード

**CH Start Freq.**

チャンネル・スタート周波数を設定します。

**CH Step Freq.**

チャンネル間隔を設定します。

**CH Start No.**

チャンネル開始番号を設定します。

**Step Size**

アップ/ダウン・キーのステップ値を設定します。

return を押すと初期画面に戻ります。

**Level Setup**

出力レベル関連パラメータ設定のダイアログ・ボックスが表示されます。

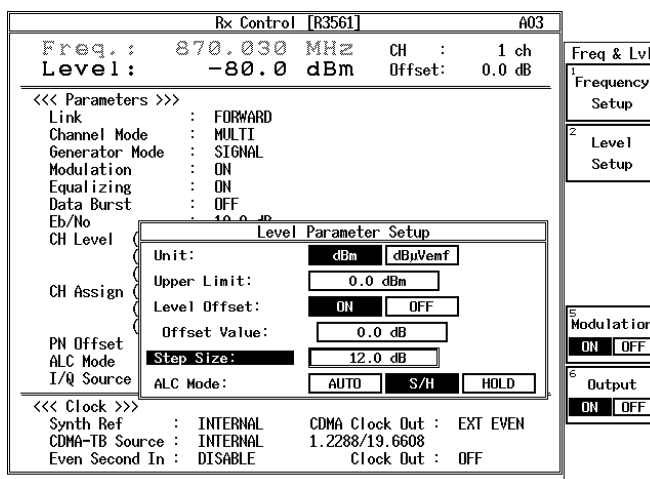


図 4-7 Level Para. ダイアログ画面

<b>Unit</b>	設定、表示単位の選択を行います。
<b>Upper Limit</b>	設定の上限値を設定します。
<b>Level Offset</b>	レベル・オフセット値の加算 ON/OFF を切り換えます。
<b>Offset Value</b>	レベル・オフセット値を設定します。
<b>Step Size</b>	アップ/ダウン・キーのステップ値を設定します。
<b>ALC Mode</b>	ALC の動作モードを選択します。 R3561 の設定状態により、自動的に最適な動作モードが選択されます (詳細は R3561 取扱説明書を参照)。 AUTO: 通常の ALC S/H: 基準変調パターンによるサンプル&ホールド HOLD: 基準変調パターン時の ALC 電圧ホールド

注 最適動作モードが選択されていない場合、RF OUT 端子に出力されるレベルがずれることがあります。

**Modulation ON/OFF**

変調機能の ON/OFF を切り換えます。

**Output ON/OFF**

出力信号の ON/OFF を切り換えます。  
return を押すと初期画面に戻ります。

**\* ダイアログ・ボックスの操作**

設定項目や設定パラメータを選択する操作は、R3267 シリーズの標準のダイアログ・ボックス操作と同様にデータ・ノブとステップ・キーで行います。

## (5) その他

その他の機能を設定します。

**Other**

さらに **Preset**、**Clock Setup** などのキーが表示されます。  
**return** を押すと初期画面に戻ります。

Rx Control [R3561]		A03	
Freq. :	870.030 MHz	CH :	1 ch
Level :	-80.0 dBm	Offset :	0.0 dB
<< Parameters >>			
Link :	FORWARD		
Channel Mode :	MULTI		
Generator Mode :	SIGNAL		
Modulation :	ON		
Equalizing :	ON		
Data Burst :	OFF		
Eb/No :	10.0 dB		
CH Level (CH A) :	ON	Ratio :	-16.3 dB
(CH B) :	AUTO	Ratio :	-1.1 dB
(CH C) :	ON	Ratio :	-7.0 dB
CH Assign (CH A) :	TR(Primary)	Code Ch :	8 ch
(CH B) :	SYNC	Code Ch :	32 ch
(CH C) :	PILOT	Code Ch :	0 ch
PN Offset :	0.00		
ALC Mode :	S/H		
I/Q Source :	INTERNAL		
<< Clock >>			
Synth Ref :	INTERNAL	CDMA Clock Out :	EXT EVEN
CDMA-TB Source :	INTERNAL	1.2288/19.6608	
Even Second In :	DISABLE		
		Clock Out :	OFF

Other  
 1 Clock Setup  
 3 Cal/Test  
 5 Save  
 6 Recall  
 7 Preset

図 4-8 Other 画面

**Clock Setup**

各種クロック信号の設定ダイアログ・ボックスが表示されます。

Rx Control [R3561]		A03			
Freq. :	870.030 MHz	CH :	1 ch		
Level :	-80.0 dBm	Offset :	0.0 dB		
Clock Parameter Setup					
Synth Ref: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
CDMA-TB Source: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
Even Second In:	ENABLE DISABLE				
CDMA Clock Out:	EXT EVEN	20mSec	26.6mSec	80mSec	2Sec
1.2288/19.6608: Clock Out	OFF	1.2288	19.6608		
10MHz Ref Adj.:	-2000				
I/Q Source	INTERNAL				
<< Clock >>					
Synth Ref :	INTERNAL	CDMA Clock Out :	EXT EVEN		
CDMA-TB Source :	INTERNAL	1.2288/19.6608			
Even Second In :	DISABLE				
		Clock Out :	OFF		

Other  
 1 Clock Setup  
 3 Cal/Test  
 5 Save  
 6 Recall  
 7 Preset

図 4-9 Clock ダイアログ画面

## 4.2 リファレンス

<b>Synth Ref</b>	SYNTH REF IN 端子から、RF シンセサイザ用リファレンス回路に入力する基準周波数を選択します。ただし、INTERNAL に選択された場合は、内部基準発信器の信号が RF シンセサイザ用リファレンス回路に入力されます。
<b>CDMA-TB Source</b>	CDMA TIMEBASE IN 端子から、CDMA TIMEBASE 用リファレンス回路に入力する基準周波数を選択します。ただし、INTERNAL に選択された場合は、内部基準発信器の信号が CDMA TIMEBASE 用リファレンス回路に入力されます。
<b>Even Second In</b>	正面パネルに設けられた EVENSEC/SYNC IN コネクタの信号に同期して R3561 の BaseBand-Block を動作させるか、させないかの選択を行います。
<b>CDMA Clock Out</b>	CDMA CLOCK OUT 端子より出力する CDMA フレーム・クロック信号を選択します。

表 4-2 CDMA フレーム・クロックの種類

CDMA フレーム・クロック	説明
EVEN SECOND IN	EVEN SEC/SYNC IN 端子より入力された信号を出力します。 EVEN SEC/SYNC IN 端子より信号が入力されていない場合は出力しません。
2 s 80 ms 26.6 ms 20 ms	本器のベースバンド・ブロック内のクロック信号を出力します。

**1.2288/19.6608 Clock Out**

19.6608MHz/PN CHIP OUT 端子に出力する信号の選択を行います。

**10MHz Ref Adj.**

R3561 の内部基準発信器の発振周波数を設定し、経時変化による周波数のずれを補正できます。工場出荷の設定値は 0 で、可変範囲は -2000 ~ +2000 です。この値は可変範囲を示すもので周波数範囲を示すものではありません。

**Cal/Test**

R3561 のキャリブレーションおよびセルフ・テストに関する各機能の設定 / 選択を行う画面に切り換わります。

*return* を押すと初期画面に戻ります。



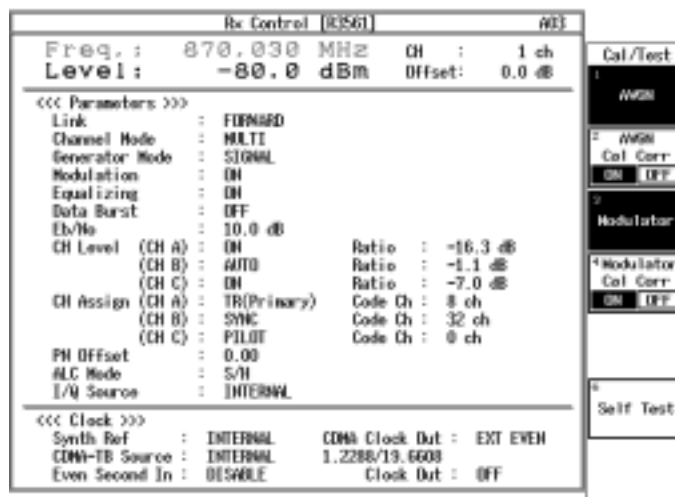


図 4-10 Cal/Self Test 画面

**AWGN**

AWGN のレベルと CDMA 信号のレベルをキャリブレーションします。ジェネレータ・モードを  $E_b/N_t(E_b/N_o)$  に選択する場合、キャリブレーションを実行する必要があります。

**注意** キャリブレーションには 10～30 秒の時間を要します。  
キャリブレーションに何らかの異常を検出した場合エラー・メッセージを表示し、キャリブレーションを終了します。

**AWGN Cal Corr ON/OFF**

AWGN のキャリブレーションで得られたコレクションデータを反映するか、しないかを選択します。

**Modulator**

**IQ-Modulator** のバランスをキャリブレーションします。

**注意** キャリブレーションには 10～30 秒の時間を要します。  
キャリブレーションに何らかの異常を検出した場合エラー・メッセージを表示し、キャリブレーションを終了します。

**Modulator Cal Corr ON/OFF**

Modulator のキャリブレーションで得られたコレクション・データを反映するか、しないかを選択します。

**Self Test**

R3561 各ブロックのセルフ・テストを行います。セルフ・テスト実行中は POWER ランプ、REMOTE ランプ、SYNTHE UNLOCK ランプがすべて点灯します。セルフ・テスト終了時に一度アラームが鳴ります。セルフ・テストの終了後、セルフ・テスト実行直前の状態に復帰します。

セルフ・テストの結果、何らかのエラーが発見された場合、POWER ランプ、REMOTE ランプ、SYNTHE UNLOCK ランプがすべて点灯のままとなり、エラー・メッセージとエラー・コードを表示します(エラー・コードの詳細は、R3561 取扱説明書を参照下さい)。当社または代理店に修理を依頼して下さい。

**Save**

R3561 の Back-up メモリに現在の設定をセーブします。このキーを押すと、R3561 の Back-up メモリの内容が表示されます(図 4-11 参照)。データ・ノブによりファイル番号を選択し、データ・ノブまたは ENTER を押すことで現在の設定がセーブされます。Back-up メモリには、最大 10 個の設定が保存できます。**RETURN** を押すと Other 画面に戻ります。

Rx Control [R3561] A03					
Freq. :		870.030 MHz	CH :	1 ch	
Level :		-80.0 dBm	Offset:	0.0 dB	
<< Parameters >>					
Link :	FORWARD				
Channel Mode :	MULTI				
Generator Mode :	SIGNAL				
Modulation :	ON				
Equalizing :	ON				
Data Burst :	OFF				
Eb/No :	10.0 dB				
CH Level (CH A) :	ON	Ratio :	-16.3 dB		
Save Register List					
No.	I/Q Source	Link	Frequency	Level	Output
1:	INTERNAL	FORWARD	870.030000MHz	-80.0dBm	ON
2:	EXTDC	FORWARD	870.030000MHz	-80.0dBm	ON
3:	EXTDC	FORWARD	870.030000MHz	-80.0dBm	ON
4:	empty				
5:	INTERNAL	FORWARD	870.030000MHz	-80.0dBm	ON
6:	empty				
7:	empty				
8:	empty				
9:	empty				
10:	INTERNAL	REVERSE	870.030000MHz	-80.0dBm	OFF

図 4-11 Save/Recall 表示画面

**Recall**

R3561 の Back-up メモリの内容を読み出し再設定を行います。このキーを押すと、R3561 の Back-up メモリの内容が表示されます(図 4-9 参照)。データ・ノブによりファイル番号を選択し、データ・ノブまたは ENTER を押すことで Backup メモリの内容を読み出され再設定が行われます。**RETURN** を押すと Other 画面に戻ります。

**Preset**

R3561 の周波数セクション、RF レベル・セクション、モジュレーション・セクション、フレーム・セクション、入出力・セクションの初期化を行います。その他のセクションの設定は初期化されません。表 4-3 にプリセット時の設定値 / 選択値を示します。

## (6) 変調設定

**Modulation ON/OFF**

変調の ON/OFF を切り換えます。

## (7) 信号出力設定

**Output ON/OFF**

出力端子へ信号出力の ON/OFF を切り換えます。

## 4.2.4 初期設定値

表 4-3 プリセット時の設定値 / 選択値 (1/2)

セクション	設定項目	チャンネル	設定値 / 選択値	
出力周波数	周波数入力モード		直接入力モード	
	出力周波数		870.03MHz	
	出力チャンネル		1	
	チャンネル開始番号		1	
	チャンネル間隔		30kHz	
	スタート周波数		870.03MHz	
RF レベル	出力レベル		-80.0dBm	
	出力レベル・アッパー・リミット値		0.0dBm	
	出力レベル・オフセット ON/OFF		OFF	
	出力レベル・オフセット値		0.0dB	
	出力 ON/OFF		ON	
	ALC モード		SAMPLE&HOLD	
モジュレーション	モジュレーション ON/OFF		ON	
	Link		FORWARD	
	チャンネル・モード		MULTI	
	ジェネレータ・モード		SIGNAL ONLY	
	Equalizing Filter ON/OFF		ON	
	データ・バースト		OFF	
	Eb/No(Eb/Nt) 値		10.0dB	
	チャンネル ON/OFF	A		ON
		B		AUTO
		C		ON
	チャンネル・レベル	A		-16.3dB
		B		-1.1dB
		C		-7.0dB
	PN Offset 値		0.00	
IQ Source 値		INTERNAL		

表 4-3 プリセット時の設定値 / 選択値 (2/2)

セクション	設定項目	チャンネル	設定値 / 選択値
フレーム	チャンネル・アサイン	A	TRAFFIC PRIMARY
		B	SYNC
		C	PILOT
	コード・チャンネル	A	8
		B	32
		C	0
	Traffic PRBS	A	PN15
		B	PN15
		C	
	データ・レート	A	9600bps
		B	1200bps
		C	***
	スタート・フレーム番号指定 (注)	A	1
		B	
		C	
	繰り返しフレーム番号指定 (注)	A	600
		B	
		C	
	フレーム番号指定		***
	フレーム・データ		***
入出力	EVEN SEC/SYNC IN		DISABLE
	CDMA CLOCK OUT		EVEN SECOND IN
	CDMA TIMEBASE OUT		OFF
	Synthe Reference IN		INTERNAL
	CDMA TIMEBASE IN		INTERNAL

(注) 工場出荷時の設定値です。設定値を変更した場合プリセットを行っても初期化しません。

\*\*\* は、設定ができない、または未定であることを示します。

## 5. R3562 の操作説明

この章では、R3562 の操作方法をキーの機能ごとに説明しています。

### 5.1 概要

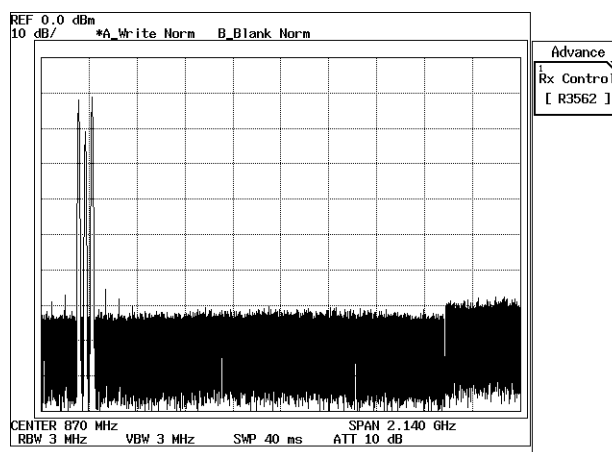


図 5-1 初期画面 (R3562 標準仕様時)

R3562 の操作メニューは、ADVANCE キーの下に配置されます。

ADVANCE, *Rx Control*[R3562] と押すと、R3267 シリーズは、R3562 コントロール・モードとなり、図 5-3 の画面が表示され、以降 R3562 の設定および測定が可能となります。

このモードでは、FREQ と LEVEL を除き、ソフト・キーやダイアログ・ボックスでの操作のみ有効となります。通常の操作モードで使用できる SPAN などの操作はできません。

このモードから通常の操作モードに戻るには、POWER、UTIL、TRANSIENT または *Quit* を押して下さい。

## 5.1 概要

## [ コミュニケーション・システムの設定について ]

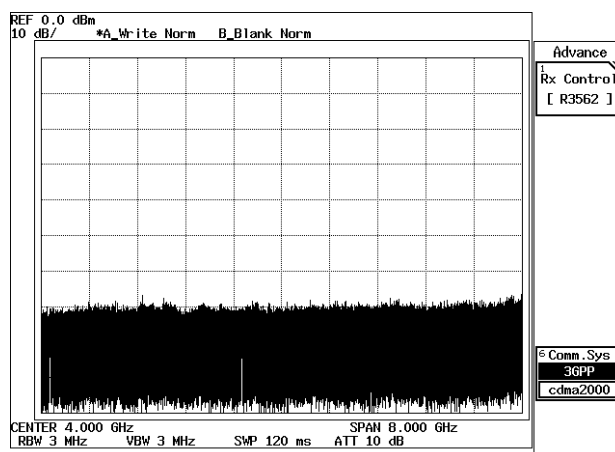


図 5-2 初期画面（R3562 OPT65 搭載時）

R3562 に OPT65 が搭載されている場合、R3562 のコミュニケーション・システムが 3GPP モードに設定されている必要があります。初期画面（図 5-2）の Comm.sys キーの選択が cdma2000（反転表示）となっている場合は、モード設定が異なります。以下の手順でコミュニケーション・システムを切り替えて下さい。

1. Comm.sys キーを押して 3GPP を選択（反転表示）して下さい。
2. R3562 の電源スイッチを一度 OFF にして再投入して下さい。

---

注意 上記 1 だけではコミュニケーション・システムの切り替えは完了しません。必ず 2 の電源操作が必要です。

---

Rx Control [R3562 3GPP3.1.0]		C00/C00
<b>Freq. : 2.1100000 GHz</b> CH : 1 ch <b>Level : -80.0 dBm</b> Offset: 0.0 dB		R3562(3GPP)
<<< Base Band >>> I/Q Direction : OFF Link : DOWNLINK Scramble Code : 0 [DPCH Channel Config] Rate : 12.2kbps/30ksps    Slot Format No. : 11 Data Mode : INFORMATION    Channel Code No. : 2		1 BER
DPCH Data : PN9 DTCH Data : PN9    FEC : ON    CRC : NORMAL DCCH Data : PN9    FEC : ON    CRC : NORMAL		2 Modulation
[Channel Power Ratio] CPICH : 0.0 dB P-CCPCH : 0.0 dB DPCH : 0.0 dB		3 Frequency & Level
<<< Clock/Timing Signal >>> Synth Ref In : INTERNAL    MOD-TB In : INTERNAL Clock Out1 : OFF    Clock Out2 : OFF		4 Other
		5 Modulation ON OFF
		6 Output ON OFF
		7 Quit

図 5-3 R3562 コントロール・メイン画面 (3GPP)



## 5.2 リファレンス

## 5.2 リファレンス

ここでは、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス: 5章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ: パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明: パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

この章は、パネル・キーをアルファベット順にソートしています。

## 5.2.1 メニュー・インデックス

このメニュー・インデックスは、5章のキー索引として活用して下さい。

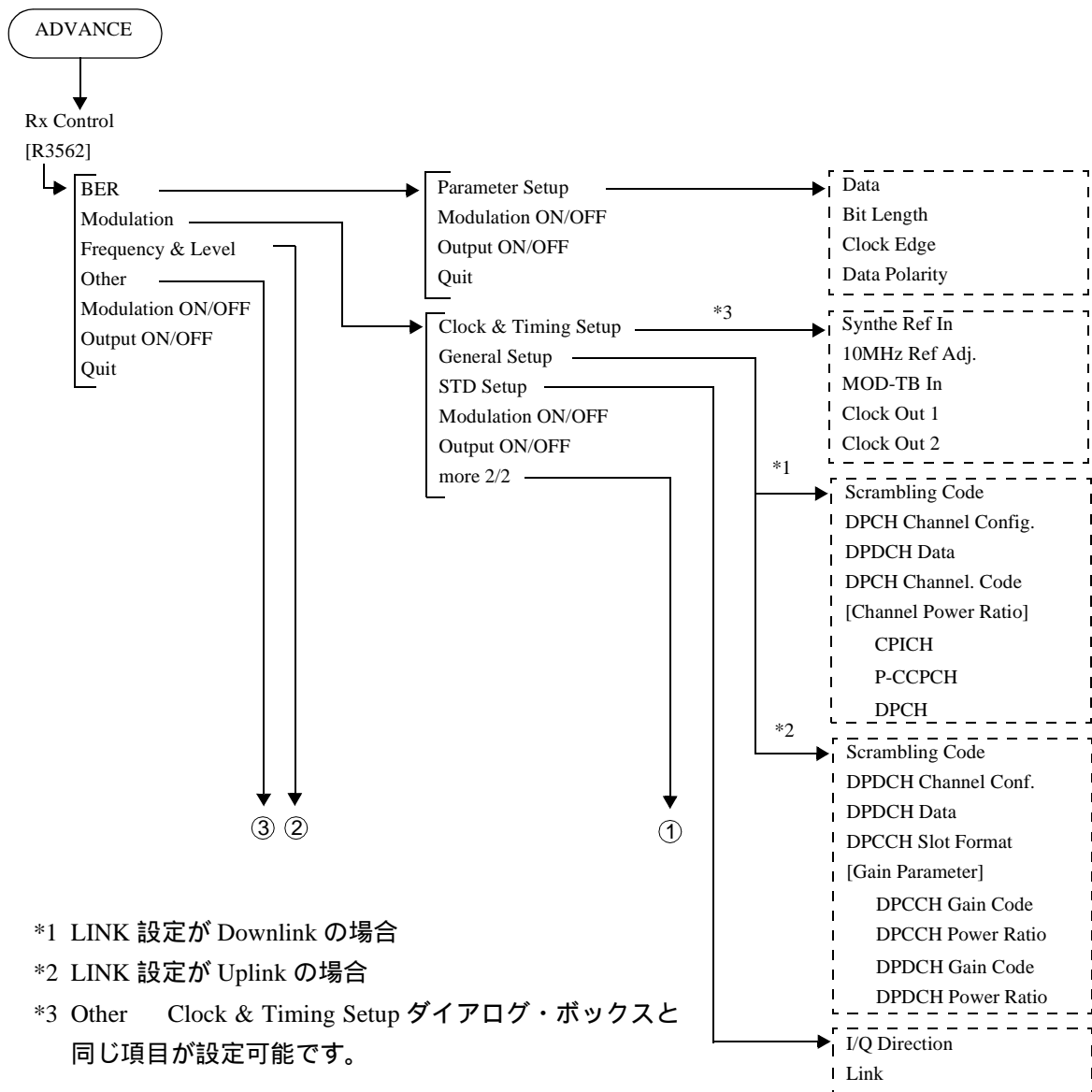
操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
10MHz Ref Adj. ....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25	DTCH/DCCH Setup .....	5-7, 5-18, 5-21
ALC Mode .....	5-8, 5-24	Data .....	5-6, 5-7, 5-9, 5-18, 5-19, 5-21, 5-22
CAL .....	5-8, 5-27	Data Polarity .....	5-6, 5-9
BER.....	5-6, 5-9	Direction .....	5-7, 5-18, 5-20
CH Start Freq. ....	5-8, 5-23	Ext I/Q Setup .....	5-8, 5-26
CH Start No. ....	5-8, 5-23	Ext Trigger.....	5-7, 5-22
CH Step Freq. ....	5-8, 5-23	Ext Trigger Setup.....	5-7, 5-23
CPICH.....	5-6	FBI Pattern.....	5-7, 5-21
CRC .....	5-7, 5-19, 5-21, 5-22	FEC .....	5-7, 5-19, 5-21, 5-22
Cal Corr ON/OFF .....	5-8, 5-27	FREQ .....	5-9
Cal/Test.....	5-8, 5-27	General Setup.....	5-6, 5-11
Bit Length .....	5-6, 5-9	Freq Input.....	5-8, 5-23
Clock & Timing Setup.....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25	Frequency & Level .....	5-6, 5-23
Clock Edge.....	5-6, 5-9	Frequency Setup .....	5-8, 5-23
Clock Out 1 .....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25	I Gain .....	5-8, 5-26, 5-27
Clock Out 2.....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25	I/Q Direction .....	5-6, 5-8, 5-16, 5-26
Count.....	5-7, 5-18, 5-20	I/Q Phase Adj.....	5-8, 5-26
DPCCH Gain Code .....	5-6, 5-15	LEVEL.....	5-9
DPCCH Power Ratio .....	5-6, 5-16	MOD-TB In .....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25
DPCCH Setup .....	5-7, 5-17, 5-20	Level Offset .....	5-8, 5-24
DPCCH Slot Format .....	5-6, 5-15	Level Setup .....	5-8, 5-24
DPCH.....	5-6	Link.....	5-6, 5-17
DPCH Channel Config .....	5-6, 5-12	Modulation.....	5-6, 5-10
DPCH Channel. Code .....	5-6, 5-13	Modulation ON/OFF.....	5-6, 5-8, 5-9, 5-17, 5-24, 5-27
DPDCH Channel Conf.....	5-6, 5-14	Offset Value .....	5-8, 5-24
DPDCH Data .....	5-6, 5-13, 5-15		
DPDCH Gain Code.....	5-6, 5-16		
DPDCH Power Ratio .....	5-6, 5-16		

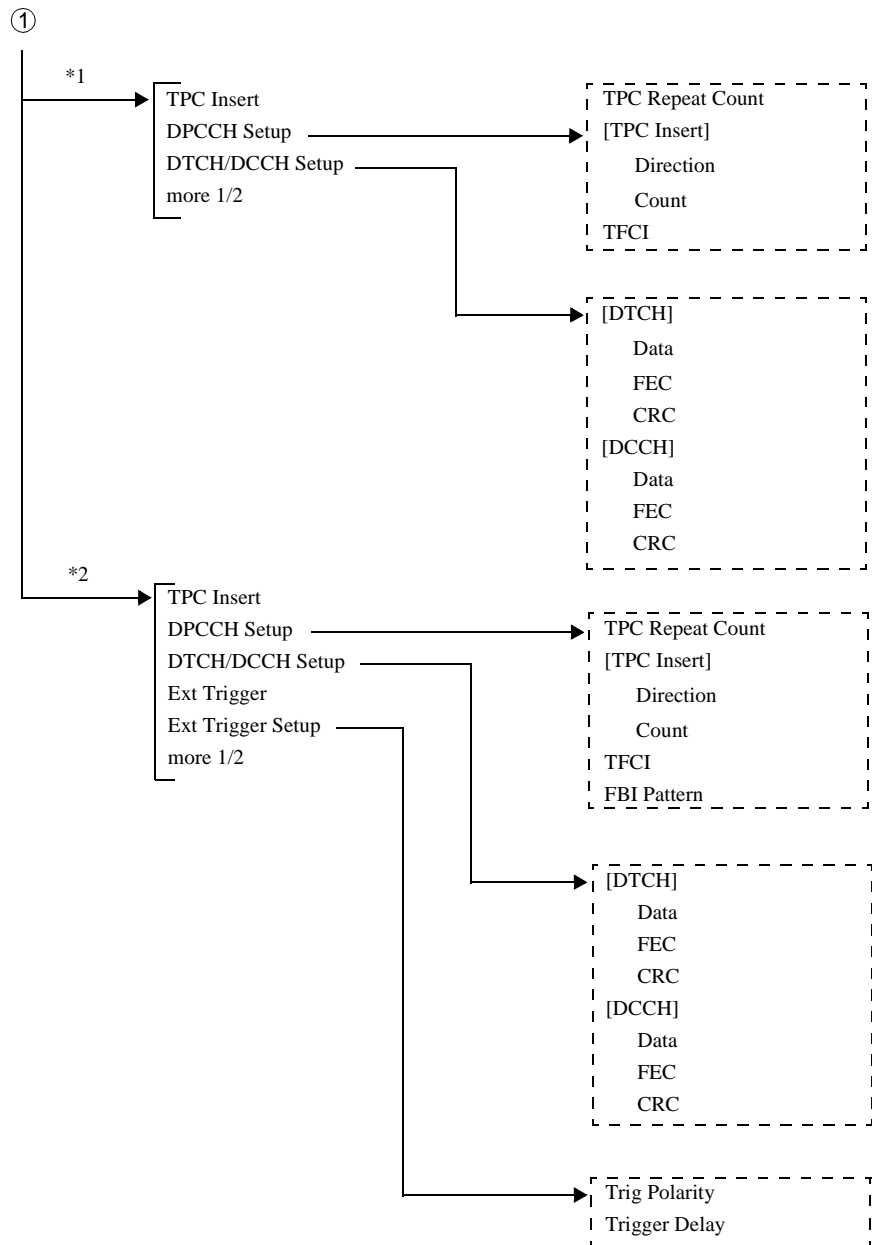
Other.....	5-6, 5-25
Output ON/OFF.....	5-6, 5-8, 5-10, 5-17, 5-25, 5-27
Q Gain .....	5-8, 5-26, 5-27
P-CCPCH .....	5-6
Parameter Setup.....	5-6, 5-9
Preset .....	5-8, 5-27
Quit.....	5-6, 5-10, 5-28
REPEAT .....	5-9
SINGLE.....	5-9
START .....	5-9
STD Setup .....	5-6, 5-16
STOP .....	5-9
Save .....	5-8, 5-27
Save Register List.....	5-8
Scrambling Code .....	5-6, 5-12, 5-14
Recall.....	5-8, 5-27
Recall Register List .....	5-8
Self Test.....	5-8, 5-27
Step Size.....	5-8, 5-24
Rx Control [R3562].....	5-6
Synthe Ref In.....	5-6, 5-8, 5-10
TFCI.....	5-7, 5-18, 5-20
TPC Insert .....	5-7, 5-17, 5-20
TPC Repeat Count.....	5-7, 5-17, 5-20
Unit.....	5-8, 5-24
Upper Limit .....	5-8, 5-24
Trig Polarity .....	5-7, 5-23
Trigger Delay .....	5-7, 5-23
[Channel Power Ratio] .....	5-6, 5-13
[DCCH] .....	5-7, 5-19, 5-22
[DTCH] .....	5-7, 5-18, 5-21
[Gain Parameter] .....	5-6, 5-15
[I/Q Input] .....	5-8, 5-26
[I/Q Output].....	5-8, 5-27
[TPC Insert].....	5-7, 5-17, 5-20

### 5.2.2 メニュー・マップ

ここでは、パネル・キーのメニュー構成を示します。

注   は、パネル・キーを示します。  
  は、ダイアログ・ボックスを示します。  
 その他は、ソフト・メニューを示します。

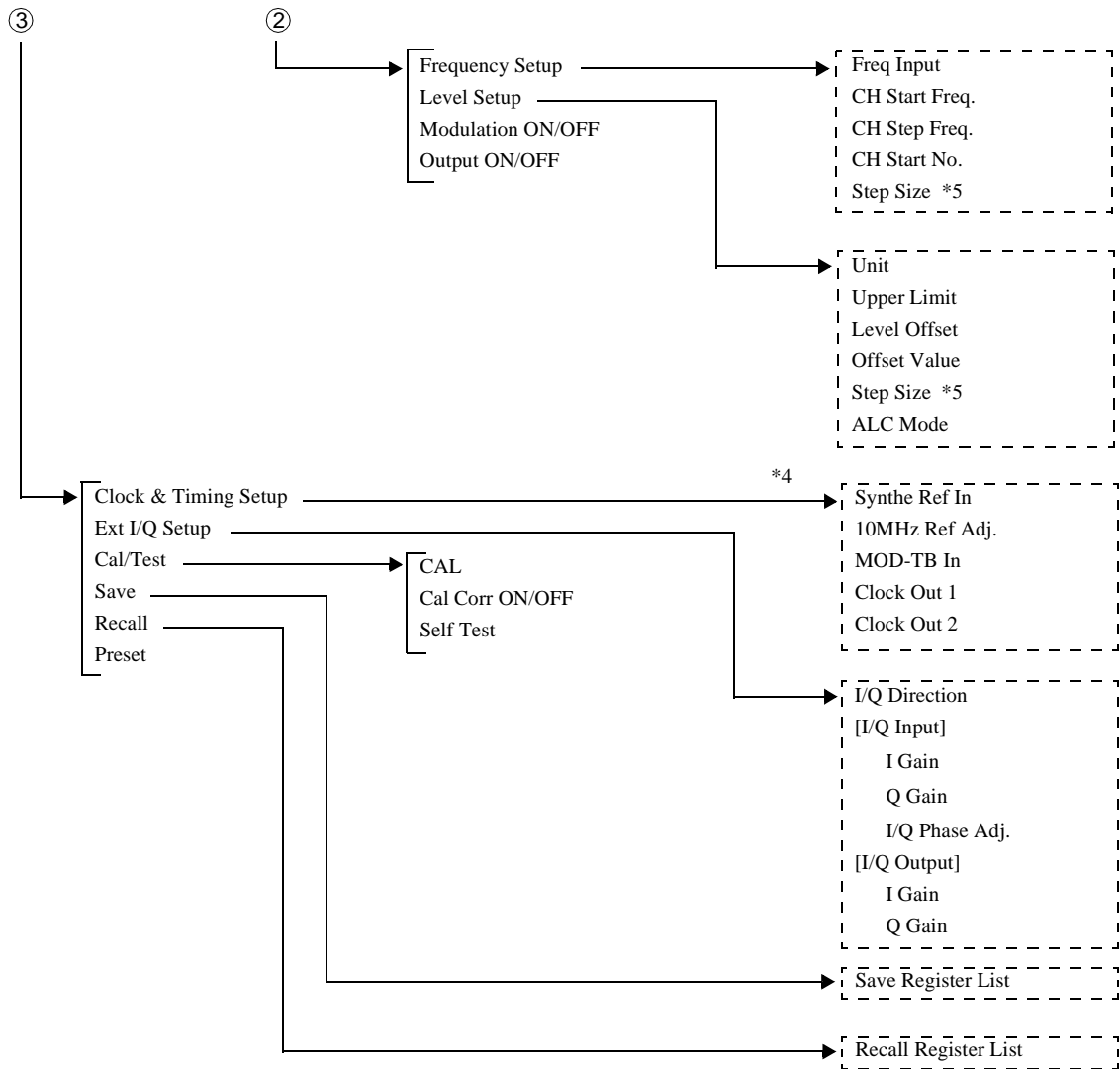




\*1 LINK 設定が Downlink の場合

\*2 LINK 設定が Uplink の場合

5.2 リファレンス



\*4 Modulation Clock & Timing Setup ダイアログ・ボックスと  
同じ項目が設定可能です。

\*5 R3267 シリーズのステップ・キー(データ・ノブ)のステッ  
プ値の指定を行います。

### 5.2.3 機能説明

ここでは、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

<b>FREQ</b>	画面に数値入力ウィンドウが表示されます。 出力周波数の設定を行います。 設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。
<b>LEVEL</b>	画面に数値入力ウィンドウが表示されます。 出力レベルの設定を行います。 設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。
<b>SINGLE</b>	BER 測定を 1 回だけ実行します。
<b>REPEAT (START/STOP)</b>	連続した BER 測定の実行や測定の停止を行います。
<b>BER</b>	BER 測定モード・メニューを表示します。

#### *Parameter Setup*

BER Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

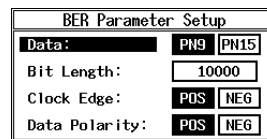


図 5-4 BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス

<b>Data</b>	試験データの種類を選択します。 PN9: 9 段の PN 符号を選択します。 PN15: 15 段の PN 符号を選択します。
<b>Bit Length</b>	試験データの長さを選択します。
<b>Clock Edge</b>	クロックの有効エッジを選択します。 POS: クロックの立ち上がりでデータを取り込みます。 NEG: クロックの立ち下がりデータを取り込みます。
<b>Data Polarity</b>	データの極性を選択します。 POS: データを正論理として取り込みます。 NEG: データを負論理として取り込みます。
<b>Modulation ON/OFF</b>	RF出力の変調のONとOFFを選択します。 ON: RF 出力を送信データで変調します。

	OFF:	RF 出力を無変調信号にします。
<b>Output ON/OFF</b>		RF出力のONとOFFを選択します。
	ON:	RF 信号を出力します。
	OFF:	RF 信号を停止します。
<b>Quit</b>		BER測定モードを終了します。
<b>Modulation</b>		Modulation 1/2 メニューを表示します。
<b>Clock &amp; Timing Setup</b>		Clock / Timing Signal Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

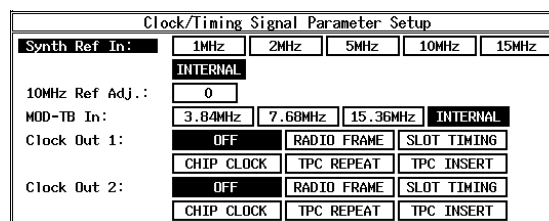


図 5-5 Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス

<b>Synthe Ref In</b>	シンセサイザの基準信号を選択します。
1MHz:	外部 1MHz 信号を使用します。
2MHz:	外部 2MHz 信号を使用します。
5MHz:	外部 5MHz 信号を使用します。
10MHz:	外部 10MHz 信号を使用します。
15MHz:	外部 15MHz 信号を使用します。
INTERNAL:	内蔵基準信号を使用します。
<b>10MHz Ref Adj.</b>	内蔵基準信号の周波数補正量を設定します。
<b>MOD-TB In</b>	モジュレーション用基準信号を選択します。
3.84MHz:	外部 3.84MHz 信号を使用します。
7.68MHz:	外部 7.68MHz 信号を使用します。
15.36MHz:	外部 15.36MHz 信号を使用します。
INTERNAL:	内蔵基準信号を使用します。
<b>Clock Out 1/Clock Out 2</b>	変調タイミング関係の信号を CLOCK OUT 1 および CLOCK OUT 2 コネクタに出力します。

OFF: 出力信号を OFF します。

RADIO FRAME:  
無線フレームのタイミングを出力します。

SLOT TIMING:  
スロットのタイミングを出力します。

CHIP CLOCK:  
チップ・クロックを出力します。

TPC REPEAT:  
Repeat 動作時の TPC コマンド・シーケンスの  
先頭スロット・タイミングを出力します。

TPC INSERT:  
Insert 動作時の TPC コマンド・シーケンスの  
先頭スロット・タイミングを出力します。

### General Setup

General Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

General Parameter Setup	
Scramble Code:	0
DPCH Channel Config:	PHYS.(8)/30ksps
	PHYS.(10)/30ksps
	PHYS.(12)/60ksps
	PHYS.(14)/240ksps
	INFO.(11)/12.2kbps
	INFO.(14)/144kbps
DPDCH Data:	PN9
	PN15
DPCH Channel Code:	2
[ Channel Power Ratio ]	
CPICH:	0.0 dB
P-CCPCH:	0.0 dB
DPCH:	0.0 dB

☒ 5-6 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
( Downlink のとき )

General Parameter Setup	
Scramble Code:	0
DPDCH Channel Conf.:	PHYS.(1)/30ksps
	PHYS.(3)/120ksps
	PHYS.(5)/480ksps
	INFO.(2)/12.2kbps
	INFO.(5)/144kbps
	INFO.(6)/384kbps
DPDCH Data:	PN9
	PN15
DPDCH Slot Format:	0 1 2 3 4 5
[ Gain Parameter ]	
DPDCH Gain Code:	15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 OFF ***
DPDCH Power Ratio:	0.0 dB
DPDCH Gain Code:	15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 OFF ***
DPDCH Power Ratio:	0.0 dB

☒ 5-7 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
( Uplink のとき )



< Downlink 時 >

**Scrambling Code** Scrambling Code 番号を設定します。

**DPCH Channel Config.**

チャンネル構成を以下より選択します。

PHYS.(8)/30ksps:

スロット・フォーマット番号が 8 (Channel Symbol Rate = 30[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(9)/30ksps:

スロット・フォーマット番号が 9 (Channel Symbol Rate = 30[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(10)/30ksps:

スロット・フォーマット番号が 10 (Channel Symbol Rate=30[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(11)/30ksps:

スロット・フォーマット番号が 11 (Channel Symbol Rate =30[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(12)/60ksps:

スロット・フォーマット番号が 12 (Channel Symbol Rate = 60[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(13)/120ksps:

スロット・フォーマット番号が 13 (Channel Symbol Rate = 120[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(14)/240ksps:

スロット・フォーマット番号が 14 (Channel Symbol Rate = 240[kps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS.(15)/480ksps:

スロット・フォーマット番号が 15 (Channel Symbol Rate = 480[kps]) の Physical data モードを指定します。

INFO.(11)/12.2kbps:

スロット・フォーマット番号が 11 (Information Bit Rate = 12.2[kbps]、Channel Symbol Rate = 30[kps]) の Information data モードを指定します。

INFO.(13)/64kbps:

スロット・フォーマット番号が 13 (Information Bit Rate = 64[kbps]、Channel Symbol Rate = 120[ksp/s]) の Information data モードを指定します。

INFO.(14)/144kbps:

スロット・フォーマット番号が 14 (Information Bit Rate = 144[kbps]、Channel Symbol Rate = 240[ksp/s]) の Information data モードを指定します。

INFO.(15)/384kbps:

スロット・フォーマット番号 15 (Information Bit Rate = 384[kbps]、Channel Symbol Rate = 480[ksp/s]) の Information data モードを指定します。

#### ***DPDCH Data***

DPCH Channel Config. 設定が Physical data モードのときの DPDCH に入力するデータを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号を選択します。

PN15: 15 段の PN 符号を選択します。

ALL0: すべて 0 のデータを選択します。

ALL1: すべて 1 のデータを選択します。

PN9 ERR: 1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。

#### ***DPCH Channel. Code***

Channelization Code 番号を設定します。

#### ***[Channel Power Ratio]***

各 Physical Channel のパワー比の設定を行います。

CPICH: CPICH のチャンネル・パワー比を設定します。

P-CCPCH: P-CCPCH と SCH を一つのチャンネルとしてパワー比を設定します。

DPCH: DPCH のパワー比を設定します。

---

注 チャンネル・パワー比 -99.9dB と指定すると、指定されたチャンネル・パワーは OFF となります。

---

< Uplink 時 >

**Scrambling Code** Scrambling Code 番号を設定します。

**DPDCH Channel Conf.**

チャンネル構成を以下より選択します。

PHYS(1)/30ksps:

スロット・フォーマット番号が 1 (Channel Symbol Rate = 30[kbps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS(2)/60ksps:

スロット・フォーマット番号が 2 (Channel Symbol Rate = 60[kbps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS(3)/120ksps:

スロット・フォーマット番号が 3 (Channel Symbol Rate = 120[kbps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS(4)/240ksps:

スロット・フォーマット番号が 4 (Channel Symbol Rate = 240[kbps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS(5)/480ksps:

スロット・フォーマット番号が 5 (Channel Symbol Rate = 480[kbps]) の Physical data モードを指定します。

PHYS(6)/960ksps:

スロット・フォーマット番号が 6 (Channel Symbol Rate = 960[kbps]) の Physical data モードを指定します。

INFO.(2)/12.2kbps:

スロット・フォーマット番号が 2 (Information Bit Rate = 12.2[kbps]、Channel Symbol Rate = 60[kbps]) の Information data モードを指定します。

INFO.(4)/64kbps:

スロット・フォーマット番号が 4 (Information Bit Rate = 64[kbps]、Channel Symbol Rate = 240[kbps]) の Information data モードを指定します。

INFO.(5)/144kbps:

スロット・フォーマット番号が 5 (Information Bit Rate = 144[kbps]、Channel Symbol Rate = 480[kbps]) の Information data モードを指定します。

INFO.(6)/384kbps:

スロット・フォーマット番号が 6 (Information Bit Rate = 384[kbps]、Channel Symbol Rate = 960[kps]) の Information data モードを指定します。

**DPDCH Data** DPDCH Channel Conf. 設定が Physical data モードのときの DPDCH に入力するデータを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号を選択します。

PN15: 15 段の PN 符号を選択します。

ALL0: すべて 0 のデータを選択します。

ALL1: すべて 1 のデータを選択します。

PN9 ERR: 1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。

#### **DPCCH Slot Format**

スロット・フォーマットを以下より選択します。

0: スロット・フォーマット番号 = 0 のビット構成を使用します。

1: スロット・フォーマット番号 = 1 のビット構成を使用します。

2: スロット・フォーマット番号 = 2 のビット構成を使用します。

3: スロット・フォーマット番号 = 3 のビット構成を使用します。

4: スロット・フォーマット番号 = 4 のビット構成を使用します。

5: スロット・フォーマット番号 = 5 のビット構成を使用します。

**[Gain Parameter]** DPCCH と DPDCH の間のゲイン (パワー) 比を設定します。4 通りの設定方法があります。

#### **DPCCH Gain Code**

DPDCH のゲイン :  $\beta_d$  を 1 として DPCCH のゲイン比 :  $\beta_c$  をゲイン・パラメータ・コードを用いて指定します。

1 ~ 15: 3GPP で定められたゲイン比となります。

OFF: DPCCH の出力を OFF します。

\*\*\*: ゲイン・パラメータ・コードに存在しない値が DPCCH Power Ratio 設定で行われたことを示すステータス表示です。

**DPDCH Power Ratio**

DPDCH のパワー：Pd を 0 [dB] として DPCCH のパワー：Pc [dB] を指定します。

注 -99.9dB と指定すると、DPCCH パワーは OFF となります。

**DPDCH Gain Code**

DPDCH のゲイン： $\beta_c$  を 1 として DPDCH のゲイン比： $\beta_d$  をゲイン・パラメータ・コードを用いて指定します。

1 ~ 15: 3GPP で定められたゲイン比となります。

OFF: DPDCH の出力を OFF します。

\*\*\*: ゲイン・パラメータ・コードに存在しない値が DPDCH Power Ratio 設定で行われたことを示すステータス表示です。

**DPDCH Power Ratio**

DPCCH のパワー：Pc を 0 [dB] として DPDCH のパワー：Pd [dB] を指定します。

注 -99.9dB と指定すると、DPDCH パワーは OFF となります。

**STD Setup**

STD Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

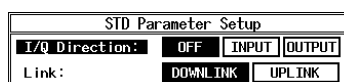


図 5-8 STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**I/Q Direction**

外部 IQ 端子の入出力切り替え、および IQ モジュレータへの IQ 信号経路選択を行います。

OFF: 外部への IQ 出力を OFF、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。

INPUT: 外部よりの IQ 信号を IQ モジュレータへ入力します。

OUTPUT: 外部への IQ 出力を ON、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。

---

注 OUTPUT モードのとき、RF 出力のレベル、変調精度は保証されません。

---

<b>Link</b>	Link-Direction を選択します。 DOWNLINK: Downlink の信号を出力します。 UPLINK: Uplink の信号を出力します。
<b>Modulation ON/OFF</b>	RF出力の変調のONとOFFを選択します。 ON: RF 出力を送信データで変調します。 OFF: RF 出力を無変調信号にします。
<b>Output ON/OFF</b>	RF出力のONとOFFを選択します。 ON: RF 信号を出力します。 OFF: RF 信号を停止します。
<b>more 2/2</b>	Modulation 2/2メニューを表示します。
< Downlink時 >	
<b>TPC Insert</b>	Repeat 動作中に TPC コマンドを挿入します。挿入される TPCコマンドの方向およびスロット長は、DPCCH Parameter Setupダイアログ・ボックス内のTPC Insert項目で指定できます。
<b>DPCCH Setup</b>	DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

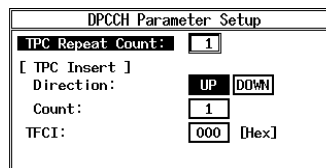


図 5-9 DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
( Downlink のとき )

#### **TPC Repeat Count**

Repeat 動作の TPC スロット長を指定します。

#### **[TPC Insert]**

Repeat 動作中に TPC 挿入スロット長で指定された回数、連続したスロットへ 1 または 0 の TPC コマンドを挿入します。

**Direction** Insert 動作の方向 (Up または Down) を選択します。

UP: 連続したスロットへ 1 の TPC コマンドを挿入します。

DOWN: 連続したスロットへ 0 の TPC コマンドを挿入します。

**Count** Insert 動作の TPC 挿入スロット長を指定します。

**TFCI** 1 フレームの TFCI の設定を 16 進数で行います。TFCI は、TFCI-Coder に入力される 10 ビットの TFCI ビットにより指定されます。

入力値	操作
A:	shift → 0
B:	shift → 1
C:	shift → 2
D:	shift → 3
E:	shift → 4
F:	shift → 5

### DTCH/DCCH Setup

DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

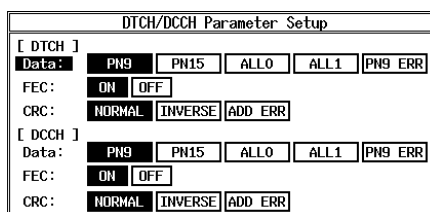


図 5-10 DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Downlink のとき)

**[DTCH]** DTCH 設定の各設定は、チャンネル・コンフィギュレーション設定のデータ・モードが Information data モードのときに設定した値が有効になります。

**Data** Information data に入力するデータを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号を選択します。

PN15: 15 段の PN 符号を選択します。

ALL0: すべて 0 のデータを選択します。

ALL1: すべて 1 のデータを選択します。

PN9 ERR: 1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。

<b>FEC</b>	<p>FEC ( Convolutional Coding または Turbo coding ) 処理を行うか行わないかを選択します。</p> <p>ON:           FEC 処理を行います。</p> <p>OFF:          FEC 処理を行いません。</p>
<b>CRC</b>	<p>算出した CRC 値をもとに、CRC データを生成する方法を指定します。</p> <p>NORMAL: 算出した CRC 値を CRC データとして用います ( 正しい CRC データが出力されます )。</p> <p>INVERSE: 算出した CRC 値の論理反転した値を CRC データとして用います ( 誤った CRC データが出力されます )。</p> <p>ADD ERR: 上記 NORMAL 動作と INVERSE 動作を組合わせて、1% の BLOCK ERROR を発生します。</p>
<b>[DCCH]</b>	<p>DCCH 設定の各設定は、チャンネル・コンフィギュレーション設定のデータ・モードが Information data モードのときに設定した値が有効になります。</p>
<b>Data</b>	<p>Information data に入力するデータを選択します。</p> <p>PN9:           9 段の PN 符号を選択します。</p> <p>PN15:          15 段の PN 符号を選択します。</p> <p>ALL0:          すべて 0 のデータを選択します。</p> <p>ALL1:          すべて 1 のデータを選択します。</p> <p>PN9 ERR:      1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。</p>
<b>FEC</b>	<p>FEC ( Convolutional Coding または Turbo coding ) 処理を行うか行わないかを選択します。</p> <p>ON:            FEC 処理を行います。</p> <p>OFF:          FEC 処理を行いません。</p>
<b>CRC</b>	<p>算出した CRC 値をもとに、CRC データを生成する方法を指定します。</p> <p>NORMAL: 算出した CRC 値を CRC データとして用います ( 正しい CRC データが出力されます )。</p> <p>INVERSE: 算出した CRC 値の論理反転した値を CRC データとして用います ( 誤った CRC データが出力されます )。</p> <p>ADD ERR: 上記 NORMAL 動作と INVERSE 動作を組合わせて、1% の BLOCK ERROR を発生します。</p>



## 5.2 リファレンス

<i>more 1/2</i>	Modulation 1/2メニューを表示します。
< Uplink時 >	
<b>TPC Insert</b>	Repeat 動作中に TPC コマンドを挿入します。挿入される TPCコマンドの方向およびスロット長は、DPCCH Parameter Setupダイアログ・ボックス内のTPC Insert項目で指定できます。
<b>DPCCH Setup</b>	DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

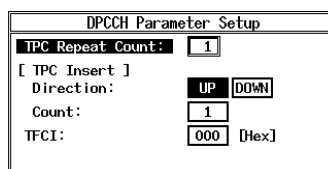


図 5-11 DPCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
( Uplink のとき )

**TPC Repeat Count** Repeat 動作の TPC スロット長を指定します。

**[TPC Insert]** Repeat 動作中に TPC 挿入スロット長で指定された回数、連続したスロットへ 1 または 0 の TPC コマンドを挿入します。

**Direction** Insert 動作の方向 ( Up または Down ) を選択します。

UP: 連続したスロットへ 1 の TPC コマンドを挿入します。

DOWN: 連続したスロットへ 0 の TPC コマンドを挿入します。

**Count** Insert 動作の TPC 挿入スロット長を指定します。

**TFCI** 1 フレームの TFCI の設定を 16 進数で行います。TFCI は、TFCI-Coder に入力される 10 ビットの TFCI ビットにより指定されます。

入力値	操作
A:	shift → 0
B:	shift → 1
C:	shift → 2
D:	shift → 3
E:	shift → 4
F:	shift → 5

**FBI Pattern**

1 フレームの FBI ビット・パターンの設定を 16 進数で行います。1 スロット当たりの FBI ビット数は、DPCCH チャンネル・コンフィギュレーション設定により決まり、その値が 0 以外のときに FBI ビット・パターン設定で設定された値が有効となります。

**DTCH/DCCH Setup**

DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

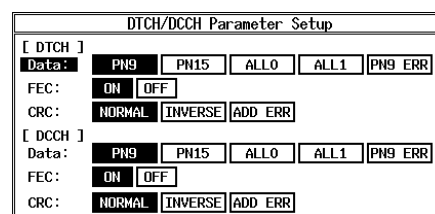


図 5-12 DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス (Uplink のとき)

**[DTCH]**

DTCH 設定の各設定は、チャンネル・コンフィギュレーション設定のデータ・モードが Information data モードのときに設定した値が有効になります。

**Data**

Information data に入力するデータを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号を選択します。

PN15: 15 段の PN 符号を選択します。

ALL0: すべて 0 のデータを選択します。

ALL1: すべて 1 のデータを選択します。

PN9 ERR: 1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。

**FEC**

FEC (Convolutional Coding または Turbo coding) 処理を行うか行わないかを選択します。

ON: FEC 処理を行います。

OFF: FEC 処理を行いません。

**CRC**

算出した CRC 値をもとに、CRC データを生成する方法を指定します。

NORMAL: 算出した CRC 値を CRC データとして用います (正しい CRC データが出力されます)。

INVERSE: 算出した CRC 値の論理反転した値を CRC データとして用います (誤った CRC データが出力されます)。

ADD ERR: 上記 NORMAL 動作と INVERSE 動作を組合わせて、1% の BLOCK ERROR を発生します。

**[DCCH]**

DCCH 設定の各設定は、チャンネル・コンフィギュレーション設定のデータ・モードが Information data モードのときに設定した値が有効になります。

**Data**

Information data に入力するデータを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号を選択します。

PN15: 15 段の PN 符号を選択します。

ALL0: すべて 0 のデータを選択します。

ALL1: すべて 1 のデータを選択します。

PN9 ERR: 1% のエラーを付加した 9 段の PN 符号を選択します。

**FEC**

FEC ( Convolutional Coding または Turbo coding ) 処理を行うか行わないかを選択します。

ON: FEC 処理を行います。

OFF: FEC 処理を行いません。

**CRC**

算出した CRC 値をもとに、CRC データを生成する方法を指定します。

NORMAL: 算出した CRC 値を CRC データとして用います ( 正しい CRC データが出力されます )。

INVERSE: 算出した CRC 値の論理反転した値を CRC データとして用います ( 誤った CRC データが出力されます )。

ADD ERR: 上記 NORMAL 動作と INVERSE 動作を組合わせて、1% の BLOCK ERROR を発生します。

**Ext Trigger**

EXT TRIG IN 端子信号に、本器のベースバンド・ブロックを同期させる場合に用います。このコマンドが入力されると、本器のベースバンド・ブロックはEXT TRIG IN 端子からのトリガ信号待ち状態になります。

---

注 この機能は、LINK 設定が Uplink(UE→BS) の場合に有効です。

---

**Ext Trigger Setup**

Ext Trigger Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

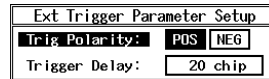


図 5-13 Ext Trigger Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Trig Polarity**

EXT TRIG IN 端子信号の立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジのどちらで、本器のベースバンド・ブロックを同期させるかの選択を行います。

POS: 立ち上がりエッジを用います。

NEG: 立ち下がりエッジを用います。

**Trigger Delay**

トリガ信号が入力されてから、本器のベースバンド・ブロックが同期するまでの遅延量をチップ単位で設定します。設定値 +1024(3GPP 規格による UL-DL Timing offset) チップの遅延が得られます。

**more 1/2**

Modulation 1/2メニューを表示します。

**Frequency & Level**

Frequency & Level メニューを表示します。

**Frequency Setup**

Frequency Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

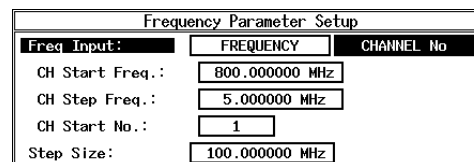


図 5-14 Frequency Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Freq Input**

周波数入力モードを選択します。

FREQUENCY:

周波数値を直接入力するモード

CHANNEL No.:

チャンネル番号による入力モード

**CH Start Freq.**

チャンネル・スタート周波数を設定します。

**CH Step Freq.**

チャンネル間隔を設定します。

**CH Start No.**

チャンネル開始番号を設定します。

**Step Size** ステップ・キーおよびデータ・ノブのステップ量を設定します。

**Level Setup** Level Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

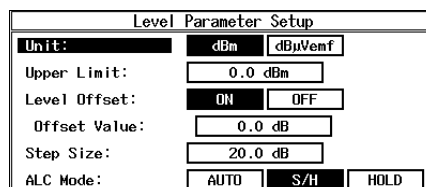


図 5-15 Level Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Unit** 設定、表示単位を選択を行います。

dBm: レベル関連の単位を dBm に指定します。

dBµVemf: レベル関連の単位を dBµVemf に指定します。

**Upper Limit** 設定の上限値を設定します。

**Level Offset** レベル・オフセット機能を有効にするか無効にするかを切り換えます。

ON: レベル・オフセット機能を有効にします。

OFF: レベル・オフセット機能を無効にします。

**Offset Value** レベル・オフセット値を設定します。

**Step Size** ステップ・キーのステップ量を設定します。

**ALC Mode** ALC の動作モードを選択します。  
R3562 の設定状態により、自動的に最適な動作モードが選択されます（詳細は R3562 取扱説明書を参照）。

AUTO: 通常の ALC

S/H: 基準変調パターンによるサンプル&ホールド

HOLD: 基準変調パターン時の ALC 電圧ホールド

---

注 最適動作モードが選択されていない場合、RF OUT 端子に出力されるレベルがずれることがあります。

---

**Modulation ON/OFF** RF出力の変調のONとOFFを選択します。

ON: RF 出力を送信データで変調します。

OFF: RF 出力を無変調信号にします。

**Output ON/OFF**

RF出力のONとOFFを選択します。

ON: RF 信号を出力します。

OFF: RF 信号を停止します。

**Other**

Other メニューを表示します。

**Clock & Timing Setup**

Clock / Timing Signal Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Clock/Timing Signal Parameter Setup					
Synth Ref In:	1MHz	2MHz	5MHz	10MHz	15MHz
	INTERNAL				
10MHz Ref Adj.:	0				
MOD-TB In:	3.84MHz	7.68MHz	15.36MHz	INTERNAL	
Clock Out 1:	OFF	RADIO FRAME	SLOT TIMING		
	CHIP CLOCK	TPC REPEAT	TPC INSERT		
Clock Out 2:	OFF	RADIO FRAME	SLOT TIMING		
	CHIP CLOCK	TPC REPEAT	TPC INSERT		

図 5-16 Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Synthe Ref In**

シンセサイザの基準信号を選択します。

1MHz: 外部 1MHz 信号を使用します。

2MHz: 外部 2MHz 信号を使用します。

5MHz: 外部 5MHz 信号を使用します。

10MHz: 外部 10MHz 信号を使用します。

15MHz: 外部 15MHz 信号を使用します。

INTERNAL: 内蔵基準信号を使用します。

**10MHz Ref Adj.**

内蔵基準信号の周波数補正量を設定します。

**MOD-TB In**

モジュレーション用基準信号を選択します。

3.84MHz: 外部 3.84MHz 信号を使用します。

7.68MHz: 外部 7.68MHz 信号を使用します。

15.36MHz: 外部 15.36MHz 信号を使用します。

INTERNAL: 内蔵基準信号を使用します。

**Clock Out 1/Clock Out 2**

変調タイミング関係の信号を CLOCK OUT 1 および CLOCK OUT 2 コネクタに出力します。

OFF: 出力信号を OFF します。

RADIO FRAME:

無線フレームのタイミングを出力します。

## SLOT TIMING:

スロットのタイミングを出力します。

## CHIP CLOCK:

チップ・クロックを出力します。

## TPC REPEAT:

Repeat 動作時の TPC コマンド・シーケンスの先頭スロット・タイミングを出力します。

## TPC INSERT:

Insert 動作時の TPC コマンド・シーケンスの先頭スロット・タイミングを出力します。

**Ext I/Q Setup**

External I/Q Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

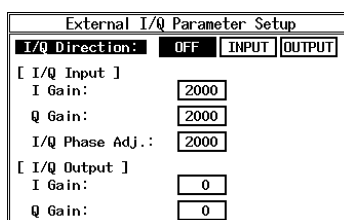


図 5-17 External I/Q Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**I/Q Direction**

RF 出力を変調する I/Q 信号の種類と、I/Q IN/OUT コネクタの機能を選択します。

OFF: 外部への IQ 出力を OFF、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。

INPUT: 外部よりの IQ 信号を IQ モジュレータへ入力します。

OUTPUT: 外部への IQ 出力を ON、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。

---

注 OUTPUT モードのとき、RF 出力のレベル、変調精度は保証されません。

---

**[I/Q Input]**

I/Q Direction で Input を選択した場合のパラメータを指定します。

**I Gain** I 信号の入力アンプのゲインを設定します。

**Q Gain** Q 信号の入力アンプのゲインを設定します。

**I/Q Phase Adj.**

I 信号と Q 信号の位相補正量を設定します。

- [I/Q Output]** I/Q Direction で Output を選択した場合のパラメータを指定します。
- I Gain** I 信号の出力アンプのゲインを設定します。
- Q Gain** Q 信号の出力アンプのゲインを設定します。
- Cal/Test** Cal/Testメニューを表示します。
- CAL** キャリブレーションを実行します。実行後、キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。
- Cal Corr ON/OFF** キャリブレーション補正モードの ON と OFF を選択します。
- ON: キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。
- OFF: 補正を行いません。
- Self Test** 自己診断を実行します。
- Save** Save Register Listダイアログ・ボックスを表示します。レジスタを選択した後、ENTERを押すとセーブを行います。
- | Save Register List |          |          |                |          |        |
|--------------------|----------|----------|----------------|----------|--------|
| No.                | I/Q Dir. | Link     | Frequency      | Level    | Output |
| 1:                 | INPUT    | UPLINK   | 2110.000000MHz | -80.0dBm | ON     |
| 2:                 | OUTPUT   | DOWNLINK | 1000.000000MHz | -80.0dBm | ON     |
| 3:                 | empty    |          |                |          |        |
- 図 5-18 Save Register List ダイアログ・ボックス
- Recall** Recall Register Listダイアログ・ボックスを表示します。レジスタを選択した後、ENTER を押すとリコールを行います。
- | Recall Register List |          |          |                |          |        |
|----------------------|----------|----------|----------------|----------|--------|
| No.                  | I/Q Dir. | Link     | Frequency      | Level    | Output |
| 1:                   | INPUT    | UPLINK   | 2110.000000MHz | -80.0dBm | ON     |
| 2:                   | OUTPUT   | DOWNLINK | 1000.000000MHz | -80.0dBm | ON     |
| 3:                   | empty    |          |                |          |        |
- 図 5-19 Recall Register List ダイアログ・ボックス
- Preset** 設定内容を初期化します。
- Modulation ON/OFF** RF 出力の変調の ON と OFF を選択します。
- ON: RF 出力を送信データで変調します。
- OFF: RF 出力を無変調信号にします。
- Output ON/OFF** RF 出力の ON と OFF を選択します。



5.2 リファレンス

ON: RF 信号を出力します。

OFF: RF 信号を停止します。

*Quit*

Rx コントロール・オプションを終了します。

### 5.3 測定例

ここでは、Downlink チャンネルの BER 測定を行います。

測定条件： ここでの測定対象を以下に示します。測定例中の設定値については、測定対象に合った数値を設定して下さい。

#### 出力信号

周波数：	2110 MHz
出力レベル：	-80 dBm
リンク：	DOWNLINK
DPCH チャンネル・コンフィギュレーション：	Infomation モード、スロット・フォーマット番号 =11 (Infomation bit rate=12.2kbps)
Scrambling Code:	0
DPCH Channelization Code:	2
DTCH データ：	PN9

#### BER カウンタ

測定データ・パターン：	PN9
測定データ長：	10000 bit
入力クロック極性：	NEG (立ち下がり)
入力データ極性：	POS (非反転)

#### 機器の接続

1. 下図のように機器を接続します。

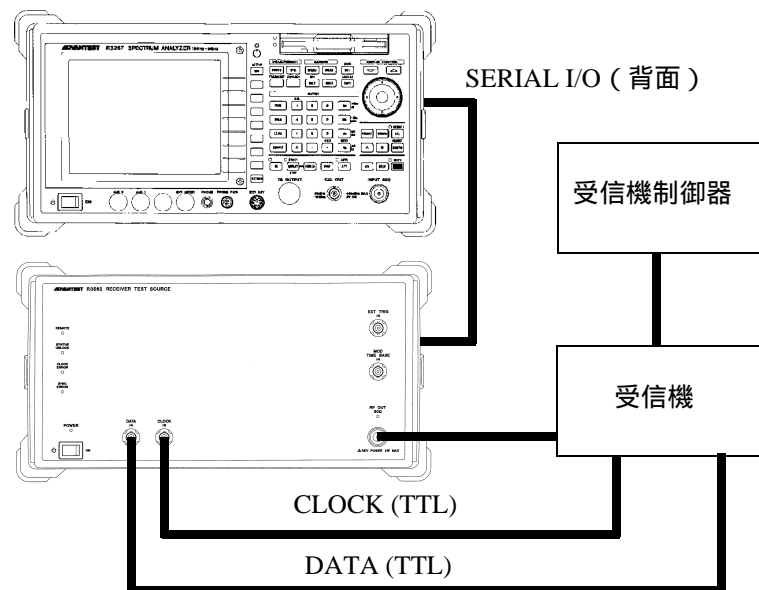


図 5-20 DUT の接続

## 5.3 測定例

## 被試験ユニットの設定

2. 被試験ユニットを測定条件に合わせて設定します。

## 設定状態の初期化

3. **ADVANCE, Rx Control [R3562], Other, Preset** と押します。

## 出力信号の設定

4. **FREQ, 2, 1, 1, 0, MHz** と押します。
5. **Level, -, 8, 0, GHz(dBm)** と押します。
6. **Modulation, STD Setup** と押します。  
STD Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

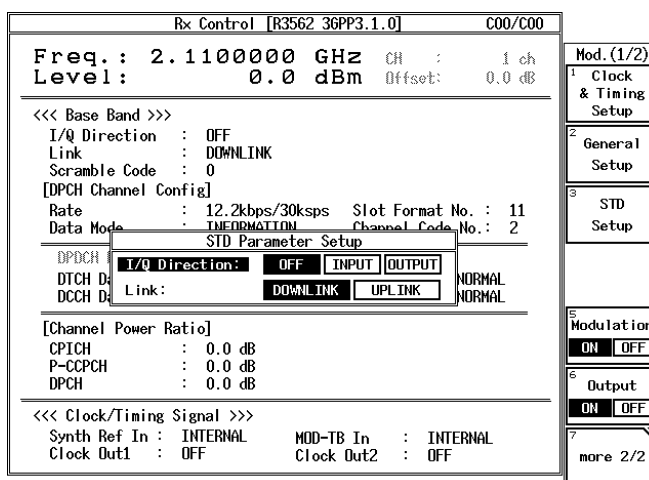


図 5-21 STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス

7. 下記の各項目を設定します。

I/Q Direction: OFF  
Link: DOWNLINK

8. **General Setup** を押します。  
General Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

Rx Control [R3562 36PP3.1.0] C00/C00	
Freq.:	2.1100000 GHz CH : 1 ch
Level:	0.0 dBm Offset: 0.0 dB
General Parameter Setup	
Scramble Code:	0
DPCH Channel Config:	PHYS.(8)/30ksps
	PHYS.(9)/30ksps
	PHYS.(10)/30ksps
	PHYS.(11)/30ksps
	PHYS.(12)/60ksps
	PHYS.(13)/120ksps
DPDCH Data:	PHYS.(14)/240ksps
	PHYS.(15)/480ksps
	INFO.(11)/12.2kbps
DPCH Channel Code:	INFO.(13)/64kbps
	INFO.(14)/144kbps
[ Channel Power Ratio ]	INFO.(15)/384kbps
	PN9
	PN15
	ALL0
	ALL1
DPCH Channel Code:	PN9 ERR
CPICH:	0.0 dB
P-CCPCH:	0.0 dB
DPCH:	0.0 dB

Mod. (1/2)  
 1 Clock & Timing Setup  
 2 General Setup  
 3 STD Setup  
 4  
 5 Modulation ON OFF  
 6 Output ON OFF  
 7 more 2/2

図 5-22 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス

## 9. 下記の各項目を設定します。

Scrambling Code: 0  
 DPCH Channel Config: INFO.(11)/12.2kbps  
 DPDCH DATA: PN9  
 DPCH channel Code: 2  
 [Channel Power Ratio]  
 CPICH: 0 dB  
 P-CCPCH: 0 dB  
 DPCH: 0 dB

## 5.3 測定例

10. *more 2/2, DTCH/DCCH Setup* を押します。  
DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

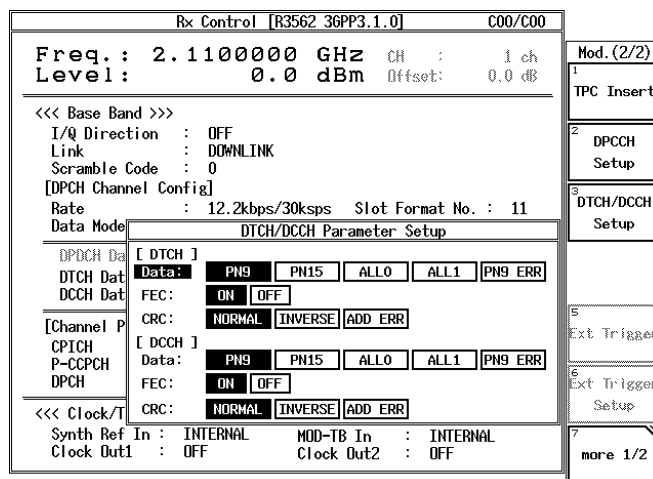


図 5-23 DTCH/DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス

11. 下記の項目を DTCH および DCCH それぞれ設定します。

Data: PN9  
FEC: ON  
CRC: NORMAL

12. **Return** を押します。

## BER カウンタの設定

13. *BER, Parameter Setup* と押します。  
BER Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

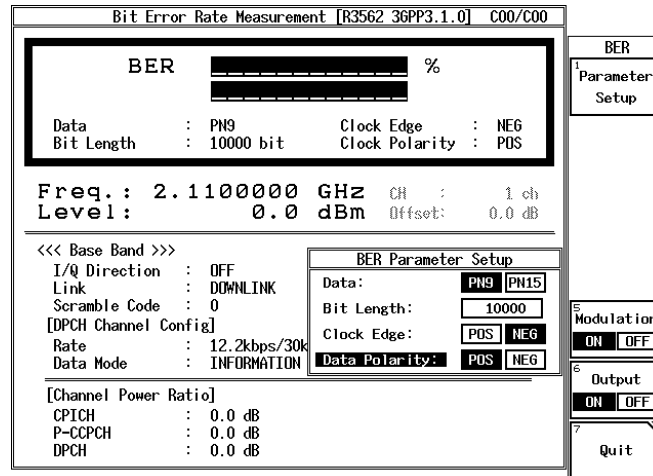


図 5-24 BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス

14. 下記の各項目を設定します。

Data: PN9  
Bit Length: 10000  
Clock Edge: NEG  
Data Polarity: POS

測定の開始

15. **REPEAT** を押します。  
ビット・エラー・レートが表示されます。

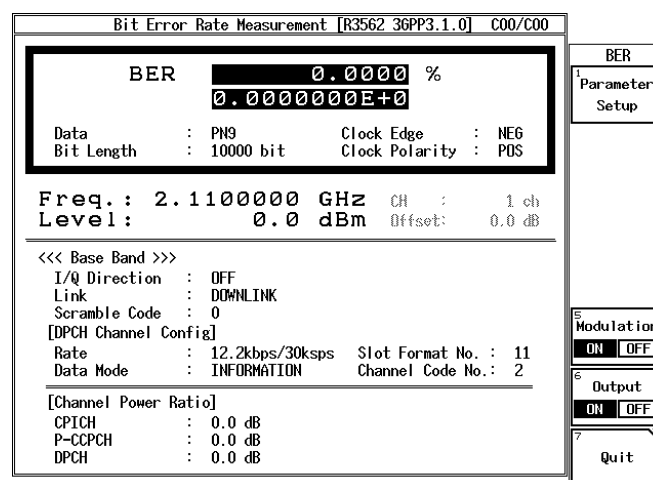


図 5-25 ビット・エラー・レート測定結果

## 6. R3562 OPT65 (cdma2000) の操作説明

この章では、R3562 OPT65 cdma2000 オプションの操作方法をキーの機能ごとに説明しています。

### 6.1 概要

R3562 の操作メニューは、ADVANCE キーの下に配置されます。

ADVANCE, *Rx Control*[R3562] と押すと、R3267 シリーズは、R3562 コントロール・モードとなり、図 6-2 の画面が表示され、以降 R3562 の設定および測定が可能となります。

このモードでは、FREQ と LEVEL を除き、ソフト・キーやダイアログ・ボックスでの操作のみ有効となります。通常の操作モードで使用できる SPAN などの操作はできません。

このモードから通常の操作モードに戻るには、POWER、UTIL、TRANSIENT または *Quit* を押して下さい。

[ コミュニケーション・システムの設定について ]

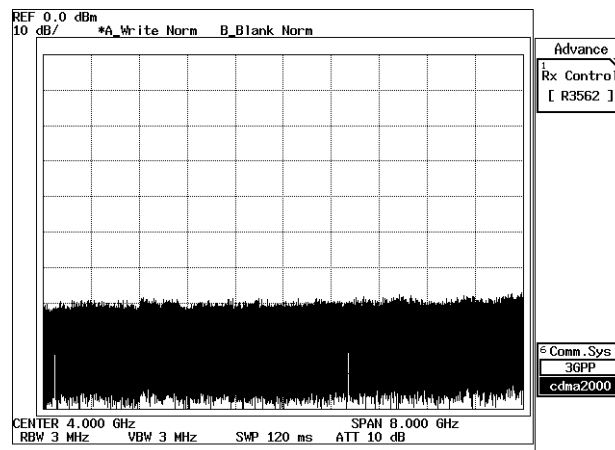


図 6-1 初期画面

R3562 の OPT65(cdma2000) を本オプションで制御するには、R3562 のコミュニケーション・システムが cdma2000 モードに設定されている必要があります。初期画面 (図 6-1) の Comm.sys キーの選択が 3GPP (反転表示) となっている場合は、モード設定が異なります。以下の手順でコミュニケーション・システムを切り替えて下さい。

1. Comm.sys キーを押して cdma2000 を選択 (反転表示) して下さい。
2. R3562 の電源スイッチを一度 OFF にして再投入して下さい。

**注意** 上記 1 だけではコミュニケーション・システムの切り替えは完了しません。必ず 2 の電源操作が必要です。

6.1 概要

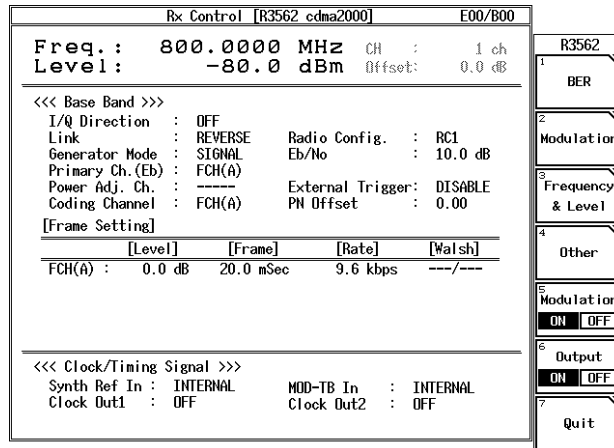


図 6-2 R3562 コントロール・メイン画面 (cdma2000)



## 6.2 リファレンス

ここでは、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス: 6章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ: パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明: パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

この章は、パネル・キーをアルファベット順にソートしています。

### 6.2.1 メニュー・インデックス

このメニュー・インデックスは、6章のキー索引として活用して下さい。

操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
10MHz Ref Adj. ....	6-6, 6-10, 6-12, 6-46	Clock Out 2.....	6-6, 6-10, 6-13, 6-46
ALC Mode .....	6-10, 6-45	Coding Channel .....	6-8, 6-26, 6-27, 6-29, 6-31
AWCN .....	6-47	Burst.....	6-6, 6-14
AWGN .....	6-10	DATA .....	6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43
AWGN Cal Corr .....	6-48	DCCH Setup .....	6-9, 6-34
AWGN Cal Corr ON/OFF .....	6-10	EXT Trigger.....	6-14, 6-16
Add. Bit Error .....	6-9, 6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43	Data.....	6-6, 6-9, 6-11
BER.....	6-6, 6-11	Data Polarity .....	6-6, 6-11
CH Start Freq. ....	6-10, 6-44	Eb/No .....	6-6, 6-7, 6-15, 6-16, 6-20, 6-22
CH Start No. ....	6-10, 6-44	Entry Mode .....	6-9, 6-34
CH Step Freq. ....	6-10, 6-44	Error Ratio .....	6-9, 6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43
CRC .....	6-9, 6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43	Equalizing .....	6-19, 6-22
Cal/Test.....	6-10, 6-47	Equalizing Filter .....	6-7
Bit Length .....	6-6, 6-11	Ext I/Q Setup .....	6-10, 6-46
Clock & Timing Setup.....	6-6, 6-10, 6-12, 6-45	External Trigger.....	6-6
Clock Edge.....	6-6, 6-11	FCH(TRCH A) Setup .....	6-9, 6-33, 6-38
Block Interleaver.....	6-9, 6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43	FCH(TRCH B) Setup.....	6-9, 6-36, 6-39, 6-42
Clock Out 1 .....	6-6, 6-10, 6-13, 6-46	FCH(TRCH C) Setup.....	6-9, 6-40
		FEC .....	6-26, 6-28,

## 6.2 リファレンス

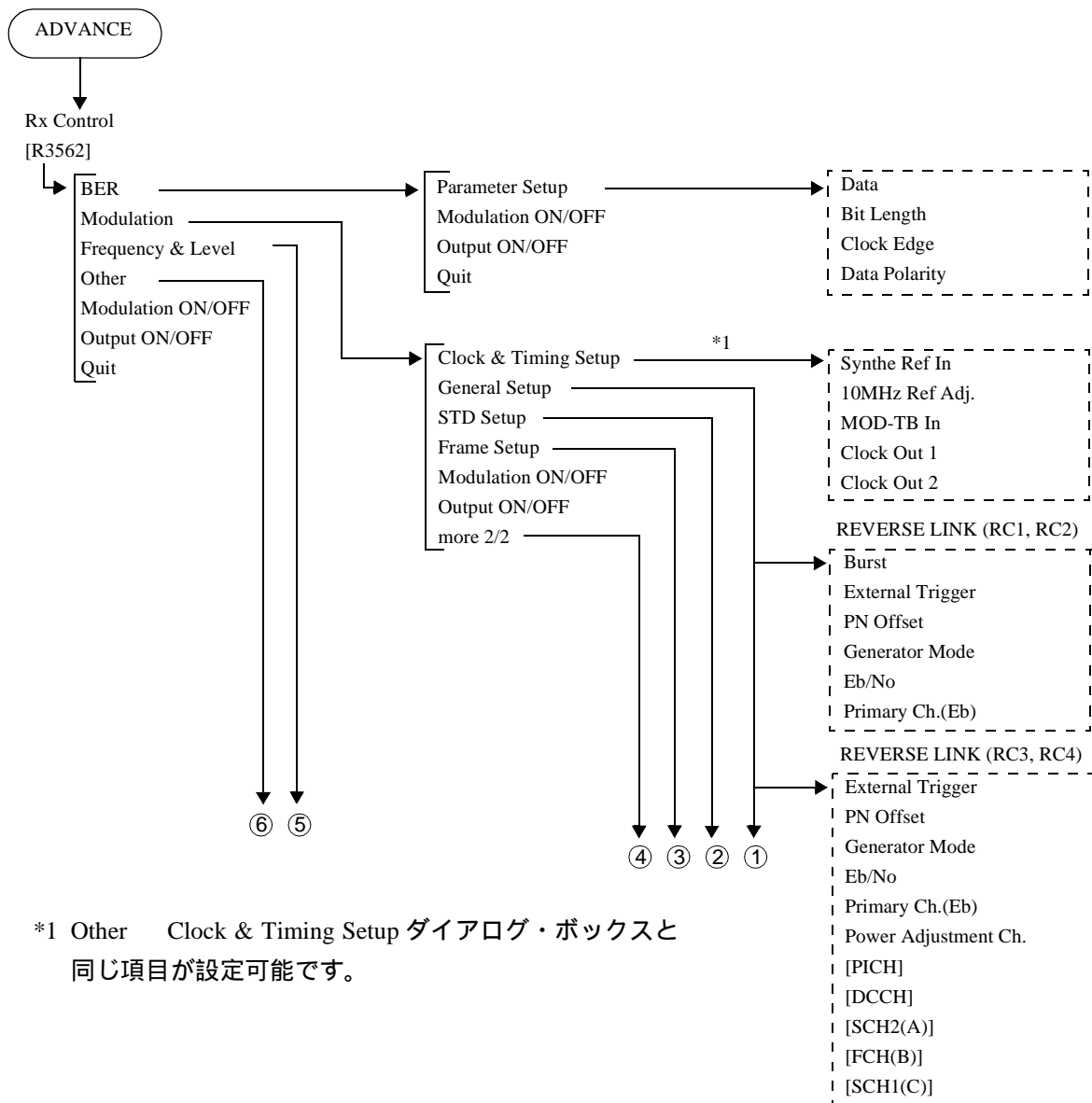
FREQ .....	6-29, 6-32	6-15, 6-17,
FREQ .....	6-11	6-20, 6-22
Gating .....	6-9, 6-34	Quit .....
Gating Rate .....	6-9, 6-34	6-6, 6-12,
General Setup.....	6-6, 6-13,	6-49
	6-15, 6-19,	SCH(TRCH A) Setup .....
	6-22	6-9, 6-41
Generator Mode .....	6-6, 6-7,	SCH(TRCH C) Setup.....
	6-15, 6-16,	6-9, 6-43
	6-19, 6-22	SCH1(TRCH C) Setup.....
Frame .....	6-26, 6-27,	6-9, 6-37
	6-29, 6-32	SCH2(TRCH A) Setup .....
Frame Setup .....	6-25, 6-26,	6-9, 6-35
	6-28, 6-30	REPEAT .....
Freq Input .....	6-10, 6-44	6-11
Frequency & Level .....	6-6, 6-43	SINGLE .....
Frequency Setup.....	6-10, 6-44	6-11
I Gain .....	6-10, 6-47	START.....
I/Q Direction .....	6-7, 6-10,	6-11
	6-25, 6-47	STD Setup.....
I/Q Phase Adj.....	6-10, 6-47	6-6, 6-25
LEVEL .....	6-11	STOP.....
MOD-TB In .....	6-6, 6-10,	6-11
	6-12, 6-46	Radio Configuration.....
Level Offset .....	6-10, 6-44	6-7, 6-25
Level Setup .....	6-10, 6-44	Rate .....
Link .....	6-7, 6-25	6-26, 6-27,
Modulation .....	6-6, 6-12	6-29, 6-32
Modulation ON/OFF.....	6-6, 6-10,	6-29, 6-32
	6-11, 6-32,	Save.....
	6-48	6-10, 6-48
Modulator .....	6-10, 6-48	Save Register List .....
Modulator Cal Corr.....	6-48	6-10
Modulator Cal Corr ON/OFF.....	6-10	Recall .....
Offset Value .....	6-10, 6-45	6-10, 6-48
Other .....	6-6, 6-45	Recall Register List.....
Output ON/OFF .....	6-6, 6-10,	6-10
	6-12, 6-32,	Self Test .....
	6-48	6-10, 6-48
Q Gain .....	6-10, 6-47	Rep. Pattern.....
PICH Setup .....	6-9, 6-34	6-33, 6-35,
PN Offset .....	6-6, 6-14,	6-36, 6-37,
	6-16	6-38, 6-39,
QOF.....	6-32	6-40, 6-41,
Parameter Setup .....	6-6, 6-11	6-42, 6-43
Power Adjustment Ch. ....	6-6, 6-7,	Repeat Pattern .....
	6-17, 6-20,	6-9
	6-23	Step Size.....
Power Control Pattern.....	6-9, 6-34	6-10, 6-44,
Preset.....	6-10, 6-48	6-45
Primary Ch.(Eb) .....	6-6, 6-7,	Rx Control [R3562] .....
		6-6
		Synthe Ref In .....
		6-6, 6-10,
		6-12, 6-45
		Unit .....
		6-10, 6-44
		Upper Limit.....
		6-10, 6-44
		Walsh Len .....
		6-28, 6-29,
		6-32
		Walsh No. ....
		6-28, 6-29,
		6-32
		[DCCH].....
		6-6, 6-8,
		6-17, 6-27
		[FCH(A)].....
		6-7, 6-8,
		6-20, 6-26,
		6-29
		[FCH(B)].....
		6-6, 6-7,
		6-8, 6-17,
		6-20, 6-23,
		6-27, 6-29,
		6-32
		[FCH(C)].....
		6-7, 6-20,
		6-29
		[I/Q Input] .....
		6-10, 6-47

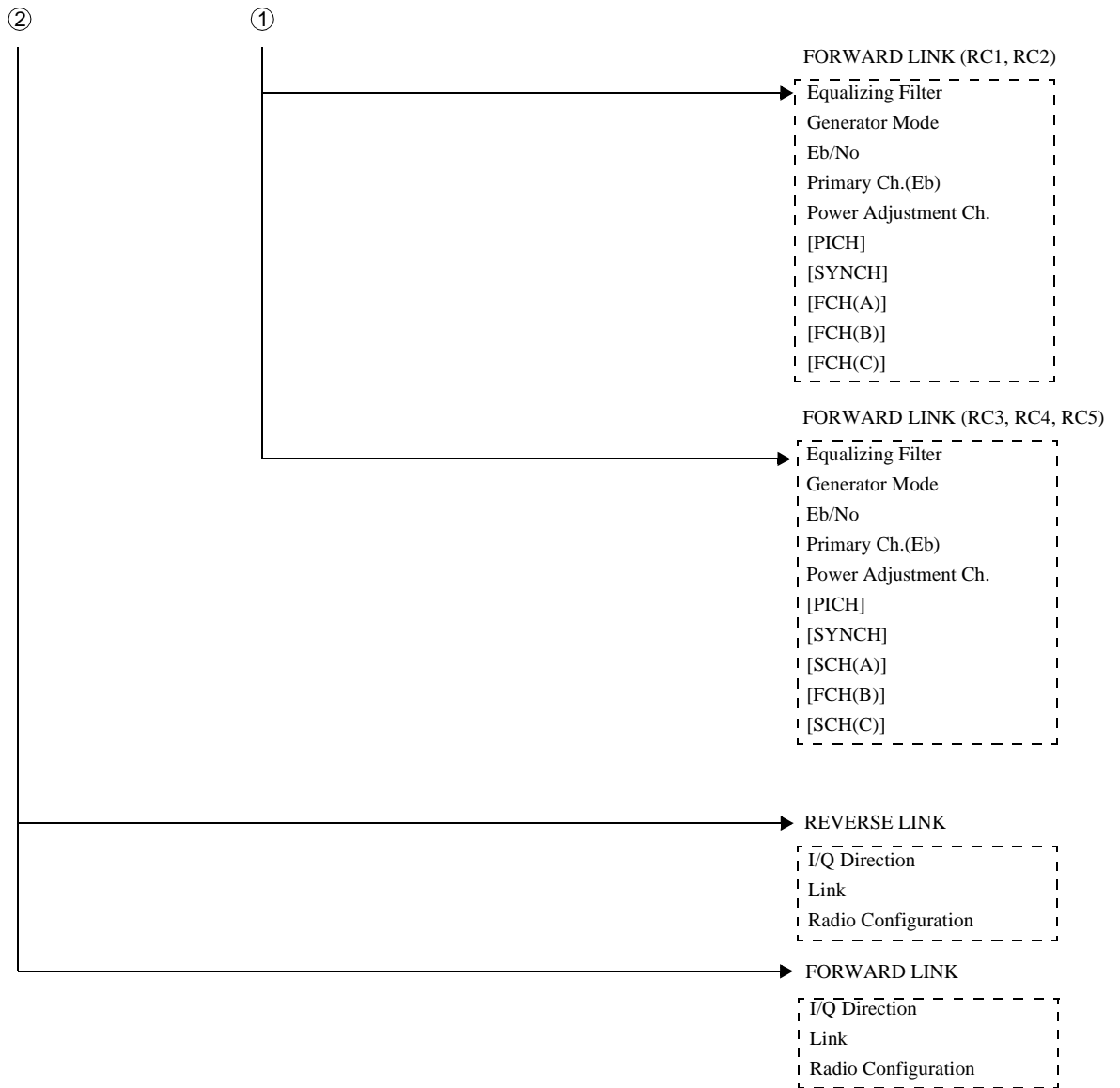
[I/Q Output] .....	6-10, 6-47
[PICH] .....	6-6, 6-7, 6-17, 6-20, 6-23
[SCH(A)] .....	6-7, 6-23, 6-32
[SCH(C)] .....	6-7, 6-8, 6-23, 6-32
[SCH1(C)] .....	6-6, 6-18, 6-27
[SCH2(A)] .....	6-6, 6-8, 6-17, 6-27
[SYNCH] .....	6-7, 6-20, 6-23

### 6.2.2 メニュー・マップ

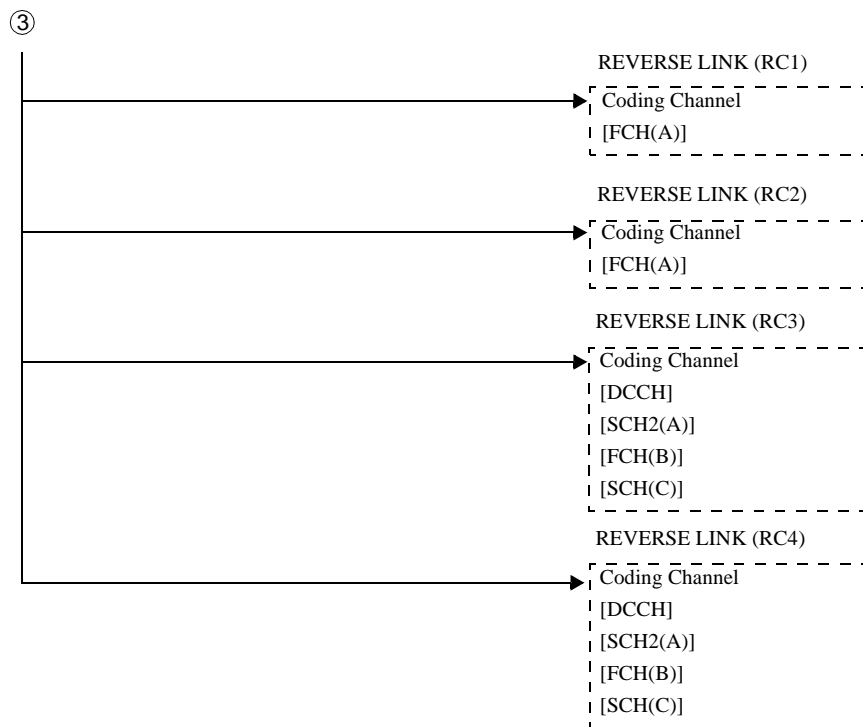
ここでは、パネル・キーのメニュー構成を示します。

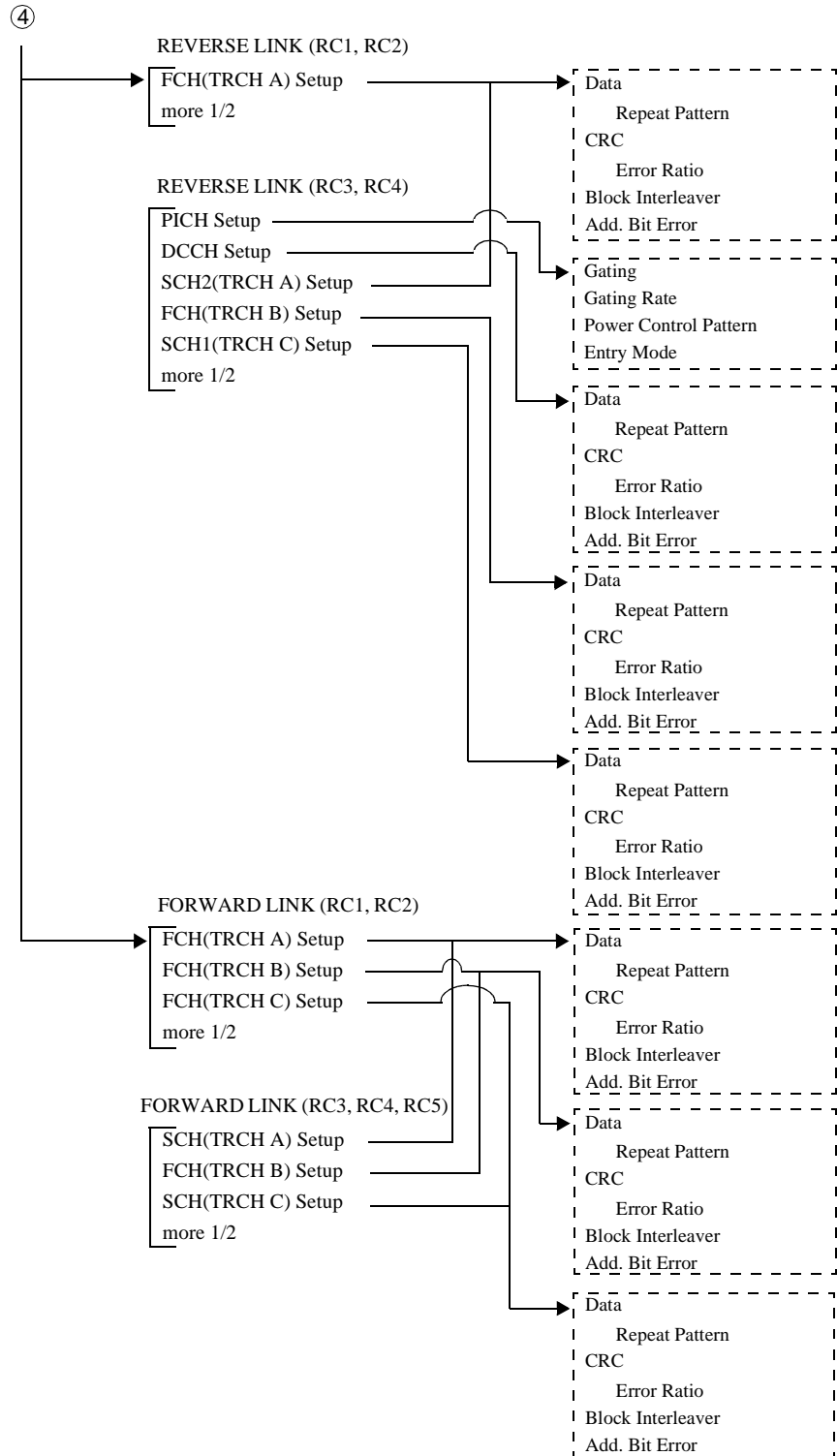
注    は、パネル・キーを示します。  
   は、ダイアログ・ボックスを示します。  
 その他は、ソフト・メニューを示します。



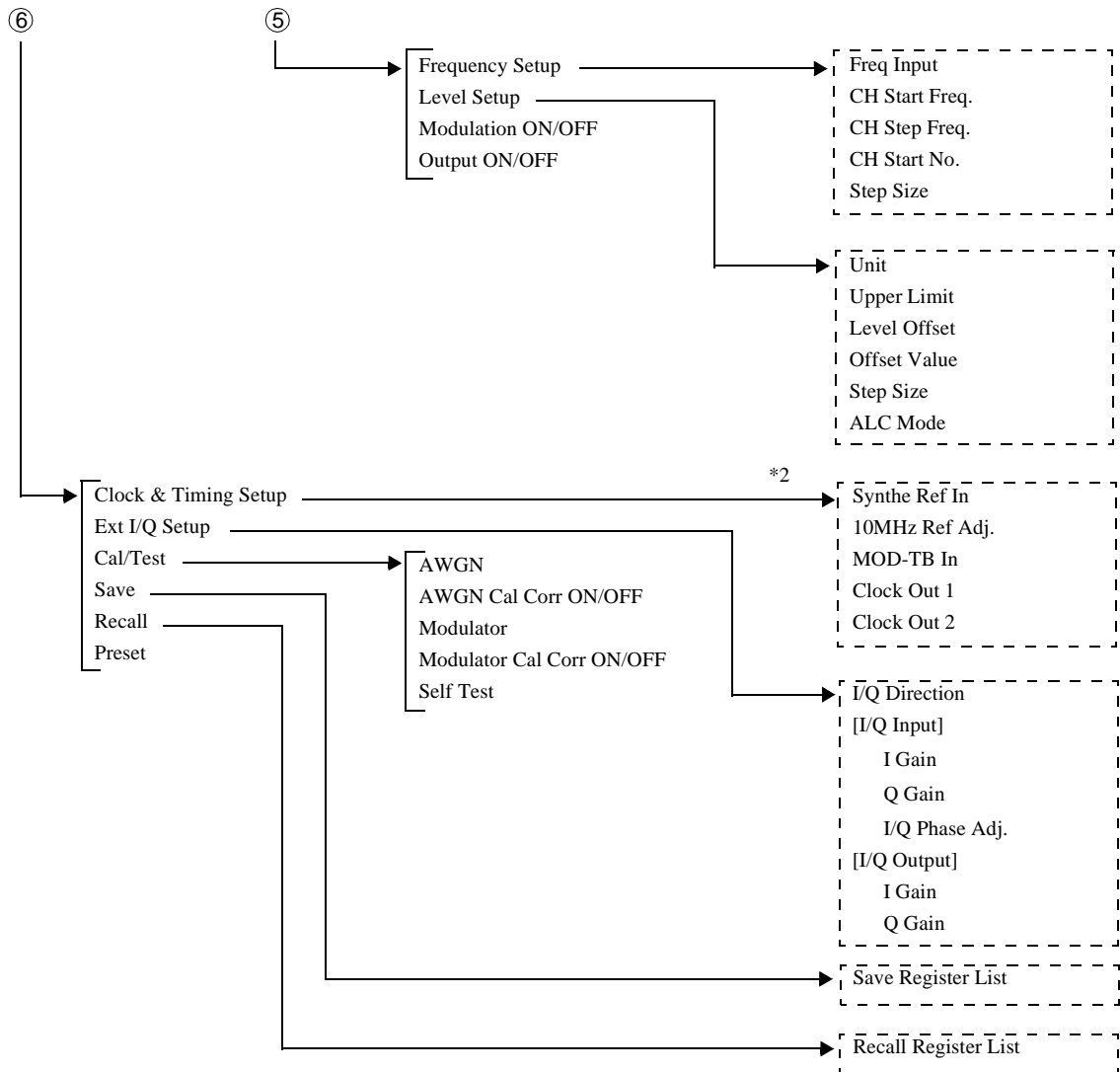


6.2 リファレンス





6.2 リファレンス



\*2 Modulation Clock & Timing Setup ダイアログ・ボックスと  
同じ項目が設定可能です。



### 6.2.3 機能説明

ここでは、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

<b>FREQ</b>	画面に数値入力ウィンドウが表示されます。 出力周波数の設定を行います。 設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。
<b>LEVEL</b>	画面に数値入力ウィンドウが表示されます。 出力レベルの設定を行います。 設定はアップ/ダウン・キー、データ・ノブおよびテン・キーで可能です。
<b>SINGLE</b>	BER 測定を 1 回だけ実行します。
<b>REPEAT (START/STOP)</b>	連続した BER 測定の実行や測定の停止を行います。
<b>BER</b>	BER 測定モード・メニューを表示します。
<b>Parameter Setup</b>	BER Parameter Setup ダイアログ・ボックスを表示します。

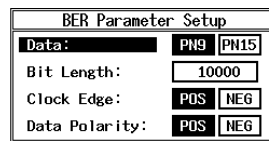


図 6-3 BER Parameter Setup ダイアログ・ボックス

<b>Data</b>	試験データの種類を選択します。 PN9: 9 段の PN 符号を選択します。 PN15: 15 段の PN 符号を選択します。
<b>Bit Length</b>	試験データの長さを選択します。
<b>Clock Edge</b>	クロックの有効エッジを選択します。 POS: クロックの立ち上がりでデータを取り込みます。 NEG: クロックの立ち下がりデータを取り込みます。
<b>Data Polarity</b>	データの極性を選択します。 POS: データを正論理として取り込みます。 NEG: データを負論理として取り込みます。
<b>Modulation ON/OFF</b>	RF出力の変調のONとOFFを選択します。

	ON:	RF 出力を変調信号にします。
	OFF:	RF 出力を無変調信号にします。
<b>Output ON/OFF</b>		RF出力のONとOFFを選択します。
	ON:	RF 信号を出力します。
	OFF:	RF 信号を停止します。
<b>Quit</b>		BER測定モードを終了します。
<b>Modulation</b>		Mod. (1/2) メニューを表示します。
<b>Clock &amp; Timing Setup</b>		Clock / Timing Signal Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Synth Ref In: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
10MHz Ref Adj.:	0				
MOD-TB In: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
Clock Out 1:	OFF	20mSec	26.6mSec	80mSec	
	2Sec	5mSec	CHIP CLOCK	EXT EVEN	
Clock Out 2:	OFF	20mSec	26.6mSec	80mSec	
	2Sec	5mSec	CHIP CLOCK	EXT EVEN	

図 6-4 Clock / Timing Signal Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

<b>Synthe Ref In</b>	シンセサイザの基準信号を選択します。
1MHz:	外部 1MHz 信号を使用します。
1.2288MHz:	外部 1.2288MHz 信号を使用します。
2MHz:	外部 2MHz 信号を使用します。
2.4576MHz:	外部 2.4576MHz 信号を使用します。
4.9152MHz:	外部 4.9152MHz 信号を使用します。
5MHz:	外部 5MHz 信号を使用します。
9.8304MHz:	外部 9.8304MHz 信号を使用します。
10MHz:	外部 10MHz 信号を使用します。
15MHz:	外部 15MHz 信号を使用します。
19.6608MHz:	外部 19.6608MHz 信号を使用します。
INTERNAL:	内蔵基準信号を使用します。
<b>10MHz Ref Adj.</b>	内蔵基準信号の周波数補正量を設定します。
<b>MOD-TB In</b>	モジュレーション用基準信号を選択します。

- 1MHz: 外部 1MHz 信号を使用します。
- 1.2288MHz: 外部 1.2288MHz 信号を使用します。
- 2MHz: 外部 2MHz 信号を使用します。
- 2.4576MHz: 外部 2.4576MHz 信号を使用します。
- 4.9152MHz: 外部 4.9152MHz 信号を使用します。
- 5MHz: 外部 5MHz 信号を使用します。
- 9.8304MHz: 外部 9.8304MHz 信号を使用します。
- 10MHz: 外部 10MHz 信号を使用します。
- 15MHz: 外部 15MHz 信号を使用します。
- 19.6608MHz: 外部 19.6608MHz 信号を使用します。
- INTERNAL: 内蔵基準信号を使用します。

***Clock Out 1/Clock Out 2***

変調タイミング関係の信号を CLOCK OUT 1 および CLOCK OUT 2 コネクタに出力します。

- OFF: 出力信号を OFF します。
- 20msec: Traffic Channel frame 周期を出力します。
- 26.6msec: Sync Channel frame 周期を出力します。
- 80msec: Sync Channel Super frame 周期を出力します。
- 2sec: Base Band Block 内部の Even Second 信号を出力します。
- 5msec: FCH、DCCH Channel frame 周期を出力します。
- CHIP CLOCK:  
Chip Clock 1.2288MHz を出力します。
- EXT EVEN: EXT TRIG 端子へ入力された Even Second 信号を出力します。

< Reverse RC1, RC2 時 >

***General Setup***

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでReverse RC1 または RC2 が選択されている場合、General Parameter Setup<Reverse:RC1/RC2> ダイアログ・ボックスを表示します。

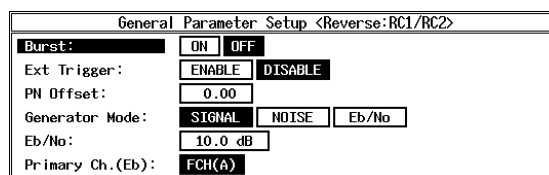


図 6-5 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC1, RC2 時 >

### **Burst**

Fundamental Channel のバースト ON/OFF を切り替えます。

ON: バースト ON にします。

OFF: バースト OFF にします。

---

注 Radio Configuration 3, 4 に設定した場合、バースト設定は自動的に OFF となります。

---

### **EXT Trigger**

正面パネルの EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号で、本器のベースバンド・ブロックを同期させるか、させないかの設定を行います。

ENABLE: EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号にベースバンド・ブロックが同期して動作します。

DISABLE: EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号にベースバンド・ブロックは同期しません。

---

注 EXT TRIG IN 端子に Even Second 信号が入力されていない状態で EXT Trigger を ENABLE に設定した場合 RF OUT 端子から信号が出力されません。また MOD TIME BASE IN または SYNTH REFIN により基地局と R3562 間で周波数同期が取られない場合、同期はずれを起こします。

---

### **PN Offset**

EXT Trigger の設定が ENABLE に設定され、本器が Even Second 信号に同期して動作しているとき、Even Second 信号に対する本器の PN オフセット値を設定します。

1PN オフセットは 64chips です。したがって、PN オフセットの設定値に対する chip 量は以下ようになります。

OFFSET[chip] = Round-Off (64 × PN OFFSET)

OFFSET[chip]: 本器に設定される chip 量

PN OFFSET: PN オフセットの設定値

Round-Off: 小数点以下を四捨五入します。

**Generator Mode** IQ モジュレータに入力する信号を選択します。

SIGNAL: CDMA 信号を選択します。

NOISE: 2MHz の帯域を持つ AWGN を選択します。

Eb/No: CDMA 信号に AWGN の出力を付加した信号を選択します。

プライマリ・チャンネル信号レベルと AWGN 出力レベルの比を設定できます。

注 ジェネレータ・モードを Eb/No に選択する場合は、あらかじめ AWGN キャリブレーションを行ってください。

**Eb/No** プライマリ・チャンネルに対しての Eb/No(Nt) 値を設定します。

**Primary Ch.(Eb)** Radio Configuration 1, 2 の場合、プライマリ・チャンネルは固定です。

< Reverse RC3, RC4 時 >

### General Setup

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでReverse RC3 または RC4 が選択されている場合、General Parameter Setup<Reverse:RC3/RC4> ダイアログ・ボックスを表示します。

General Parameter Setup <Reverse:RC3/RC4>			
Ext Trigger:	<input checked="" type="checkbox"/> ENABLE	<input type="checkbox"/> DISABLE	
PN Offset:	0.00		
Generator Mode:	<input checked="" type="checkbox"/> SIGNAL	<input type="checkbox"/> NOISE	<input type="checkbox"/> Eb/No
Eb/No:	10.0 dB		
Primary Ch.(Eb):	<input checked="" type="checkbox"/> DCCH	<input type="checkbox"/> SCH2(A)	<input type="checkbox"/> FCH(B)
Power Adj. Ch.:	<input type="checkbox"/> PICH	<input checked="" type="checkbox"/> DCCH	<input type="checkbox"/> SCH2(A) <input type="checkbox"/> FCH(B) <input type="checkbox"/> SCH1(C)
	<input type="checkbox"/> OFF		
[ PICH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -7.0 dB
[ DCCH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -1.1 dB
[ SCH2(A) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -20.0 dB
[ FCH (B) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -15.6 dB
[ SCH1(C) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -20.0 dB

図 6-6 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC3, RC4 時 >

**EXT Trigger** 正面パネルの EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号で、本器のベースバンド・ブロックを同期させるか、させないかの設定を行います。

ENABLE: EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号にベースバンド・ブロックが同期して動作します。

DISABLE: EXT TRIG IN 端子より入力された Even Second 信号にベースバンド・ブロックは同期しません。

---

注 EXT TRIG IN 端子に Even Second 信号が入力されていない状態で EXT Trigger を ENABLE に設定した場合 RF OUT 端子から信号が出力されません。また MOD TIME BASE IN または SYNTH REFIN により基地局と R3562 間で周波数同期が取られていない場合、同期はずれを起こします。

---

**PN Offset** EXT Trigger の設定が ENABLE に設定され、本器が Even Second 信号に同期して動作しているとき、Even Second 信号に対する本器の PN オフセット値を設定します。

1PN オフセットは 64chips です。したがって、PN オフセットの設定値に対する chip 量は以下ようになります。

OFFSET[chip] = Round-Off (64 × PN OFFSET)

OFFSET[chip]: 本器に設定される chip 量

PN OFFSET: PN オフセットの設定値

Round-Off: 小数点以下を四捨五入します。

**Generator Mode** IQ モジュレータに入力する信号を選択します。

SIGNAL: CDMA 信号を選択します。

NOISE: 2MHz の帯域を持つ AWGN を選択します。

Eb/No: CDMA 信号に AWGN の出力を付加した信号を選択します。  
プライマリ・チャンネル信号レベルと AWGN 出力レベルの比を設定できます。

---

注 ジェネレータ・モードを Eb/No に選択する場合は、あらかじめ AWGN キャリブレーションを行って下さい。

---

**Eb/No** プライマリ・チャンネルに対しての Eb/No(Nt) 値を設定します。

**Primary Ch.(Eb)** 出力 ON に設定されている Control Channel, Traffic Channel A/B/C の中からプライマリ・チャンネルを選択します。選択されたチャンネルが Eb/No(Nt) の対象チャンネルとなります。

DCCH: Dedicated Control Channel をプライマリ・チャンネルに選択します。

SCH2(A): Supplemental Channel 2 をプライマリ・チャンネルに選択します。

FCH(B): Fundamental Channel をプライマリ・チャンネルに選択します。

SCH1(C): Supplemental Channel 1 をプライマリ・チャンネルに選択します。

**Power Adjustment Ch.**

出力 ON に設定されているチャンネルの中から出力レベル補足チャンネルを選択します。選択されたチャンネルは他の出力チャンネルとのレベル総和が 0 dB となるように自動的に設定されます。

PICH: Pilot Channel を出力レベル補足チャンネルにします。

DCCH: Dedicated Control Channel を出力レベル補足チャンネルに選択します。

SCH2(A): Supplemental Channel 2 を出力レベル補足チャンネルに選択します。

FCH(B): Fundamental Channel を出力レベル補足チャンネルに選択します。

SCH1(C): Supplemental Channel 1 を出力レベル補足チャンネルに選択します。

OFF: 出力レベル補足チャンネルを OFF に選択します。

**[PICH]** Pilot Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[DCCH]** Dedicated Control Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[SCH2(A)]** Supplemental Channel 2 の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[FCH(B)]** Fundamental Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[SCH1(C)]**

Supplemental Channel 1 の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

## 注

1. プライマリ・チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。
2. 出力レベル補足チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。
3. 出力レベル補足チャンネルが選択されている場合、チャンネル・パワーの総和が 0dB を超えるチャンネル・レベル設定および、チャンネル OFF から ON への切り替えはできません。
4. 出力レベル補足チャンネルとして PICH、DCCH、SCH2(A)、FCH(B)、SCH1(C) のいずれかが選択されている場合は、チャンネルごとの出力レベル設定値はチャンネル・レベルの総和に対する比となります。これに対して出力レベル補足チャンネルの選択が OFF となっている場合は、チャンネルごとのレベル設定値はチャンネル間のレベル相対値のみを表します。  
例：出力レベル補足チャンネルが OFF の場合  
表 6-1 に示す Case a、b は実際に出力される各チャンネルのレベルは同じです。

表 6-1 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1

チャンネル	Case a	Case b
Pilot Channel	-5dB	-10dB
Dedicated Control Channel	-5dB	-10dB
Supplemental Channel 2 (A)	-5dB	-10dB

5. 出力レベル補足チャンネルが OFF の場合、チャンネル・パワーの総和に対して差が 20dB を超えるチャンネル・レベル設定はできません。  
例：チャンネル・レベル設定範囲が制限される例を  
表 6-2 に示します。



表 6-2 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2

チャンネル	設定レベル	制限
Pilot Channel	-1.9dB	上限値となります。
Dedicated Control Channel	-2.0dB	上限値となります。
Supplemental Channel 2 (A)	-18.9dB	下限値となります。

< Forward RC1, RC2 時 >

### General Setup

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでForward RC1 または RC2 が選択されている場合、General Parameter Setup<Forward:RC1/RC2> ダイアログ・ボックスを表示します。

General Parameter Setup <Forward:RC1/RC2>			
Equalizing:	<input checked="" type="checkbox"/> ON	<input type="checkbox"/> OFF	
Generator Mode:	<input checked="" type="checkbox"/> SIGNAL	<input type="checkbox"/> NOISE	<input type="checkbox"/> Eb/No
Eb/No:	10.0 dB		
Primary Ch. (Eb):	<input checked="" type="checkbox"/> FCH(A)	<input type="checkbox"/> FCH(B)	<input type="checkbox"/> FCH(C)
Power Adj. Ch.:	<input type="checkbox"/> PICH	<input type="checkbox"/> SYNCH	<input type="checkbox"/> FCH(A) <input type="checkbox"/> FCH(B) <input type="checkbox"/> FCH(C)
	<input type="checkbox"/> OFF		
[ PICH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -7.0 dB
[ SYNCH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -1.1 dB
[ FCH(A) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -15.6 dB
[ FCH(B) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -20.0 dB
[ FCH(C) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: -20.0 dB

図 6-7 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC1, RC2 時 >

### Equalizing

Equalizing Filter の ON/OFF を切り替えます。

### Generator Mode

IQ モジュレータに入力する信号を選択します。

SIGNAL: CDMA 信号を選択します。

NOISE: 2 MHz の帯域を持つ AWGN を選択します。

Eb/No: CDMA 信号に AWGN の出力を付加した信号を選択します。プライマリ・チャンネル信号レベルと AWGN 出力レベルの比を設定できます。

注 ジェネレータ・モードを Eb/No に選択する場合は、あらかじめ AWGN キャリブレーションを行って下さい。

<i>Eb/No</i>	プライマリ・チャンネルに対しての $E_b/N_0$ 値を設定します。
<i>Primary Ch.(Eb)</i>	出力 ON に設定されている Traffic Channel A/B/C の中からプライマリ・チャンネルを選択します。選択されたチャンネルが $E_b/N_0$ の対象チャンネルとなります。
FCH(A):	Fundamental Channel(A) をプライマリ・チャンネルに選択します。
FCH(B):	Fundamental Channel(B) をプライマリ・チャンネルに選択します。
FCH(C):	Fundamental Channel(C) をプライマリ・チャンネルに選択します。
<i>Power Adjustment Ch.</i>	出力 ON に設定されているチャンネルの中から出力レベル補足チャンネルを選択します。選択されたチャンネルは他の出力チャンネルとのレベル総和が 0 dB となるように自動的に設定されます。
PICH:	Pilot Channel を出力レベル補足チャンネルにします。
SYNCH:	Sync Channel を出力レベル補足チャンネルに選択します。
FCH(A):	Fundamental Channel(A) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
FCH(B):	Fundamental Channel(B) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
FCH(C):	Fundamental Channel(C) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
OFF:	出力レベル補足チャンネルを OFF に選択します。
<i>[PICH]</i>	Pilot Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。
<i>[SYNCH]</i>	Sync Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。
<i>[FCH(A)]</i>	Fundamental Channel(A) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。
<i>[FCH(B)]</i>	Fundamental Channel(B) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。
<i>[FCH(C)]</i>	Fundamental Channel(C) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

## 注

1. プライマリ・チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。
2. 出力レベル補足チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。
3. 出力レベル補足チャンネルが選択されている場合、チャンネル・パワーの総和が 0dB を超えるチャンネル・レベル設定および、チャンネル OFF から ON への切り替えはできません。
4. 出力レベル補足チャンネルとして PICH、SYNCH、FCH(A)、FCH(B)、FCH(C) のいずれかが選択されている場合は、チャンネルごとの出力レベル設定値はチャンネル・レベルの総和に対する比となります。これに対して出力レベル補足チャンネルの選択が OFF となっている場合は、チャンネルごとのレベル設定値はチャンネル間のレベル相対値のみを表します。  
例：出力レベル補足チャンネルが OFF の場合  
表 6-3 に示す Case a、b は実際に出力される各チャンネルのレベルは同じです。

表 6-3 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1

チャンネル	Case a	Case b
Pilot Channel	-5dB	-10dB
Sync Channel	-5dB	-10dB
Fundamental Channel(A)	-5dB	-10dB

5. 出力レベル補足チャンネルが OFF の場合、チャンネル・パワーの総和に対して差が 20dB を超えるチャンネル・レベル設定はできません。  
例：チャンネル・レベル設定範囲が制限される例を  
表 6-4 に示します。

表 6-4 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2

チャンネル	設定レベル	制限
Pilot Channel	-1.9dB	上限値となります。
Sync Channel	-2.0dB	上限値となります。
Fundamental Channel(A)	-18.9dB	下限値となります。

< Forward RC3, RC4, RC5 時 >

### General Setup

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスで Forward RC3、RC4 または RC5 が選択されている場合、General Parameter Setup<Forward:RC3/RC4/RC5> ダイアログ・ボックスを表示します。

General Parameter Setup <Forward:RC3/RC4/RC5>			
Equalizing:	<input checked="" type="checkbox"/> ON	<input type="checkbox"/> OFF	
Generator Mode:	<input checked="" type="checkbox"/> SIGNAL	<input type="checkbox"/> NOISE	<input type="checkbox"/> Eb/No
Eb/No:	<input type="text" value="10.0 dB"/>		
Primary Ch. (Eb):	<input checked="" type="checkbox"/> SCH(A)	<input type="checkbox"/> FCH(B)	<input type="checkbox"/> SCH(C)
Power Adj. Ch.:	<input type="checkbox"/> PICH	<input checked="" type="checkbox"/> SYNCH	<input type="checkbox"/> SCH(A) <input type="checkbox"/> FCH(B) <input type="checkbox"/> SCH(C)
	<input type="checkbox"/> OFF		
[ PICH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: <input type="text" value="-7.0 dB"/>
[ SYNCH ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: <input type="text" value="-1.1 dB"/>
[ SCH(A) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: <input type="text" value="-20.0 dB"/>
[ FCH(B) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: <input type="text" value="-15.6 dB"/>
[ SCH(C) ]	Output:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	Power Ratio: <input type="text" value="-20.0 dB"/>

図 6-8 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC3/RC4/RC5 時 >

**Equalizing** Equalizing Filter の ON/OFF を切り替えます。

**Generator Mode** IQ モジュレータに入力する信号を選択します。

SIGNAL: CDMA 信号を選択します。

NOISE: 2 MHz の帯域を持つ AWGN を選択します。

Eb/No: CDMA 信号に AWGN の出力を付加した信号を選択します。プライマリ・チャンネル信号レベルと AWGN 出力レベルの比を設定できます。

---

注 ジェネレータ・モードを Eb/No に選択する場合は、あらかじめ AWGN キャリブレーションを行って下さい。

---

**Eb/No** プライマリ・チャンネルに対しての Eb/No(Nt) 値を設定します。

**Primary Ch.(Eb)** 出力 ON に設定されている Traffic Channel A/B/C の中からプライマリ・チャンネルを選択します。選択されたチャンネルが Eb/No(Nt) の対象チャンネルとなります。

SCH(A): Supplemental Channel(A) をプライマリ・チャンネルに選択します。

- FCH(B): Fundamental Channel(B) をプライマリ・チャンネルに選択します。
- SCH(C): Supplemental Channel(C) をプライマリ・チャンネルに選択します。

**Power Adjustment Ch.**

出力 ON に設定されているチャンネルの中から出力レベル補足チャンネルを選択します。選択されたチャンネルは他の出力チャンネルとのレベル総和が 0 dB となるように自動的に設定されます。

- PICH: Pilot Channel を出力レベル補足チャンネルにします。
- SYNCH: Sync Channel を出力レベル補足チャンネルに選択します。
- SCH(A): Supplemental Channel(A) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
- FCH(B): Fundamental Channel(B) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
- SCH(C): Supplemental Channel(C) を出力レベル補足チャンネルに選択します。
- OFF: 出力レベル補足チャンネルを OFF に選択します。

**[PICH]** Pilot Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[SYNCH]** Sync Channel の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[SCH(A)]** Supplemental Channel(A) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[FCH(B)]** Fundamental Channel(B) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**[SCH(C)]** Supplemental Channel(C) の出力 ON/OFF および、Power Ratio を設定します。

**注**

1. プライマリ・チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。
2. 出力レベル補足チャンネルとして選択されているチャンネルの出力を OFF することはできません。

## 6.2 リファレンス

3. 出力レベル補足チャンネルが選択されている場合、チャンネル・パワーの総和が 0dB を超えるチャンネル・レベル設定および、チャンネル OFF から ON への切り替えはできません。
4. 出力レベル補足チャンネルとして PICH、SYNCH、SCH(A)、FCH(B)、SCH(C) のいずれかが選択されている場合は、チャンネルごとの出力レベル設定値はチャンネル・レベルの総和に対する比となります。これに対して出力レベル補足チャンネルの選択が OFF となっている場合は、チャンネルごとのレベル設定値はチャンネル間のレベル相対値のみを表します。  
例：出力レベル補足チャンネルが OFF の場合  
表 6-5 に示す Case a、b は実際に出力される各チャンネルのレベルは同じです。

表 6-5 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -1

チャンネル	Case a	Case b
Pilot Channel	-5dB	-10dB
Sync Channel	-5dB	-10dB
Supplemental Channel(A)	-5dB	-10dB

5. 出力レベル補足チャンネルが OFF の場合、チャンネル・パワーの総和に対して差が 20dB を超えるチャンネル・レベル設定はできません。  
例：チャンネル・レベル設定範囲が制限される例を  
表 6-6 に示します。

表 6-6 出力レベル補足チャンネル OFF 時の設定例 -2

チャンネル	設定レベル	制限
Pilot Channel	-1.9dB	上限値となります。
Sync Channel	-2.0dB	上限値となります。
Supplemental Channel(A)	-18.9dB	下限値となります。

**STD Setup**

STD Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

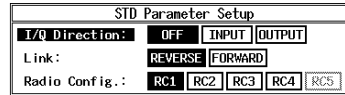


図 6-9 STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**I/Q Direction**

外部 IQ 端子の入出力切り替え、および IQ モジュレータへの IQ 信号経路選択を行います。

OFF: 外部への IQ 出力を OFF、ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。

INPUT: 外部よりの IQ 信号を IQ モジュレータへ入力します。

OUTPUT: 外部への IQ 出力を ON します。

**Link**

Link-Direction を選択します。

REVERSE: Reverse Link の信号を出力します。

FORWARD: Forward Link の信号を出力します。

**Radio Configuration**

IS2000 規格で定められた Radio Configuration 番号を指定します。

< Reverse RC1, RC2 時 >

**Frame Setup**

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでReverse RC1が選択されている場合 Frame Parameter Setup <Reverse: RC1>ダイアログ・ボックスを、Reverse RC2が選択されている場合 Frame Parameter Setup <Reverse: RC2>ダイアログ・ボックスをそれぞれ表示します。

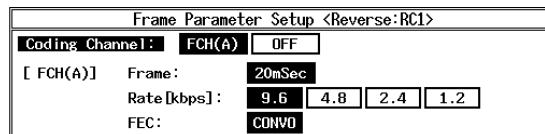


図 6-10 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC1 時 >

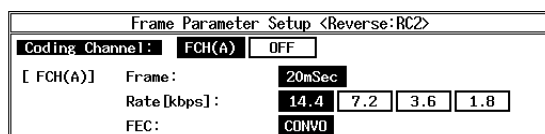


図 6-11 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC2 時 >

**Coding Channel** FCH をリアルタイム・コーディングとするか、リアルタイム・コーディング OFF とするかを選択します。

[FCH(A)]

**Frame** RC1、RC2 では Frame Length 20 msec 固定です。

**Rate** Data Rate を選択します。

**FEC** RC1、RC2 では Convolutional 固定です。

注 各パラメータの選択範囲は規格に準拠して制限されます。「R3562 OPT65 取扱説明書」2.3 章 cdma2000 機能および 3.2 章チャンネル設定を参照して下さい。

< Reverse RC3, RC4 時 >

**Frame Setup**

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでReverse RC3が選択されている場合Frame Parameter Setup <Reverse: RC3>ダイアログ・ボックスを、Reverse RC4が選択されている場合Frame Parameter Setup <Reverse: RC4>ダイアログ・ボックスをそれぞれ表示します。

Coding Channel:		DCCH	SCH2(A)	FCH(B)	SCH1(C)	OFF
[ DCCH ]	Frame:	5mSec	20mSec			
76.8 ksps	Rate [kbps]:	9.6				
	Walsh Len.:	16		Walsh No.:	8	
	FEC:	CONVO				
[ SCH2(A) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec		
76.8 ksps	Rate [kbps]:	76.8	38.4	19.2	9.6	4.8
	Walsh Len.:	2.7	1.5			
	Walsh Len.:	4	8	Walsh No.:	2	
	FEC:	CONVO	TURBO			
[ FCH(B) ]	Frame:	5mSec	20mSec			
76.8 ksps	Rate [kbps]:	9.6	4.8	2.7	1.5	
	Walsh Len.:	16		Walsh No.:	4	
	FEC:	CONVO				
[ SCH1(C) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec		
76.8 ksps	Rate [kbps]:	307.2	153.6	76.8	38.4	19.2
	Walsh Len.:	9.6	4.8	2.7	1.5	
	Walsh Len.:	2	4	Walsh No.:	1	
	FEC:	CONVO	TURBO			

図 6-12 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC3 時 >



Coding Channel1:		DCCH	SCH2(A)	FCH(B)	SCH1(C)	OFF
[ DCCH ]	Frame:	5mSec	20mSec			
76.8 ksps	Rate[kbps]:	9.6				
	Walsh Len.:	16		Walsh No.:	8	
	FEC:	CONVO				
[ SCH2(A) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec		
76.8 ksps	Rate[kbps]:	115.2	57.6	28.8	14.4	7.2
		3.6	1.8			
	Walsh Len.:	4	8	Walsh No.:	2	
	FEC:	CONVO	TURBO			
[ FCH(B) ]	Frame:	5mSec	20mSec			
76.8 ksps	Rate[kbps]:	14.4	9.6	7.2	3.6	1.8
	Walsh Len.:	16		Walsh No.:	4	
	FEC:	CONVO				
[ SCH1(C) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec		
76.8 ksps	Rate[kbps]:	230.4	115.2	57.6	28.8	14.4
		7.2	3.6	1.8		
	Walsh Len.:	2	4	Walsh No.:	1	
	FEC:	CONVO	TURBO			

図 6-13 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Reverse: RC4 時 >

**Coding Channel** リアルタイム・コーディングを行うチャンネルを選択します。

DCCH: Dedicated Control Channel をリアルタイム・コーディングします。

SCH2(A): Supplemental 2 Channel をリアルタイム・コーディングします。

FCH(B): Fundamental Channel をリアルタイム・コーディングします。

SCH1(C): Supplemental 1 Channel をリアルタイム・コーディングします。

OFF: すべてのチャンネルのリアルタイム・コーディングを OFF します。

注 同時に複数チャンネルのリアルタイム・コーディングはできません。選択チャンネルを切り替えると、新たに選択されたチャンネルのみがリアルタイム・コーディング対象となり、以前に選択されていたチャンネルは対象外となります。

[DCCH], [SCH2(A)], [FCH(B)], [SCH1(C)]

**Frame** Frame Length を選択します。

**Rate** Data Rate を選択します。

**Walsh Len** Walsh Length を選択します。

**Walsh No.** Walsh Number を選択します。

**FEC** Turbo Coding、Convolutional Coding のいずれかを選択します。

注 各パラメータの選択範囲は規格に準拠して制限され  
ます。「R3562 OPT65 取扱説明書」2.3 章 cdma2000  
機能および 3.2 章チャンネル設定を参照して下  
さい。

< Forward RC1, RC2 時 >

### Frame Setup

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでForward RC1が選択されている場合Frame Parameter Setup <Forward: RC1>ダイアログ・ボックスを、Forward RC2が選択されている場合Frame Parameter Setup <Forward: RC2>ダイアログ・ボックスをそれぞれ表示します。

Frame Parameter Setup <Forward:RC1>				
Coding Channel	FCH(A)	FCH(B)	FCH(C)	OFF
[ FCH(A) ]	Frame:	20mSec		
	Rate[kbps]:	9.6	4.8	2.4 1.2
	Walsh Len.:	64		Walsh No.: 8
	FEC:	CONVO		
[ FCH(B) ]	Frame:	20mSec		
	Rate[kbps]:	9.6	4.8	2.4 1.2
	Walsh Len.:	64		Walsh No.: 62
	FEC:	CONVO		
[ FCH(C) ]	Frame:	20mSec		
	Rate[kbps]:	9.6	4.8	2.4 1.2
	Walsh Len.:	64		Walsh No.: 63
	FEC:	CONVO		

図 6-14 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC1 時 >

Coding Channel:		FCH(A)	FCH(B)	FCH(C)	OFF
[ FCH(A) ]	Frame:	20mSec			
	Rate[kbps]:	14.4	7.2	3.6	1.8
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 8
	FEC:	CONVO			
[ FCH(B) ]	Frame:	20mSec			
	Rate[kbps]:	14.4	7.2	3.6	1.8
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 62
	FEC:	CONVO			
[ FCH(C) ]	Frame:	20mSec			
	Rate[kbps]:	14.4	7.2	3.6	1.8
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 63
	FEC:	CONVO			

図 6-15 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC2 時 >

**Coding Channel** リアルタイム・コーディングを行うチャンネルを選択します。

FCH(A): Fundamental Channel(A) をリアルタイム・コーディングします。

FCH(B): Fundamental Channel(B) をリアルタイム・コーディングします。

FCH(C): Fundamental Channel(C) をリアルタイム・コーディングします。

OFF: すべてのチャンネルのリアルタイム・コーディングを OFF します。

注 同時に複数チャンネルのリアルタイム・コーディングはできません。選択チャンネルを切り替えると、新たに選択されたチャンネルのみがリアルタイム・コーディング対象となり、以前に選択されていたチャンネルは対象外となります。

[FCH(A)], [FCH(B)], [FCH(C)]

**Frame** Frame Length を選択します。

**Rate** Data Rate を選択します。

**Walsh Len** Walsh Length を選択します。

**Walsh No.** Walsh Number を選択します。

**FEC** RC1、RC2 では Convolutional 固定です。

注 各パラメータの選択範囲は規格に準拠して制限されます。「R3562 OPT65 取扱説明書」2.3 章 cdma2000 機能および 3.2 章チャンネル設定を参照して下さい。

< Forward RC3, RC4, RC5 時 >

### Frame Setup

図 6-9のSTD Parameter Setupダイアログ・ボックスでForward RC3が選択されている場合Frame Parameter Setup <Forward: RC3>ダイアログ・ボックスを、Forward RC4が選択されている場合Frame Parameter Setup <Forward: RC4>ダイアログ・ボックスを、Forward RC5 が選択されている場合 Frame Parameter Setup <Forward: RC5>ダイアログ・ボックスをそれぞれ表示します。

Coding Channel:		SCH(A)	FCH(B)	SCH(C)	OFF
[ SCH(A) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec	
38.4 kbps	Rate[kbps]:	153.6	76.8	38.4	19.2 9.6
		4.8	2.7	1.5	
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 62
	FEC:	CONVO	TURBO		
	QOF:	0	1	2	3
[ FCH(B) ]	Frame:	5mSec	20mSec		
38.4 kbps	Rate[kbps]:	9.6	4.8	2.7	1.5
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 8
	FEC:	CONVO			
	QOF:	0	1	2	3
[ SCH(C) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec	
38.4 kbps	Rate[kbps]:	153.6	76.8	38.4	19.2 9.6
		4.8	2.7	1.5	
	Walsh Len.:	64			Walsh No.: 63
	FEC:	CONVO	TURBO		
	QOF:	0	1	2	3

図 6-16 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC3 時 >

Coding Channel:		SCH(A)	FCH(B)	SCH(C)	OFF		
[ SCH(A) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec			
19.2 kbps	Rate [kbps]:	307.2	153.6	76.8	38.4	19.2	
		9.6	4.8	2.7	1.5		
	Walsh Len.:	128				Walsh No.:	126
	FEC:	CONVO	TURBO				
	QDF:	0	1	2	3		
[ FCH(B) ]	Frame:	5mSec	20mSec				
19.2 kbps	Rate [kbps]:	9.6	4.8	2.7	1.5		
	Walsh Len.:	128				Walsh No.:	8
	FEC:	CONVO					
	QDF:	0	1	2	3		
[ SCH(C) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec			
19.2 kbps	Rate [kbps]:	307.2	153.6	76.8	38.4	19.2	
		9.6	4.8	2.7	1.5		
	Walsh Len.:	128				Walsh No.:	127
	FEC:	CONVO	TURBO				
	QDF:	0	1	2	3		

図 6-17 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC4 時 >

Coding Channel:		SCH(A)	FCH(B)	SCH(C)	OFF		
[ SCH(A) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec			
38.4 kbps	Rate [kbps]:	230.4	115.2	57.6	28.8	14.4	
		7.2	3.6	1.8			
	Walsh Len.:	64				Walsh No.:	62
	FEC:	CONVO	TURBO				
	QDF:	0	1	2	3		
[ FCH(B) ]	Frame:	5mSec	20mSec				
38.4 kbps	Rate [kbps]:	14.4	9.6	7.2	3.6	1.8	
	Walsh Len.:	64				Walsh No.:	8
	FEC:	CONVO					
	QDF:	0	1	2	3		
[ SCH(C) ]	Frame:	20mSec	40mSec	80mSec			
38.4 kbps	Rate [kbps]:	230.4	115.2	57.6	28.8	14.4	
		7.2	3.6	1.8			
	Walsh Len.:	64				Walsh No.:	63
	FEC:	CONVO	TURBO				
	QDF:	0	1	2	3		

図 6-18 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス  
< Forward: RC5 時 >

**Coding Channel** リアルタイム・コーディングを行うチャンネルを選択します。

SCH(A): Supplemental Channel(A) をリアルタイム・コーディングします。

FCH(B): Fundamental Channel(B) をリアルタイム・コーディングします。

SCH(C): Supplemental Channel(C) をリアルタイム・コーディングします。

OFF: すべてのチャンネルのリアルタイム・コーディングを OFF します。

---

注 同時に複数チャンネルのリアルタイム・コーディングはできません。選択チャンネルを切り替えると、新たに選択されたチャンネルのみがリアルタイム・コーディング対象となり、以前に選択されていたチャンネルは対象外となります。

---

*[SCH(A)], [FCH(B)], [SCH(C)]*

**Frame** Frame Length を選択します。

**Rate** Data Rate を選択します。

**Walsh Len** Walsh Length を選択します。

**Walsh No.** Walsh Number を選択します。

**FEC** Turbo、Convolutional Coding のいずれかを選択します。

**QOF** Forward Link RC3、4、5 では Quasi Orthogonal Spreading が可能です。規格で定められている Function0 ~ 3 を選択します。

---

注 各パラメータの選択範囲は規格に準拠して制限されます。「R3562 OPT65 取扱説明書」2.3 章 cdma2000 機能および 3.2 章チャンネル設定を参照して下さい。

---

**Modulation ON/OFF**

RF出力の変調のONとOFFを選択します。

ON: RF 出力を変調信号にします。

OFF: RF 出力を無変調信号にします。

**Output ON/OFF**

RF出力のONとOFFを選択します。

ON: RF 信号を出力します。

OFF: RF 信号を停止します。

**more 2/2**

Mod. (2/2)メニューを表示します。

Link、Radio Configurationによってメニューが異なります。

< Reverse RC1, RC2 時 >

### *FCH(TRCH A) Setup*

Traffic Channel A Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel A Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	5 [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="button" value="ADD ERR"/>		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-19 Traffic Channel A Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

### *DATA*

リアルタイム・コードへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

- PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
- ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
- REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

### *Rep. Pattern*

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

### *CRC*

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

- ON: 正しいCRCを使用します。
- OFF: CRCをすべて0とします。
- ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

### *Error Ratio*

CRCに付加するエラー比を選択します。

### *Block Interleaver*

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

### *Add. Bit Error*

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

&lt; Reverse RC3, RC4 時 &gt;

**PICH Setup**

PICH Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

PICH Parameter Setup					
Gating:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Gating Rate:	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 4		
Power Control Pattern: [Hex]					
( 1- 40):	<input type="text" value="AAAAAAAAAA"/>	( 41- 80):	<input type="text" value="AAAAAAAAAA"/>		
(81-120):	<input type="text" value="AAAAAAAAAA"/>	(121-160):	<input type="text" value="AAAAAAAAAA"/>		
Entry Mode:	<input checked="" type="radio"/> ALL	<input type="radio"/> EACH			

図 6-20 PICH Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Gating**

Reverse Pilot Channel の Gating をするか、しないかを切り替えます。ON の状態では同時に Power Control Subchannel が有効になり Power Control Bit が挿入されます。OFF の状態では Power Control Subchannel は無効になり Power Control Bit は常に Zero です。

**Gating Rate**

Reverse Pilot Channel の Gating レートを設定します。

- 1: Gating Rate =1 の信号が出力されます。
- 2: Gating Rate =1/2 の信号が出力されます。
- 4: Gating Rate =1/4 の信号が出力されます。

**Power Control Pattern**

Radio Configuration 3、4 の場合に Reverse Power Control Subchannel のビットパターンを設定します。[16 進数]

**Entry Mode** Power Control Pattern の入力モードを選択します。

- ALL: 1 文字入力すると他の文字すべてが同一となります。
- EACH: 40 文字をそれぞれ個別に入力します。

&lt; Reverse RC3, RC4 時 &gt;

**DCCH Setup**

DCCH Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

DCCH Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PMS	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	<input type="text" value="5"/>	[Hex]			
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="button" value="ADD ERR"/>		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-21 DCCH Parameter Setup ダイアログ・ボックス



<b>DATA</b>	リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。 PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。 PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。 ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。 ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。 REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。
<b>Rep. Pattern</b>	Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]
<b>CRC</b>	チャンネル・データに付加するCRCを選択します。 ON: 正しいCRCを使用します。 OFF: CRCをすべて0とします。 ADD ERR: CRCにエラーを付加します。
<b>Error Ratio</b>	CRCに付加するエラー比を選択します。
<b>Block Interleaver</b>	Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。
<b>Add. Bit Error</b>	Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Reverse RC3, RC4 時 >

### SCH2(TRCH A) Setup

Traffic Channel A Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel A Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	<input type="text" value="5"/> [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="radio"/> ADD ERR		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-22 Traffic Channel A Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

<b>DATA</b>	リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。
-------------	---

## 6.2 リファレンス

- PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
- ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
- REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

**Rep. Pattern**

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

**CRC**

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

ON: 正しいCRCを使用します。

OFF: CRCをすべて0とします。

ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

**Error Ratio**

CRCに付加するエラー比を選択します。

**Block Interleaver**

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

**Add. Bit Error**

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Reverse RC3, RC4 時 >

**FCH(TRCH B) Setup**

Traffic Channel B Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel B Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	[ 5 ] [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="button" value="ADD ERR"/>		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-23 Traffic Channel B Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

**DATA**

リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。

PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。

	ALL0:	すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
	ALL1:	すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
	REP.:	任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。
<b>Rep. Pattern</b>		Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]
<b>CRC</b>		チャンネル・データに付加するCRCを選択します。
	ON:	正しいCRCを使用します。
	OFF:	CRCをすべて0とします。
	ADD ERR:	CRCにエラーを付加します。
<b>Error Ratio</b>		CRCに付加するエラー比を選択します。
<b>Block Interleaver</b>		Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。
<b>Add. Bit Error</b>		Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Reverse RC3, 4 時 >

#### SCH1(TRCH C) Setup

Traffic Channel C Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

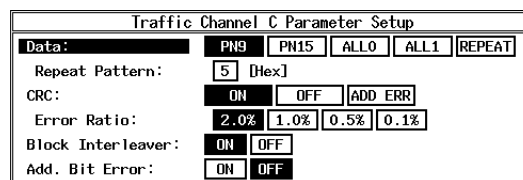


図 6-24 Traffic Channel C Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

#### DATA

リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

PN9:	9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
PN15:	15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
ALL0:	すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
ALL1:	すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
REP.:	任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

## 6.2 リファレンス

<b>Rep. Pattern</b>	Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]
<b>CRC</b>	チャンネル・データに付加するCRCを選択します。 ON: 正しいCRCを使用します。 OFF: CRCをすべて0とします。 ADD ERR: CRCにエラーを付加します。
<b>Error Ratio</b>	CRCに付加するエラー比を選択します。
<b>Block Interleaver</b>	Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。
<b>Add. Bit Error</b>	Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

&lt; Forward RC1, 2 時 &gt;

**FCH(TRCH A) Setup** Traffic Channel A Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

図 6-25 Traffic Channel A Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

<b>DATA</b>	リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。 PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。 PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。 ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。 ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。 REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。
<b>Rep. Pattern</b>	Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]
<b>CRC</b>	チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

ON: 正しいCRCを使用します。  
 OFF: CRCをすべて0とします。  
 ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

**Error Ratio**

CRCに付加するエラー比を選択します。

**Block Interleaver**

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

**Add. Bit Error**

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Forward RC1, 2 時 >

**FCH(TRCH B) Setup**

Traffic Channel B Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel B Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	<input type="text" value="5"/> [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="radio"/> ADD ERR		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-26 Traffic Channel B Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

**DATA**

リアルタイム・コードへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。  
 PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。  
 ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。  
 ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。  
 REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

**Rep. Pattern**

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

**CRC**

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

ON: 正しいCRCを使用します。  
 OFF: CRCをすべて0とします。  
 ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

## 6.2 リファレンス

<b>Error Ratio</b>	CRCに付加するエラー比を選択します。
<b>Block Interleaver</b>	Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。
<b>Add. Bit Error</b>	Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Forward RC1, 2 時 >

**FCH(TRCH C) Setup** Traffic Channel C Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

図 6-27 Traffic Channel C Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

**DATA** リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

PN9:	9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
PN15:	15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
ALL0:	すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
ALL1:	すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
REP.:	任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

**Rep. Pattern** Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

**CRC** チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

ON:	正しいCRCを使用します。
OFF:	CRCをすべて0とします。
ADD ERR:	CRCにエラーを付加します。

**Error Ratio** CRCに付加するエラー比を選択します。

**Block Interleaver** Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

**Add. Bit Error**

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Forward RC3, 4, 5 時 >

**SCH(TRCH A) Setup**

Traffic Channel A Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel A Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALLO	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	5 [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="button" value="ADD ERR"/>		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-28 Traffic Channel A Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

**DATA**

リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

- PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
- ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
- REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

**Rep. Pattern**

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

**CRC**

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

- ON: 正しいCRCを使用します。
- OFF: CRCをすべて0とします。
- ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

**Error Ratio**

CRCに付加するエラー比を選択します。

**Block Interleaver**

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

**Add. Bit Error**

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

< Forward RC3, 4, 5 時 >

### **FCH(TRCH B) Setup**

Traffic Channel B Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel B Parameter Setup				
Data:	PN9	PN15	ALL0	ALL1 REPEAT
Repeat Pattern:	5 [Hex]			
CRC:	ON	OFF	ADD ERR	
Error Ratio:	2.0%	1.0%	0.5%	0.1%
Block Interleaver:	ON	OFF		
Add. Bit Error:	ON	OFF		

図 6-29 Traffic Channel B Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

### **DATA**

リアルタイム・コードへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

- PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
- ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
- REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

### **Rep. Pattern**

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

### **CRC**

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

- ON: 正しいCRCを使用します。
- OFF: CRCをすべて0とします。
- ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

### **Error Ratio**

CRCに付加するエラー比を選択します。

### **Block Interleaver**

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

### **Add. Bit Error**

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。



< Reverse RC3, 4, 5 時 >

### *SCH(TRCH C) Setup*

Traffic Channel C Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Traffic Channel C Parameter Setup					
Data:	<input checked="" type="radio"/> PN9	<input type="radio"/> PN15	<input type="radio"/> ALL0	<input type="radio"/> ALL1	<input type="radio"/> REPEAT
Repeat Pattern:	<input type="text" value="5"/> [Hex]				
CRC:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	<input type="button" value="ADD ERR"/>		
Error Ratio:	<input checked="" type="radio"/> 2.0%	<input type="radio"/> 1.0%	<input type="radio"/> 0.5%	<input type="radio"/> 0.1%	
Block Interleaver:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			
Add. Bit Error:	<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF			

図 6-30 Traffic Channel C Parameter Setup  
ダイアログ・ボックス

### *DATA*

リアルタイム・コーダへの入力データ (Informationデータ) または拡散部への直接入力データ (Physicalデータ) のデータ・パターンを選択します。

- PN9: 9 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- PN15: 15 段の PN 符号データ・パターンを選択します。
- ALL0: すべて 0 のデータ・パターンを選択します。
- ALL1: すべて 1 のデータ・パターンを選択します。
- REP.: 任意 4 ビットの繰り返しデータ・パターンを選択します。

### *Rep. Pattern*

Information/Physicalデータ選択項目REPの任意4ビットについて設定します。[16進数]

### *CRC*

チャンネル・データに付加するCRCを選択します。

- ON: 正しいCRCを使用します。
- OFF: CRCをすべて0とします。
- ADD ERR: CRCにエラーを付加します。

### *Error Ratio*

CRCに付加するエラー比を選択します。

### *Block Interleaver*

Block Interleavingをするか、しないかを切り替えます。

### *Add. Bit Error*

Information/Physicalデータ・パターンに1%のエラーを付加するか、しないかを切り替えます。

### *more 1/2*

Mod.1/2メニューを表示します。

### *Frequency & Level*

Frequency & Levelメニューを表示します。

**Frequency Setup**

Frequency Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Frequency Parameter Setup	
Freq Input:	<input type="radio"/> FREQUENCY <input type="radio"/> CHANNEL No
CH Start Freq.:	<input type="text" value="800.0000 MHz"/>
CH Step Freq.:	<input type="text" value="0.0300 MHz"/>
CH Start No.:	<input type="text" value="1"/>
Step Size:	<input type="text"/>

図 6-31 Frequency Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Freq Input**

周波数入力モードを選択します。

FREQUENCY:

周波数値を直接入力するモード

CHANNEL No.:

チャンネル番号による入力モード

**CH Start Freq.**

チャンネル・スタート周波数を設定します。

**CH Step Freq.**

チャンネル間隔を設定します。

**CH Start No.**

チャンネル開始番号を設定します。

**Step Size**

ステップ・キーおよびデータ・ノブのステップ量を設定します。

**Level Setup**

Level Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Level Parameter Setup	
Unit:	<input checked="" type="radio"/> dBm <input type="radio"/> dBµVemf
Upper Limit:	<input type="text" value="0.0 dBm"/>
Level Offset:	<input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF
Offset Value:	<input type="text"/>
Step Size:	<input type="text" value="5.0 dB"/>
ALC Mode:	<input type="radio"/> AUTO <input type="radio"/> S/H <input type="radio"/> HOLD

図 6-32 Level Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Unit**

設定、表示単位を選択を行います。

dBm: レベル関連の単位を dBm に指定します。

dBµVemf: レベル関連の単位を dBµVemf に指定します。

**Upper Limit**

設定の上限値を設定します。

**Level Offset**

レベル・オフセット機能を有効にするか無効にするかを切り換えます。

ON: レベル・オフセット機能を有効にします。

OFF: レベル・オフセット機能を無効にします。

**Offset Value** レベル・オフセット値を設定します。

**Step Size** ステップ・キーのステップ量を設定します。

**ALC Mode** ALC の動作モードを選択します。  
R3562 の設定状態により、自動的に最適な動作モードが選択されます（詳細は R3562 取扱説明書を参照）。

AUTO: 通常の ALC

S/H: 基準変調パターンによるサンプル&ホールド

HOLD: 基準変調パターン時の ALC 電圧ホールド

注 最適動作モードが選択されていない場合、RF OUT 端子に出力されるレベルがずれることがあります。

#### Other

Other メニューを表示します。

#### Clock & Timing Setup

Clock / Timing Signal Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

Clock/Timing Signal Parameter Setup					
Synth Ref In: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
10MHz Ref Adj.:	0				
MOD-TB In: [MHz]	1	1.2288	2	2.4576	4.9152
	5	9.8304	10	15	19.6608
	INTERNAL				
Clock Out 1:	OFF	20mSec	26.6mSec	80mSec	
	2Sec	5mSec	CHIP CLOCK	EXT EVEN	
Clock Out 2:	OFF	20mSec	26.6mSec	80mSec	
	2Sec	5mSec	CHIP CLOCK	EXT EVEN	

図 6-33 Clock / Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス

**Synthe Ref In** シンセサイザの基準信号を選択します。

1MHz: 外部 1MHz 信号を使用します。

1.2288MHz: 外部 1.2288MHz 信号を使用します。

2MHz: 外部 2MHz 信号を使用します。

2.4576MHz: 外部 2.4576MHz 信号を使用します。

4.9152MHz: 外部 4.9152MHz 信号を使用します。

5MHz: 外部 5MHz 信号を使用します。

9.8304MHz: 外部 9.8304MHz 信号を使用します。

## 6.2 リファレンス

10MHz: 外部 10MHz 信号を使用します。  
 15MHz: 外部 15MHz 信号を使用します。  
 19.6608MHz: 外部 19.6608MHz 信号を使用します。  
 INTERNAL: 内蔵基準信号を使用します。

**10MHz Ref Adj.** 内蔵基準信号の周波数補正量を設定します。

**MOD-TB In** モジュレーション用基準信号を選択します。

1MHz: 外部 1MHz 信号を使用します。  
 1.2288MHz: 外部 1.2288MHz 信号を使用します。  
 2MHz: 外部 2MHz 信号を使用します。  
 2.4576MHz: 外部 2.4576MHz 信号を使用します。  
 4.9152MHz: 外部 4.9152MHz 信号を使用します。  
 5MHz: 外部 5MHz 信号を使用します。  
 9.8304MHz: 外部 9.8304MHz 信号を使用します。  
 10MHz: 外部 10MHz 信号を使用します。  
 15MHz: 外部 15MHz 信号を使用します。  
 INTERNAL: 内蔵基準信号を使用します。

**Clock Out 1/Clock Out 2**

変調タイミング関係の信号を CLOCK OUT 1 および  
 CLOCK OUT 2 コネクタに出力します。

OFF: 出力信号を OFF します。  
 20msec: Traffic Channel frame 周期を出力します。  
 26.6msec: Sync Channel frame 周期を出力します。  
 80msec: Sync Channel Super frame 周期を出力します。  
 2sec: Base Band Block 内部の Even Second 信号を出力します。  
 5msec: FCH、DCCH Channel frame 周期を出力します。  
 CHIP CLOCK:  
   Chip Clock 1.2288MHz を出力します。  
 EXT EVEN: EXT TRIG 端子へ入力された Even Second 信号を出力します。

**Ext I/Q Setup**

External I/Q Parameter Setupダイアログ・ボックスを表示します。

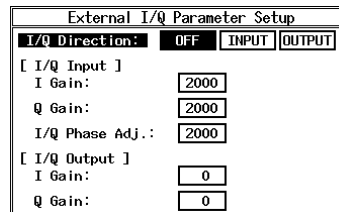


図 6-34 External I/Q Parameter Setup ダイアログ・ボックス

<b>I/Q Direction</b>	RF 出力を変調する I/Q 信号の種類と、I/Q IN/OUT コネクタの機能を選択します。 OFF: 外部への IQ 出力を OFF、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。 INPUT: 外部よりの IQ 信号を IQ モジュレータへ入力します。 OUTPUT: 外部への IQ 出力を ON、内部ベースバンド信号を IQ モジュレータへ入力します。
----------------------	---

注 OUTPUT モードのとき、RF 出力のレベル、変調精度は保証されません。

<b>[I/Q Input]</b>	I/Q Direction で Input を選択した場合のパラメータを指定します。
<b>I Gain</b>	I 信号の入力アンプのゲインを設定します。
<b>Q Gain</b>	Q 信号の入力アンプのゲインを設定します。
<b>I/Q Phase Adj.</b>	I 信号と Q 信号の位相補正量を設定します。
<b>[I/Q Output]</b>	I/Q Direction で Output を選択した場合のパラメータを指定します。
<b>I Gain</b>	I 信号の出力アンプのゲインを設定します。
<b>Q Gain</b>	Q 信号の出力アンプのゲインを設定します。
<b>Cal/Test</b>	Cal/Testメニューを表示します。
<b>AWCN</b>	AWGN レベルと CDMA 信号レベルのキャリブレーションを実行します。実行後、キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。

## 6.2 リファレンス

**AWGN Cal Corr** AWGN キャリブレーション補正モードの ON と OFF を選択します。

ON: キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。

OFF: 補正を行いません。

**Modulator** IQ-Modulator バランスのキャリブレーションを実行します。実行後、キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。

**Modulator Cal Corr**

Modulator キャリブレーション補正モードの ON と OFF を選択します。

ON: キャリブレーションにより得られた補正値を有効にします。

OFF: 補正を行いません。

**Self Test** 自己診断を実行します。

**Save**

Save Register List ダイアログ・ボックスを表示します。レジスタを選択した後、ENTER を押すとセーブを行います。

Save Register List						
No.	I/Q Dir.	Link	Frequency	Level	Output	
1:	OFF	FORWARD	800.000000MHz	33.0dBmVemf	ON	
2:	INPUT	REVERSE	1000.000000MHz	33.0dBmVemf	ON	
3:	empty					

図 6-35 Save Register List ダイアログ・ボックス

**Recall**

Recall Register List ダイアログ・ボックスを表示します。レジスタを選択した後、ENTER を押すとリコールを行います。

Recall Register List						
No.	I/Q Dir.	Link	Frequency	Level	Output	
1:	OFF	FORWARD	800.000000MHz	33.0dBmVemf	ON	
2:	INPUT	REVERSE	1000.000000MHz	33.0dBmVemf	ON	
3:	empty					

図 6-36 Recall Register List ダイアログ・ボックス

**Preset**

設定内容を初期化します。

**Modulation ON/OFF**

RF 出力の変調の ON と OFF を選択します。

ON: RF 出力を送信データで変調します。

OFF: RF 出力を無変調信号にします。

**Output ON/OFF**

RF 出力の ON と OFF を選択します。

ON: RF 信号を出力します。

OFF: RF 信号を停止します。

*Quit*

Rx コントロール・オプションを終了します。

### 6.3 設定例

ここでは、Reverse Link チャンネルの FER 測定を行う場合の R3562 出力信号を設定します。

測定条件： ここでの測定対象を以下に示します。設定値については、測定対象に合った数値を設定して下さい。

出力信号

周波数：	800 MHz
出力レベル：	-80 dBm
リンク：	REVERSE
Radio Configuration:	RC1
Rate:	9.6kbps

機器の接続

1. 下図のように機器を接続します。

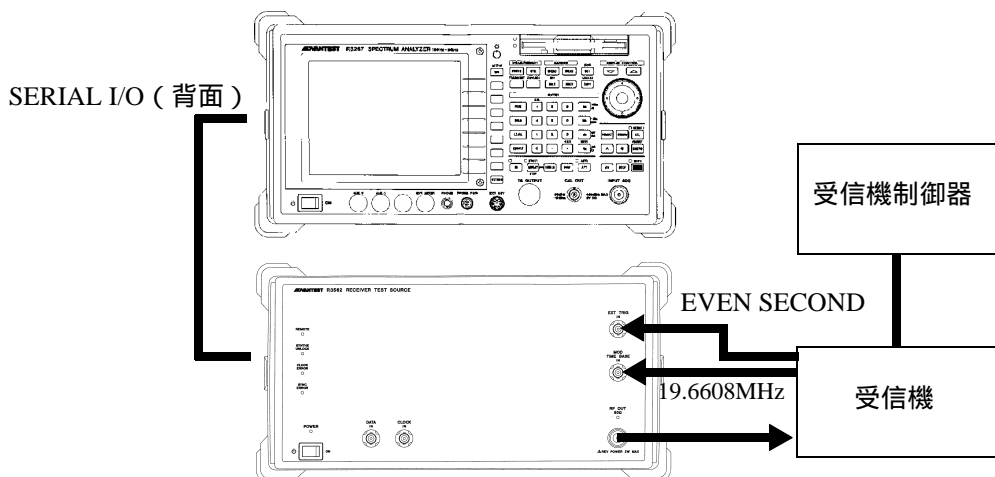


図 6-37 DUT の接続

設定状態の初期化

2. **ADVANCE, Rx Control [R3562], Other, Preset** と押します。

出力信号の設定

3. **FREQ, 8, 0, 0, MHz** と押します。
4. **Level, -, 8, 0, GHz(dBm)** と押します。
5. **Modulation, STD Setup** と押します。  
STD Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。



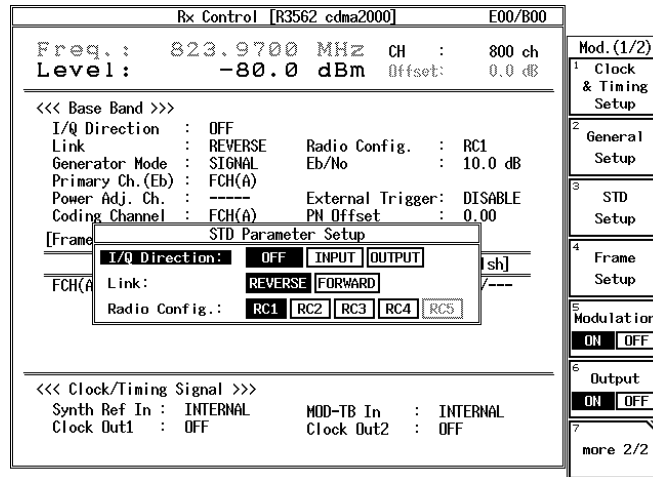


図 6-38 STD Parameter Setup ダイアログ・ボックス

6. 下記の各項目を設定します。

I/Q Direction: OFF  
Link: REVERSE  
Radio Config: RC1

7. **Clock & Timing Setup** を押します。

Clock/Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

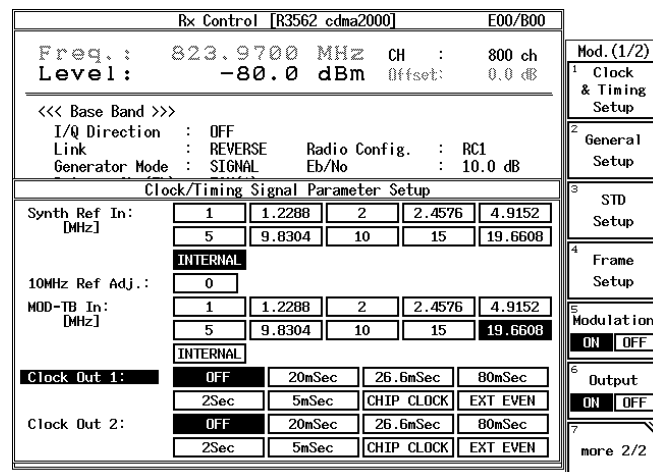


図 6-39 Clock/Timing Signal Parameter Setup ダイアログ・ボックス

## 6.3 設定例

8. 下記の各項目を設定します。

Synthe Ref In: INTERNAL

MOD-TB In [MHz]:  
19.6608

9. **General Setup** を押します。  
General Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

Rx Control [R3562 cdma2000] E00/B00			
Freq.:	823.9700 MHz	CH :	800 ch
Level:	-80.0 dBm	Offset:	0.0 dB
General Parameter Setup <Reverse:RC1/RC2>			
Burst:	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF		
Ext Trigger:	<input checked="" type="checkbox"/> ENABLE <input type="checkbox"/> DISABLE		
PN Offset:	0.00		
Generator Mode:	<input checked="" type="checkbox"/> SIGNAL <input type="checkbox"/> NOISE <input type="checkbox"/> Eb/No		
Eb/No:	10.0 dB		
Primary Ch. (Eb):	FCH(A)		
	[Level]	[Frame]	[Rate]
FCH(A) :	0.0 dB	20.0 mSec	9.6 kbps
			[Walsh]
			---/---
<<< Clock/Timing Signal >>>			
Synth Ref In :	INTERNAL	MOD-TB In :	19.6608 MHz
Clock Out1 :	OFF	Clock Out2 :	OFF

Mod. (1/2)

1 Clock & Timing Setup

2 General Setup

3 STD Setup

4 Frame Setup

5 Modulation  ON  OFF

6 Output  ON  OFF

7 more 2/2

図 6-40 General Parameter Setup ダイアログ・ボックス

10. 下記の各項目を設定します。

Burst: OFF  
EXT Trigger: ENABLE  
PN Offset: 0  
Generator Mode: SIGNAL

11. **Frame Setup** を押します。  
Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

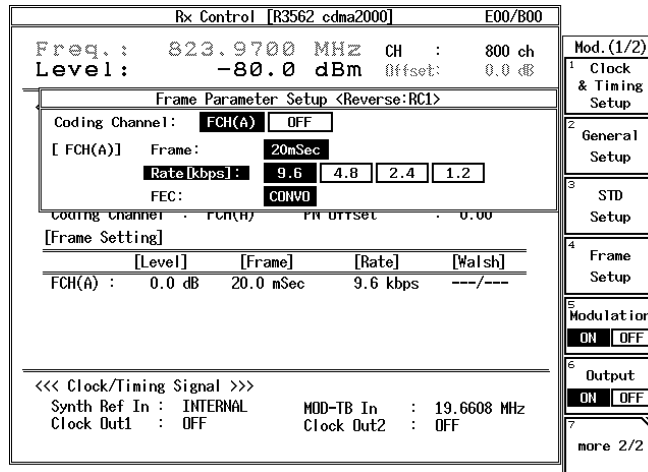


図 6-41 Frame Parameter Setup ダイアログ・ボックス < Reverse: RC1 時 >

12. 下記の各項目を設定します。

Coding Channel:	FCH(A)
[FCH(A)]	
Frame:	20msec
Rate [kbps]:	9.6
FEC:	CONVO

## 6.3 設定例

13. *more 2/2*, *FCH(TRCH A) Setup* を押します。  
Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックスが表示されます。

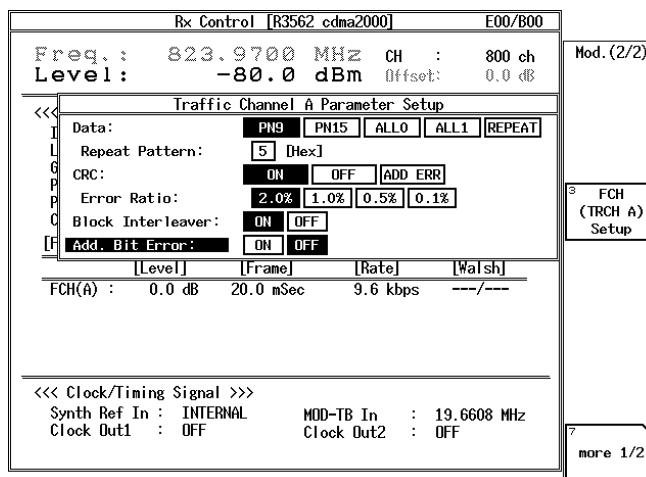


図 6-42 Traffic Channel A Parameter Setup ダイアログ・ボックス

14. 下記の項目を設定します。

Data: PN9  
 CRC: ON  
 Block Inter lever: ON  
 Add. Bit Error OFF





Ext Trigger Setup .....	5-7, 5-23		
External Trigger .....	6-6		
<b>[F]</b>			
FBI Pattern .....	5-7, 5-21		
FCH(TRCH A) Setup .....	6-9, 6-33, 6-38		
FCH(TRCH B) Setup .....	6-9, 6-36, 6-39, 6-42		
FCH(TRCH C) Setup .....	6-9, 6-40		
FEC .....	5-7, 5-19, 5-21, 5-22, 6-26, 6-28, 6-29, 6-32		
Filter .....	3-3, 3-10		
Frame .....	3-3, 3-6, 3-8, 6-26, 6-27, 6-29, 6-32		
Frame A Setup .....	4-4, 4-8		
Frame B Setup .....	4-4, 4-8		
Frame Setup .....	6-25, 6-26, 6-28, 6-30		
FREQ .....	4-6, 5-9, 6-11		
Freq Input .....	4-5, 4-11, 5-8, 5-23, 6-10, 6-44		
Frequency & Level .....	4-4, 4-11, 5-6, 5-23, 6-6, 6-43		
Frequency Setup .....	4-5, 4-11, 5-8, 5-23, 6-10, 6-44		
<b>[G]</b>			
Gating .....	6-9, 6-34		
Gating Rate .....	6-9, 6-34		
General Setup .....	4-4, 4-6, 5-6, 5-11, 6-6, 6-13, 6-15, 6-19, 6-22		
Generator Mode .....	4-4, 4-5, 4-7, 6-6, 6-7, 6-15, 6-16, 6-19, 6-22		
<b>[I]</b>			
I Gain .....	5-8, 5-26, 5-27, 6-10,		
			6-47
I/Q Direction .....	5-6, 5-8, 5-16, 5-26, 6-7, 6-10, 6-25, 6-47		
I/Q Phase Adj. ....	5-8, 5-26, 6-10, 6-47		
I/Q Source .....	4-4, 4-5, 4-8		
Interval .....	3-3, 3-6, 3-8		
<b>[L]</b>			
LEVEL .....	4-6, 5-9, 6-11		
Level Offset .....	4-5, 4-12, 5-8, 5-24, 6-10, 6-44		
Level Ratio .....	4-4, 4-5, 4-8		
Level Setup .....	4-5, 4-11, 5-8, 5-24, 6-10, 6-44		
Level Unit .....	3-3, 3-10		
Link .....	4-4, 4-5, 4-6, 5-6, 5-17, 6-7, 6-25		
<b>[M]</b>			
Menu Assistant ON/OFF .....	4-4, 4-10		
Menu Assistant Setup .....	4-4, 4-10		
Mode .....	3-3, 3-9		
MOD-TB In .....	5-6, 5-8, 5-10, 5-25, 6-6, 6-10, 6-12, 6-46		
Modulation .....	3-3, 3-10, 4-4, 4-6, 5-6, 5-10, 6-6, 6-12		
Modulation ON/OFF .....	4-4, 4-5, 4-11, 4-12, 4-17, 5-6, 5-8, 5-9, 5-17, 5-24, 5-27, 6-6, 6-10, 6-11, 6-32, 6-48		
Modulator .....	4-5, 4-15, 6-10, 6-48		
Modulator Cal Corr .....	6-48		

## 索引

Modulator Cal Corr ON/OFF .....	4-5, 4-15, 6-10	5-6, 5-10, 5-28, 6-6, 6-12, 6-49
<b>[O]</b>		
Offset Value .....	4-5, 4-12, 5-8, 5-24, 6-10, 6-45	
Other .....	4-4, 4-13, 5-6, 5-25, 6-6, 6-45	
Output .....	3-3, 3-10	
Output ON/OFF .....	3-3, 3-6, 3-8, 3-15, 4-4, 4-5, 4-11, 4-12, 4-17, 5-6, 5-8, 5-10, 5-17, 5-25, 5-27, 6-6, 6-10, 6-12, 6-32, 6-48	
<b>[P]</b>		
Parameter Setup .....	3-3, 3-5, 3-7, 3-9, 5-6, 5-9, 6-6, 6-11	
Pattern .....	3-3, 3-12	
P-CCPCH .....	5-6	
PICH Setup .....	6-9, 6-34	
PN Offset .....	4-4, 4-5, 4-8, 6-6, 6-14, 6-16	
Power Adjustment Ch. ....	6-6, 6-7, 6-17, 6-20, 6-23	
Power Control Pattern .....	6-9, 6-34	
Preset .....	4-5, 4-17, 5-8, 5-27, 6-10, 6-48	
Primary Ch.(Eb) .....	6-6, 6-7, 6-15, 6-17, 6-20, 6-22	
PS .....	3-14	
<b>[Q]</b>		
Q Gain .....	5-8, 5-26, 5-27, 6-10, 6-47	
QOF .....	6-32	
Quit .....	3-3, 3-6, 3-9, 4-4,	
<b>[R]</b>		
R3560 との接続 .....	2-2	
R3560 の操作説明 .....	3-1	
R3560、R3561 または R3562 との接続	2-2	
R3561 の操作説明 .....	4-1	
R3561 または R3562 との接続 .....	2-3	
R3562 OPT65 (cdma2000) の操作説明	6-1	
R3562 の操作説明 .....	5-1	
Radio Configuration .....	6-7, 6-25	
Rate .....	3-3, 3-12, 6-26, 6-27, 6-29, 6-32	
Recall .....	3-3, 3-17, 4-5, 4-16, 5-8, 5-27, 6-10, 6-48	
Recall Register List .....	3-3, 4-5, 5-8, 6-10	
Rep. Pattern .....	6-33, 6-35, 6-36, 6-37, 6-38, 6-39, 6-40, 6-41, 6-42, 6-43	
REPEAT .....	5-9, 6-11	
Repeat Pattern .....	6-9	
Rx Control [R3560] .....	3-3	
Rx Control [R3561] .....	4-4	
Rx Control [R3562] .....	5-6, 6-6	
<b>[S]</b>		
SACCH .....	3-3, 3-13	
Save .....	3-3, 3-16, 4-5, 4-16, 5-8, 5-27, 6-10, 6-48	
Save Register List .....	3-3, 4-5, 5-8, 6-10	
SCH(TRCH A) Setup .....	6-9, 6-41	
SCH(TRCH C) Setup .....	6-9, 6-43	
SCH1(TRCH C) Setup .....	6-9, 6-37	
SCH2(TRCH A) Setup .....	6-9, 6-35	
Scramble .....	3-3, 3-13	
Scramble Code .....	3-3, 3-14	
Scrambling Code .....	5-6, 5-12, 5-14	
Self Test .....	4-5, 4-16, 5-8, 5-27, 6-10, 6-48	



Sens .....	3-3, 3-7	Walsh No. ....	6-28, 6-29, 6-32
SINGLE .....	5-9, 6-11		
Slot .....	3-3, 3-12		
Slot Config .....	3-3, 3-10		
Slot Setup .....	3-3, 3-12		
START .....	5-9, 6-11		
Start .....	3-3, 3-8		
STD Setup .....	5-6, 5-16, 6-6, 6-25		
Step .....	3-3, 3-8		
Step Size .....	4-5, 4-11, 4-12, 5-8, 5-24, 6-10, 6-44, 6-45		
STOP .....	5-9, 6-11		
Stop .....	3-3, 3-8		
Sync ON/OFF .....	3-3, 3-6, 3-9		
Sync Word .....	3-3, 3-15		
Synth Ref .....	4-5, 4-14		
Synthe Ref In .....	5-6, 5-8, 5-10, 6-6, 6-10, 6-12, 6-45		
<b>[T]</b>			
Target BER .....	3-3, 3-8		
TFCI .....	5-7, 5-18, 5-20		
TPC Insert .....	5-7, 5-17, 5-20		
TPC Repeat Count .....	5-7, 5-17, 5-20		
Traffic PRBS .....	4-4, 4-10		
Trig Polarity .....	3-3, 3-10, 5-7, 5-23		
Trigger Delay .....	3-3, 3-11, 5-7, 5-23		
<b>[U]</b>			
Unit .....	4-5, 4-12, 5-8, 5-24, 6-10, 6-44		
Upper Limit .....	4-5, 4-12, 5-8, 5-24, 6-10, 6-44		
User Scramble .....	3-3, 3-14		
User Scramble Code .....	3-3, 3-14		
<b>[W]</b>			
Walsh Len .....	6-28, 6-29, 6-32		
<b>[か]</b>			
概要 .....	3-1, 5-1, 6-1, 4-1		
機能説明 .....	3-4, 4-6, 5-9, 6-11		
<b>[さ]</b>			
使用開始の前に .....	2-1		
シリアル・ポートの設定 .....	2-4		
設定例 .....	6-50		
測定例 .....	5-29		
測定例 (BER 測定) .....	3-18		
<b>[は]</b>			
付属品の確認 .....	2-1		
<b>[ま]</b>			
メニュー・マップ .....	3-3, 4-4, 5-6, 6-6		
メニュー・インデックス .....	3-2, 4-2, 5-4, 6-3		
<b>[ら]</b>			
リファレンス .....	3-2, 4-2, 5-4, 6-3		

# 本製品に含まれるソフトウェアのご使用について

本製品に含まれるソフトウェア（以下本ソフトウェア）のご使用について以下のことにご注意ください。

ここでいうソフトウェアには、本製品に含まれる又は共に使用されるコンピュータ・プログラム、将来弊社よりお客様に提供されることのある追加、変更、修正プログラムおよびアップデート版のコンピュータ・プログラム、ならびに本製品に関する取扱説明書等の付随資料を含みます。

## 使用許諾

本ソフトウェアの著作権を含む一切の権利は弊社に帰属いたします。

弊社は、本ソフトウェアを本製品上または本製品とともに使用する限りにおいて、お客様に使用を許諾するものといたします。

## 禁止事項

お客様は、本ソフトウェアのご使用に際し以下の事項は行わないで下さい。

- 本製品使用目的以外で使用する
- 許可なく複製、修正、改変を行う
- リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルなどを行う

## 免責

お客様が、本製品を通常の用法以外の用法で使用したことにより本製品に不具合が発生した場合、およびお客様と第三者との間で著作権等に関する紛争が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

# 保証について

製品の保証期間は、お客様と別段の取り決めがある場合を除き、製品の納入日(システム機器については検収日)から1年間といたします。保証期間中に、当社の責めに帰する製造上の欠陥により製品が故障した場合、無償で修理いたします。ただし、下記に該当する場合は、保証期間中であっても保証の対象から除外させていただきます。

- 当社が認めていない改造または修理を行った場合
- 当社指定品以外の部品を使用した場合
- 取扱説明書に記載する使用条件を超えて製品を使用した場合(定められた許容範囲を超える物理的ストレスまたは電流電圧がかかった場合など)
- 通常想定される使用環境以外で製品を使用した場合(腐食性の強いガス、塵埃の多い環境等による電気回路の腐食、部品の劣化が早められた場合など)
- 取扱説明書または各種製品マニュアルの指示事項に従わずに使用された場合
- 不注意または不当な取扱により不具合が生じた場合
- 消耗品や消耗材料に基づく場合
- 火災、天変地異等の不可抗力による場合
- 日本国外に持出された場合
- 製品を使用できなかったことによる損失および逸失利益

当社の製品の保証は、本取扱説明書に記載する内容に限られるものとします。

# 保守に関するお問い合わせについて

長期間にわたる信頼性の保証、国家標準とのトレーサビリティを実現するためにアドバンテストでは、工場から出荷された全製品の保守に対し、カスタム・エンジニアを配置しています。

カスタム・エンジニアは、故障などの不慮の事故は元より、測定器の長期間にわたる性能の保証活動にフィールド・エンジニアとしても活動しています。

万一、動作不良などの故障が発生した場合には、当社サービス・インフォメーション・センタ(SIC)にご連絡下さい。

## 製品修理サービス

- 製品修理期間  
製品の修理サービス期間は、製品の納入後10年間とさせていただきます。
- 修理サービス活動  
当社の電子計測器に故障が発生した場合、当社に送っていただく引取り修理、または当社技術員が現地に出張しての出張修理にて対応いたします。

## 製品校正サービス

- 校正サービス  
ご使用中の製品に対し、品質および信頼性の維持を図ることを目的に行うもので、校正後の製品には校正ラベルを貼付し、品質を保証いたします。
- 校正サービス活動  
校正サービス活動は、当社サービス・インフォメーション・センタ(SIC)に送っていただく引取り校正、または当社技術員が現地に出張しての出張校正にて対応いたします。

## 予防保守のおすすめ

製品にはエレクトロニクス部品およびメカニカル部品の一部に寿命を考慮すべき部品を使用しているため、定期的な交換を必要とします。適正な交換期間を過ぎて使用し発生した障害に対しては、修理および性能の保証ができない場合があります。

アドバンテストでは、このようなトラブルを未然に防ぐため、予防保守が有効な手段と考え、予防保守作業を実施する体制を整えています。

各種の予防保守を定期的実施することで、製品の安定な稼働を図り、不意の費用発生を防ぐため、年間保守契約による予防保守の実施をお勧めいたします。

なお、年間保守契約は、製品、使用状況および使用環境により内容が変わりますので、最寄りの弊社営業支店にお問い合わせ下さい。

## 免責について

製品の不具合、欠陥によりお客様が損害を蒙った場合の当社の責任は、本取扱説明書に明記されているものに限定されるものとし、かつ、それらがお客様の指示または仕様書等に起因する場合、またはお客様の支給するもしくは指定する部品等に起因する場合、当社は、直接または間接を問わず、お客様に生じた一切の損失、損害、費用等について免責とさせていただきます。

——— 先端技術を先端で支える ———

# ADVANTEST®

## 株式会社アドバンテスト

本社事務所	163-0880	新宿区西新宿2-4-1 (新宿NSビル内私書箱第6069号)	☎ (03)3342-7500 FAX (03)5322-7270
通信営業統括部	213-0011	川崎市高津区久本3-5-7(ニッセイ新溝の口ビル)	☎ (044)850-0500
計測器第1営業部	179-0071	練馬区旭町1-32-1	☎ (03)3930-4196
計測器第2営業部/第3営業部	213-0011	川崎市高津区久本3-5-7(ニッセイ新溝の口ビル)	☎ (044)850-0500
NTT営業部	179-0071	練馬区旭町1-32-1	☎ (03)3930-4127
東支社	163-0880	新宿区西新宿2-4-1(新宿NSビル内私書箱第6069号)	☎ (03)3342-8245
東京支店	163-0880	新宿区西新宿2-4-1(新宿NSビル内私書箱第6069号)	☎ (03)3342-8245
公共営業部	163-0880	新宿区西新宿2-4-1(新宿NSビル内私書箱第6069号)	☎ (03)3342-8245
JR営業部	163-0880	新宿区西新宿2-4-1(新宿NSビル内私書箱第6069号)	☎ (03)3342-7513
水戸支店	310-0041	水戸市上水戸2-9-3	☎ (029)253-5121
仙台支店	989-3124	仙台市青葉区愛子字松原48-2	☎ (022)392-3103
関東支社	213-0011	川崎市高津区久本3-5-7(ニッセイ新溝の口ビル5F)	☎ (044)850-0500
神奈川支店	213-0011	川崎市高津区久本3-5-7(ニッセイ新溝の口ビル5F)	☎ (044)850-0500
関東支店	179-0071	練馬区旭町1-32-1	☎ (03)3930-4002
西東京支店	190-0012	立川市曙町2-22-2Q(立川センタービル8F)	☎ (042)526-9520
西支社	564-0062	吹田市垂水町3-34-1	☎ (06)6385-6611
大阪支店	564-0062	吹田市垂水町3-34-1	☎ (06)6385-6611
名古屋支店	464-0850	名古屋千種区今池4-1-2Q(ニッセイ今池ビル)	☎ (052)731-6100
金沢支店	920-0852	金沢市此花町7-8	☎ (076)262-7545
岡山支店	700-0904	岡山市柳町1-12-1(三井海上岡山ビル)	☎ (086)234-9310
九州支店	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-5-7(博多センタービル)	☎ (092)461-2300

## 製品に関するお問い合わせ先

カスタム・インフォメーション・センタ(CIC) ☎ TEL 0120-041486  
FAX 0120-334275

## 保守(修理・校正)に関するお問い合わせ先

サービス・インフォメーション・センタ(SIC) ☎ TEL 0120-120287  
FAX 0120-057508

大阪テクニカル・サービス・センタ TEL 06-6385-6613  
FAX 06-6385-7751